

阪大 一地域に生き世界に伸びる一

NOW



2012

4

No.131

トピックス

平成24年度入学式挙行

クローズアップ

超域イノベーション博士課程プログラム

— 専門力と汎用力を兼ね備えた新しい博士人材養成への挑戦 —



2012 4月号
No. 131

目次

トピックス	2
入学式告辞	4
クローズアップ	8
役員室だより	12
80周年	18
ナウススペシャル	20
キャンパスニュース	22
記念講義報告	37
表彰等	45
人事	49
職員インタビュー	61
海外拠点だより	62
海外レポート	64
交流協定大学・編集後記	66
クラブ&サークル	67
トピックス	68



幼児ロボット "Affetto"

表紙写真：柔軟な身体機構と写実性を備える幼児ロボット "Affetto" の背面機構

浅田稔教授率いる研究室では、人間の子供が様々な能力を発達させていく過程を参考にした学習の仕組みを検討し、人間のように知的な人工物を実現するための設計論の構築と人間の知能の科学的理解を統合的に進めていこうとしています。このロボットは、他者との密接な触れ合いの中で機能する学習の仕組みが実際にどう動くのかを確かめるために、空気圧で柔らかく動作し、また幼児に似た印象を持つように、同研究室の石原尚特任研究員によって開発中のものです。

表紙デザイン：株式会社ココティエ

トピックス

平成 24 年度

入学式挙行



平成 24 年度入学式が、4 月 3 日（火）に大阪城ホールで挙行され、学部 3529 名、大学院 2983 名が大阪大学に入学しました。あいにくの天候となりましたが、会場を満席にする新入生および保護者の方がホールに集まりました。

式では、新入生を代表して工学部の藤林祥大さん、大学院基礎工学研究科の浅野元紀さんがそれぞれ宣誓を行いました。

続いて、平野俊夫総長から、「今日の感激を忘れずに、人生における目の前の山を登り切り、大いなる志をもって一人ひとりの夢を実現してほしい」と告辞があり、学部長・研究科長等の紹介の後、入学を祝し本学混声合唱団が「大阪大学学生歌」を、男声合唱団がシュトゥッツ作曲「フライエ・クンスト」をそれぞれ合唱し、閉式となりました。

引き続き、オリエンテーションが行われ、学生生活全般についての説明の後、本学応援団による新入生歓迎エールがあり、日程を終了しました。

入学式での総長告辞は次ページのとおりで。

（総務企画部総務課）



工学部 藤林祥大さん



基礎工学研究科 浅野元紀さん

平成24年度入学式総長告辞

「目の前の山を登りきる」

本日、3529名の学部生、2983名の大学院生のみなさんを大阪大学にお迎えいたします。ここに集われたみなさん、入学ならびに進学おめでとうございます。また、ご臨席いただきましてご家族のみなさまに心よりお祝い申し上げます。



あらゆる可能性を秘めた前途洋々たる皆さんが、大阪大学の一員として、あらたな人生を歩むその瞬間に立ち会うことができ、大阪大学総長としてこれほど嬉しいことはありません。

はじめに、皆さんがこれから過ごす、この大阪大学について、少しお話をいたします。大阪大学は「大阪にも帝国大学を」という地元大阪府民の熱意と関係者の努力により、帝国大学にも関わらず、創立の準備金や当座の運営資金を大阪の有志で手配したという歴史を持つ大学です。その大阪大学の原点は、江戸時代末期の1838年に緒方洪庵が設立した「適塾」に見いだせます。外国語学部のルーツである大阪外国語学校出身の司馬遼太郎氏が小説『花神』の冒頭で、適塾を大阪大学の「前身」、緒方洪庵を「校祖」と表現しています。

適塾には、全国各地から1000名余の塾生が集まり、緒方洪庵のもとで、昼夜なく必死に勉学に励みました。塾頭を務め、後に慶応義塾大学を創設した福沢諭吉は、彼の自伝の中で、「ただ六つかしければ面白い、苦中有楽、苦即楽という境遇であった。」すなわち、「苦しいなかには楽しみがあった、苦しいことがそのまま楽しみであった」と述べ、当時の大坂は江戸のように、士官への途があり大名から仕事に来るわけでもないのに、塾生は皆、ひたすらに勉学に勤しみつつ、その苦学を楽しんでいたと回顧しています。彼らは身分秩序の厳しい故郷を離れて、大坂の地でのびのびと青春を謳歌していたのです。

また、福沢諭吉の次に塾頭となり、我が国の医療制度・

公衆衛生制度の基礎を築いた長与専斎は、「松香私志」のなかで、適塾で学んだ時代を、「この塾は適塾と称へ、四方より来たり学ぶもの常に百人を超え、四時輪講絶ゆることなく当時全国第一の蘭学塾なりき」と述べております。この言葉は、当時の適塾に対する評価を如実に表しています。

大阪大学医学専門部の卒業生で、ブラックジャック、鉄腕アトムなどで有名な漫画家の手塚治虫氏が自らのルーツを描いた「陽だまりの樹」という作品があります。このなかで描かれている手塚良庵は手塚治虫の曾祖父で、緒方洪庵の弟子として福沢諭吉らとともに学んだ蘭方医です。手塚良庵は種痘の普及や当時「こもり」とよばれて恐れられていたコレラの治療に命を注ぎました。緒方洪庵の教えである、「人の為に生活して、己のために生活せざるを医業の本體とす」や、「病者に対しては唯病者を視るべし。貴賤貧富を顧みる事なかれ」、すなわち「人のため、世のため、国のため、道のため」という精神にもとづき、彼らは明治維新という大変革の時代を信念とともに生き抜きました。

このように適塾の自由闊達な学問的気風と先見性の下で学んだ若い有志が、明治維新という我が国の新しい時代を切り開く大きな原動力になり、その適塾の精神は大阪仮病院に継承され、大阪医学校や大阪府立医科大学を経て、1931年に医学部と理学部の2学部からなる我が国6番目の帝国大学である大阪帝国大学へと繋がります。その後1933年には大阪工業大学が工学部として加わりました。戦後、新たに法文学部が加わった際に、江戸時代後期、大坂町人が町人のために漢学と国学などを伝習した「懷徳堂」の蔵書類が、懷徳堂文庫として本学に寄贈され、大坂の町に息づいた独創的な学問と思想・文化を受け継ぐに至りました。1949年に新制国立大阪大学として再スタートした際には、法文学部を文学部と法経学部へ改組し、現在の総合大学としての骨格が整いました。その後、法経学部は、法学部と経済学部へ整備され、歯学部、薬学部、基礎工学部や人間科学部などを新設し、2004年の国立大学法人化を経て、2007年には、外国語教育における西の雄である大阪外国語大学との統合により、現在、11学部、16研究科、





5つの附置研究所を擁する我が国屈指の総合研究大学に成長いたしました。

1931年の本学開学当時、医学部と理学部あわせて86名だった新入生数は、80年を経て、学部学生の定員では国立大学の第一位となり、本日、実に3529名の学部学生の皆さんをお迎えしています。

このように、174年前に設立された「適塾」を原点として、「懷徳堂」の精神を受け継ぎ、大阪府民の熱意に支えられた本学は、「地域に生き世界に伸びる」をモットーに、我が国を代表する総合大学として、世界に向かってたゆみなく発展を遂げるとともに、数多くの優れた研究者、教育者、文化人、そして政財界など各界の指導者や卓越した人材を世に輩出してきました。皆さんは、本日より、この大阪大学の新たな歴史の1ページを我々と共に書き継ぐとされている訳です。

今日、皆さんは全国から未来や夢、様々な思いを胸に大阪大学に入学されました。皆さんにとっての大学とはなんでしょう？

皆さんは小学校、中学校、そして高等学校などで勉学に励んでこられました。しかし、幼い頃には不思議に感じていたことで、大人になるにつれて、いつの日か「そういうものだ」と思考を中断してしまったものがあると思います。たとえば、宇宙はどのようにして誕生したのか？人はなぜ病気になるのか？なぜ蝶はあれほどきれいな模様をしているのか？なぜ日本という国があり、それと同様に世界には様々な国があるのか？確かな答えがわからない事は無数にあります。これらの疑問は素朴であるが故に、多くの皆様はいつしか疑問すら抱かなくなったと思います。大学とは、このような知識を積み重ねるだけでは解けない疑問、未だ人類が答えを知らない疑問に対する解答を探ところです。答えを見つけるのは、他でもない皆さん一人一人です。皆さんが、様々な疑問を掘り起こし、その答えを見つけ出すところです。言い換えれば「物事の本質を見極める」ところが大学であり、学問です。物事の本質を見極めるための「能力」を養うところが学部とすれば、大学院は、知の創造をするところ、すなわち専門性をさらに極めて、物

事の本質を自ら「見極める」ところです。

一年前に日本を襲った未曾有の東日本大震災と、それに引き続いておこった原子力発電所の事故、また世界に目を向けると、ギリシャに端を発した経済危機や世界各地での政治の混乱、タイの大洪水など、今、人類は、かつて経験したことがない、地球規模の大きな変化に直面しています。産業革命により始まった豊富な物質文明に根ざした現代社会は、人類繁栄の代償として地球規模でありとあらゆるものを急激に変化させてきました。化石燃料の枯渇化は現実問題化しています。エネルギー問題の切り札であったはずの原子力発電も危うさが指摘されています。地球規模での温暖化などの環境問題、感染症拡大の問題は新たな危機として認識されています。そして、医学の発展や社会環境の改善は結果として爆発的な人口増加を招き、その先には食料問題や、先進国を中心に急激に進む超高齢化社会への対応がすぐ目の前の問題として押し寄せてきています。今までのように、科学技術の力で自然を征服するという発想ではなく、如何にすれば人類は自然と共生できるかを真剣に考えなければなりません。また老・病・死など人間が避けて通れない問題も、今までは生命科学や医学の発展により克服するという姿勢で研究が行われてきました。しかしそのような発想を転換し、どのようにすれば人類はこれらの問題と共生し心安らかな人生を全うできるかを、見つめなおさなければなりません。現在ほど「物事の本質を見極める」ことが求められている時代はないのではないのでしょうか？単なる目先の解決策ではこれらの問題は決して解決できません。ましてこれらを科学技術の力のみで克服できるという考えは人類の夢に過ぎません。これらの問題に潜む本質を見極め、物事を解決する方策を考える必要があります。

では、どうすれば「物事の本質を見極める能力」を養うことができるのでしょうか？そのために大学の講義から今までよりも広く、深い知識を得ることは言うまでもありません。しかし、最も重要なことは、その機会を皆さん自らが求めることです。授業以外でも、たとえば、皆さんが大学で行う様々なクラブ活動、NPO 法人活動への参加、夏期





休暇を利用した海外研修など、大学のキャンパスや周辺にその機会は山ほどあります。大学院生の皆さんにとっては、実験やフィールド調査等を介して、より具体的に目の前の自然現象や社会現象に潜む物事の本質を追求する機会が溢れています。また、その機会を決して逃さないことです。その機会をものにできるか否かは皆さん一人一人の感性、好奇心、観察力、考察力、粘り強さ、長時間考える集中力と、そこから芽生える「ひらめき」にかかっています。今までのように先生が一つ一つ物事を教えてくれる訳ではありません。大学教員も真の答えを求めて日夜研究している問題は無数にあります。ただ机に座って授業を受けていればそれで物事の本質がわかる訳ではありません。また、物事の本質が皆さんのもとに向こうから微笑んで近づいてくる訳ではありません。それは、自ら求め、心の準備ができている人にのみ、ある日、ある時、突然訪れるのです。

私がそのように考えるに至った言葉を皆さんに紹介します。

1つ目は大阪大学の第11代総長で免疫学・内科学の山村雄一先生の言葉です。

「夢見て行ない 考えて祈る」

山村先生からいただいた直筆の色紙には、「未来への夢と希望、行動力と考えることの重要性、そして人間の能力を超えた自然へ謙虚な気持ちと人生への果てしない祈り」が優しさと共に生きづいています。考えてばかりいる、情報ばかり収集しているだけでは、独創的な事は生まれません。信念を持って行動に移し、新しいことを発見したとき、それがどれだけ素晴らしいかは、人間が判断できるものではありません。研究で壁にぶつかったときに、この言葉を唱えると心が休まるとともに、未来への希望が溢れてきます。私はこの言葉が大好きです。



次に、大阪大学の初代総長で、我が国における素粒子物理学の父であり、長岡・ラザフォード原子模型を提唱した長岡半太郎先生の言葉です。

「糟粕を嘗る勿れ」

長岡先生はこの言葉を直筆の額として本学に残されており、現在、それは総長室に掲げられています。糟粕とは酒の搾りかすで、滋養をとりきった不要物、精神のない遺物などを意味します。「糟粕を嘗る勿れ」とは、すなわち「作った人の精神を汲み取らず、形だけをまねるようなことはするな」という意味です。貴重な大学生活を、受け身のまま過ごすのではなく、どうか人と違う、自分らしさを見出し、「物事の本質を見極める能力」を身につけて下さい。

最後になりましたが、私自身の経験に基づき皆様にお伝えしたい言葉があります。私は、学生の時には、国内の多くの山に登りました。その後の長い研究生活の中で、研究と対峙する自分の姿と学生時代の山登りの実体験を照らし合わせて、自分自身に言い聞かせてきた言葉です。

「目の前の山に登りきる」

という言葉です。

皆さんは、今、大阪大学に入学という一つの大きな山の頂に立っています。皆さんはその頂に、どのような思いで立っているのでしょうか？ここまでの長い道のりを思い出ししながら、感慨に耽り目の前の新しい景色を見つめているのかもしれませんが。あるいは、これから挑戦しなければならない、眼前に聳え立つ山々を仰いでいるかもしれません。皆さん一人一人が見ている景色は様々で異なることでしょう。しかし、皆さんに共通しているのは、その景色は皆さんが今まで見たこともない、経験したこともない景色であるということです。

私は、常日ごろ学生さんや若い人と話す機会があると、「目の前の山に登りきる」ことの重要性を語ってきました。山に登るだけでは得られない経験が頂上まで「登りきる」

ことで得られるのです。皆さんの前には登るべき山として常に越えなければならない試練や困難、あるいは叶えたいと強く願う志や夢があるはずです。人は夢を心に、あるいは未来への希望を胸に目の前の試練や障害を乗り越えて行こうと努力し、そして目の前に聳えている山を登って行きます。

人生における山では、頂上に立って初めてその山の高さがわかります。何より重要なことは、たとえ登りきった山が低い山であったとしても、登りきることで、今まで見たこともない景色を見ることができるということです。これから進むべき道が、挑戦するべき山が展望できるのです。皆さんが富士山に登っているとしましょう。そして、9合目までたどり着いたと想像してください。富士山なら9合目につけば必ず標識があります。そこにたどり着いた人は、いくら疲労していても、いくら困難を伴い、体力の限界に近づいているとしても、特別な事情がない限り必ず富士山頂上に立つはずです。しかし、人生における登山では、どこにも標識はありません。今、自分が9合目にいるのか、あるいは1合目なのかは、誰にもわかりません。頂上に立ったとき、「自分が頂上に立ったこと」を初めて知るので。頂上は、それを求める努力をし、必ずあると信じている人の前に、突如現れます。それは心の準備ができている人に突如訪れる「ひらめき」そのものです。人生の山登りにおいては、その途中であきらめて下山してしまうことが多々おこります。

皆さんは本日晴れて1つの山の頂に立つことの喜び、その意味、そしてその先に広がる未来という素晴らしい景色を展望できることを実感しておられるはずです。1回でも苦しいプロセスを経て頂上に立つことができた人と、途中で下山した人では、大きな違いが生じます。今回の経験を



忘れることなく、これからも目の前の山を一つ一つ登りきる努力を怠らず、目指すべき山の頂に立って欲しいと思います。長い人生では山もあれば、谷もあります。たとえ谷底に落ちて、それは次の山登りの絶好のチャンスと捉えて、次の山を目指せばいいのです。いつまでも未来への希望と夢を失うことなく、皆さんそれぞれの目の前の山を登りきってください。

君たちにあって私に無いもの、それは、未来という無限の可能性です。すなわち、若き希望です。君たちの目の輝きそのものです。これは若い今だからこそ天から与えられた可能性なのです。どうぞ、この瞬間の、この感激を忘れずに、大いなる志をもって、君たち一人ひとりの夢を実現させてください。

君たちが夢を実現させて下さることを強く念じて私からの告辞とさせていただきます。

平成 24 年 4 月 3 日

大阪大学総長 平 野 俊 夫



超域イノベーション博士課程プログラム

－専門力と汎用力を兼ね備えた新しい博士人材養成への挑戦－

今日のグローバル社会には、環境、エネルギー、貧困、高齢化、差別などの問題、国際経済秩序の再編、国際的な法秩序の形成など、国民国家の枠組みを超えたグローバルな取り組みが求められる課題が山積しています。これらの諸問題は、人類と地球の持続可能性に関わるものであり、今後数十年を掛けて、既存の領域を超えた新たなアプローチを構想し、人類協働の取組を展開することによってしか解決できません。また、日本国内に目を転じれば、グローバル化の進展、中国やインド、ブラジルなど新興国の台頭による国際的な産業競争の激化、急速な少子高齢化による国内市場の縮小、国際社会における地位の低下など、いわゆる失われた 20 年の間に進行した社会の閉塞感は深刻です。平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災においては危機的状況への対応能力の不足が露呈しました。これらの状況とも相まって、新たな博士人材を求める声が各方面で高まっています。

すなわち、従来の博士課程教育では、ある限定された分野において高い専門性を有する人材、エキスパートの養成が目的とされてきました。しかし、今や、専門分野は際限なく細分化・ボーダレス化しており、上記のような諸課題は、それぞれが深刻であるのみならず、多くの専門分野にまたがっていることが特徴です。このため、ある特定の分野で高い専門性を有することはもちろん、全体的に俯瞰してその専門性を別の分野で活かしながら、複雑で大規模な課題の解決に向けて挑んでいく力を持った新しいタイプの人材への需要が高まっています。

◆博士課程教育リーディングプログラム

そういった現状を踏まえ、文部科学省は平成 23 年度より、俯瞰力と独創力を備えた優秀な学生を広く産学官にわたってグローバルに活躍するリーダーへと導く、専門分野の枠を超えた博士課程前期・後期一貫の学位プログラムの構築を支援することを目的として「博士課程教育リーディングプログラム」を実施することになりました。

この博士課程教育リーディングプログラムは、養成すべき人材像及び解決すべき課題の分類に応じて、「オールラウンド型」、「複合領域型」、「オンリーワン型」の 3 つの類型に分かれています。このうち、「オールラウンド型」の 3 拠点の 1 つとして、大阪大学が提案した「超域イノベーション博士課程プログラム」が、京都大学による「京都大学大学院思修館」、慶應義塾大学による「超成熟社会発展のサイエンス」とともに採択され、この 3 大学のなかでは最も早く、平成 24 年 4 月 1 日より、「超域イノベーション博士課程プログラム」が開設されました。

本プログラムは、総長直轄の「未来戦略機構」の一部門（第一部門）と位置付けられています。大阪大学の総力を結集するのみならず、政財官界からの多様な人材の参加を得て、そしてなにより、学生自身の企画運営への参画により、グローバルに活躍する博士人材の養成に向けて、これまでの大学院教育に囚われない、新しい時代の学位プログラムを構築します。

◆超域イノベーション博士課程プログラムの理念

大阪大学が全学を挙げて取り組む「超域イノベーション博士課程プログラム」は、専門領域、国境、既成観念、相場観といったわれわれの行動や考え方を暗黙のうちに制約している「境域」を超えて、社会システムの変革を導くイノベーション、すなわち、“超域イノベーション”をけん引できる新しいタイプの博士人材の養成を目指しています。高い専門力に加えて、超域することでその専門力をさまざまな分野に活用するための汎用力を持った博士人材（高い専門力と汎用力を兼ね備えた人材）の養成を目指しています。すなわち、専門や領域を「超えることでしか生まれない」を生み出す「超域イノベーション」人材が必要だと考えました。

大阪大学の前身である適塾では、若者が、医学という専門を深く追求しながら、その学習に不可欠な蘭語という汎用力の修得を通じて切磋琢磨し勉強しました。その後彼らは、医学以外の広い分野でオールラウンドプレーヤーとなり、仲間のネットワークを活かし、明治維新、その後の近代日本の成立に大きく寄与しています。

超域イノベーション博士課程プログラムでは、この適塾のすがたを理想として掲げることにより、

- 1) 高度な「専門力」を軸として、
- 2) 領域を超えた俯瞰的視点から未知の問題や複合的な諸問題について課題を設定し、
- 3) “解決のためのモデル”を描き出し、

4) 多様なネットワークやリソースを動員して、
5) 適切なタイミングで実行を決断できる、「汎用力」を持つ
超域イノベーション人材の育成に挑戦します。また、そのよ
うな人材は、多様なネットワークやリソースを動員するた
めに、専門家として非専門家が「何が分からないのか」を理解し、
「どうすれば伝わるのか」を考える力を持ち、説得力や、統率
力など、従来いわれてきた博士人材が備えるべき資質だけ
ではなく、弱者を理解し、目配りのできる人間関係形成能力を
持つことによって、優秀な協力者と強力なフォロワーや多数
の賛同者を得ていかなければなりません。

超域イノベーション博士課程プログラムは、上記のような
新たな博士人材の育成に向けて、大阪大学のいずれかの研究
科の博士課程に入学する学生が研究科を超えて参画する5年
一貫の学位プログラムとして開設されました。参画する学生
は、所属する研究科での専門教育に加えて、本プログラムの
コースワークを履修します。本プログラムを修了し、専門分
野の学位を授与された者には、

超域イノベーション博士課程プログラムにより
本学大学院〇〇研究科△△専攻の博士課程を修了したので
博士（□□）の学位を授与する。

(ただし、〇〇は研究科名、△△は専攻名、□□は学位の分野名)

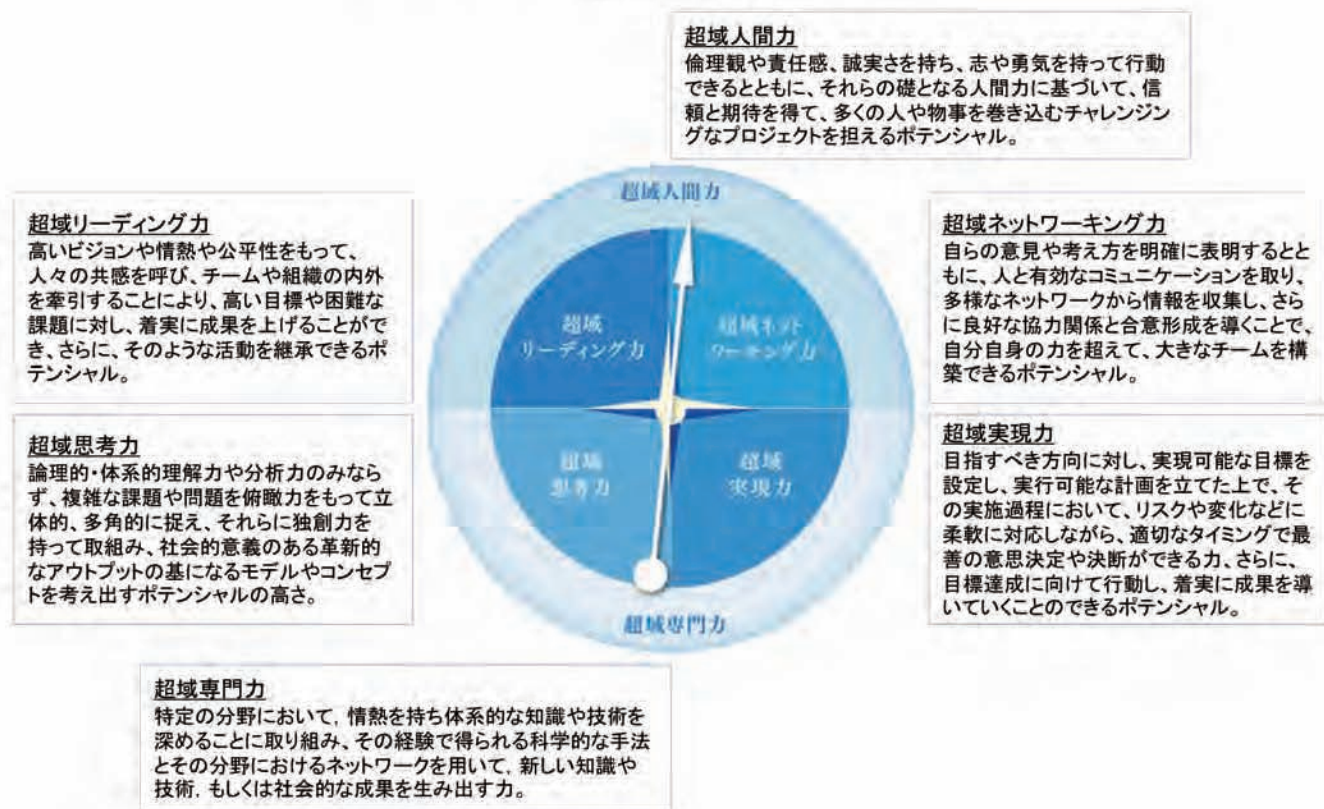
と記載された学位記が交付されます。

◆目標とされる人材像：超域コンパス－X-COMPASS－

超域イノベーションをリードする人材に備わっている
べき資質やスキルの指標、私たちはそれを超域コンパス
(X-COMPASS: Cross(X)-boundary Components Of Mastery,
Performance, Attitude, Skill Sets, クロスコンパス) と名
付けました。超域コンパスという明確な指標には、それに超
域を目指していく航海を成功に導いてくれる羅針盤の役割を
果たしてほしいという思いが込められています。

超域イノベーション博士課程プログラムでは、超域コンパ
スが示す6つの力を基準として、選抜ならびに、2年次終了時

超域コンパス －X-COMPASS－ 6つの力



超域イノベーション博士課程プログラムで目標とされる人材像

点と3年次終了時点に、それぞれ、Preliminary Qualifying Examination (Pre-QE) と Qualifying Examination (QE) と称する進級のための審査を行います。超域イノベーション博士課程プログラムに学ぶ人は、超域コンパスの6つの力に照らし合わせて、自身の成長を確認したり、資質やスキルを伸ばしたり、改善点を発見し、それに対して取り組んでいきます。超域コンパスは、すべての基盤となる専門力、スキル・知識・技術の核となる超域思考力・超域実現力、それらを活かす超域リーディング力と超域ネットワーキング力、そして「人としての力」=超域人間力の6つから構成されています。

◆プログラムの内容

「超域イノベーション博士課程プログラム」は、5年一貫の博士課程プログラムとして、全ての専門分野に学ぶ大学院生を対象とした教育プログラムです。

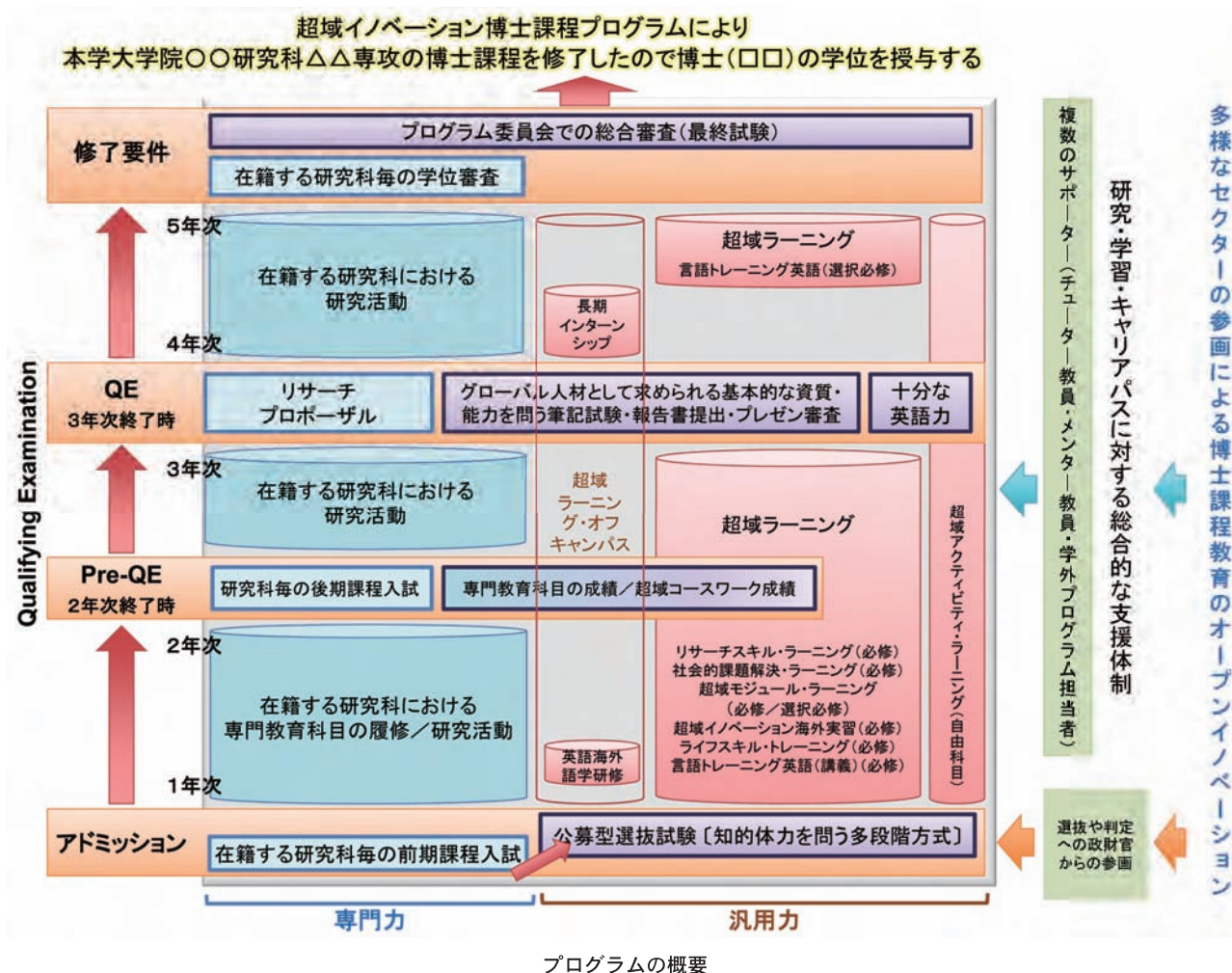
本プログラムに所属する学生は、在籍する研究科において従来どおり高度な専門教育を受けるとともに、それぞれの専門性を軸にして、本プログラムにおいて設計されている特徴

的な文理統合・学生参加型の授業科目を履修することになります。

本プログラムが提供する教育プログラムは、以下の図のようなコースワークで構成されています。

コースワークを構成する各種の科目や活動では、「大阪大学その分野の一流の教授陣」に加えて、「産業界の第一線で活躍する実業家」、「オリンピック経験者といったトップアスリート」など、多彩な面々が講師陣として控えています。

「超域ラーニング」では、文理越境型で異なる研究室を探究する「リサーチスキル・ラーニング」、社会課題とその解決をテーマとしてワークショップ型やプロジェクト型の授業を行う「社会的課題解決・ラーニング」、知識・教養・汎用力を養うための「超域モジュール・ラーニング」、事前・事後学習を備えた「超域イノベーション海外実習」、自己管理や時間管理を講義と実習を通して学ぶ「ライフスキル・トレーニング」、英語のリーディング、スピーキング、ライティング、リスニング能力を実践的活用に堪えるレベルに到達させるための「言語トレーニング英語」が用意されています。





選抜された 20 名の学生とプログラム担当教員（4 月 2 日、履修宣誓式にて）

「超域ラーニング・オフキャンパス」では、最長で 1 年に及ぶ「超域イノベーション長期インターンシップ」や超域ラーニングの言語トレーニング英語の発展型として海外での集中語学研修（サマースクール）に参加する「言語トレーニング英語（実習）」が用意されています。

「超域アクティビティ・ラーニング」では、(1) 超域ラーニングや (2) 超域ラーニング・オフキャンパスで提供されている科目以外で、本プログラムを履修する学生が自主的に履修することが望ましい科目群が用意されています。

◆おわりに

先日行われた書類・面接・合宿と続いた選抜審査により 20 名の優秀な学生が第一期生として選抜されました。また、「超域イノベーション博士課程プログラム」は、全国的にも特徴的な大阪大学ならではのすべての部局を完全に超域して設計されたプログラムで、各方面からの注目度も高いプログラムです。このプログラムの成功のためには、ぜひとも、これからのプログラムの進展ならびに学生さんの成長に対して全学の関係者の皆様方のご支援、ご協力をいただければ幸いです。

お問い合わせ

未来戦略機構 第一部門（超域イノベーション博士課程プログラム）事務室

TEL：06-6879-4908 FAX:06-6879-4909

E-Mail：cbijimu-fustra@ml.office.osaka-u.ac.jp

URL：<http://www.cbi.osaka-u.ac.jp/>

役員室だより

2012.4 Vol.47

運営体制の見直しについて

本学では、大阪大学が22世紀に輝き続ける基盤を創るため、これまで様々な改革を進めて参りました。教育に関しては、大学教育実践センターを発展的に改組した「全学教育推進機構」を設置し、学部共通教育、大学院横断教育、言語教育並びに海外教育を全学的に推進していく体制を整備しました。また、「大阪大学未来戦略機構」を新たに設置し、部局横断的な教育・研究を推進する体制を整備してきました。さらに、大学全体の課題に迅速に対応すると

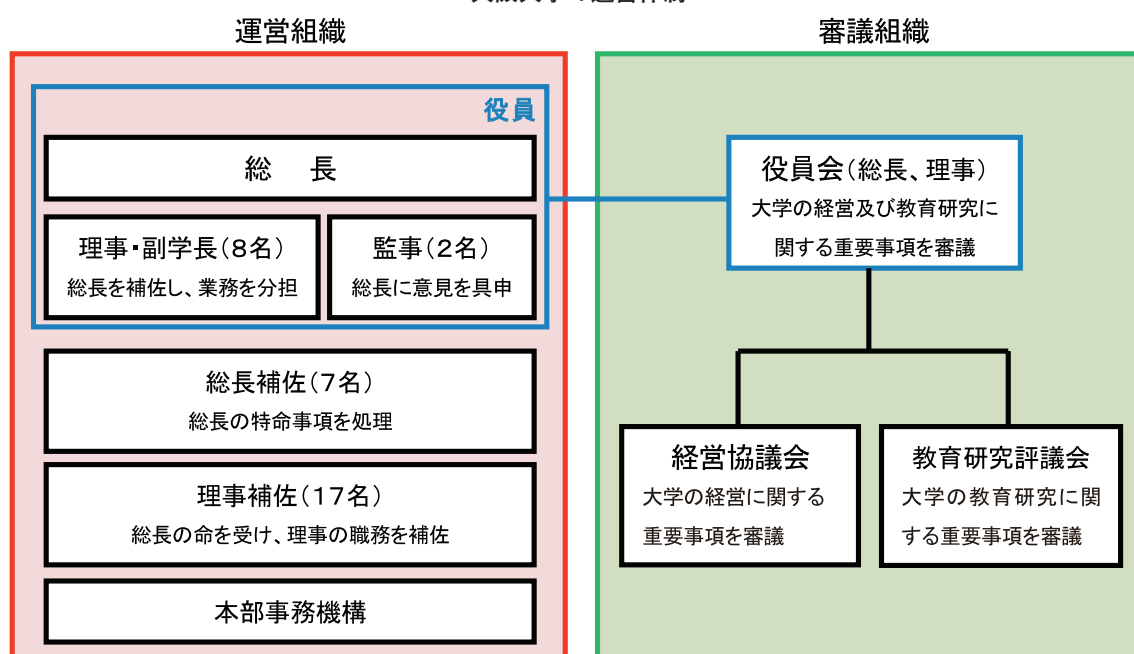
もに、新しいテーマにも戦略的に取り組むため、法人化以降8年間続けてきた「室体制」を見直し、横断的な組織力と実行力を強化した運営体制を構築し、平成24年4月から新たなスタートを踏み出しました。これら改革の成果を最大限に発揮していくため、今後とも構成員の皆様方のご協力をお願いいたします。なお、運営体制の見直しの概略については、以下のとおりです。

1 改革点

- ・理事間の縦割りの緩和
 - 体制と業務のフラット化を図り、相互協力体制を強化する。
- ・意思決定のスピードアップ
 - 会議体によるボトムアップ方式から、迅速で柔軟な意思決定が図れる運営形態に改める。
- ・運営体制のスリム化
 - 組織を縮小して機動的で戦略的な動きができるシステムに変える。
- ・機能強化（理事補佐の設置）
 - 総長の下、理事、総長補佐、理事補佐、本部事務機構が一体となって大学運営を支える。

2 新しい運営体制

大阪大学の運営体制



役員、総長補佐及び理事補佐（平成24年4月1日現在）

【役員】

職 名	氏 名	担 当
総長	平野 俊夫	_____
理事・副学長	恵比須繁之	企画・評価
理事・副学長	東島 清	教育
理事・副学長	馬場 章夫	産学連携・情報
理事・副学長	相本 三郎	基盤研究・リスク管理
理事・副学長	阿部 顕三	財務・事務改革
理事・副学長	尾山眞之助	人事労務・多様な人材活用
理事・副学長	江口 太郎	広報・社学連携
理事・副学長	高橋 明	国際交流
監事（常勤）	関 順一郎	_____
監事（非常勤）	山崎 優	_____

【理事補佐】

職 名	氏 名	主な担当
工学研究科教授	池 道彦	国際交流
社会経済研究所教授	大竹 文雄	財務
理学研究科教授	小川 哲生	広報・社学連携
工学研究科教授	尾崎 雅則	財務
情報科学研究科教授	尾上 孝雄	情報
医学系研究科教授	金倉 譲	人事労務
人間科学研究科教授	川端 亮	企画・評価
基礎工学研究科教授	北岡 良雄	研究
理学研究科教授	下田 正	教育
経済学研究科教授	堂目 卓生	教育
産業科学研究所教授	中谷 和彦	財務
蛋白質研究所教授	中村 春木	企画・評価
医学系研究科教授	原田 彰宏	教育
産学連携本部教授	正城 敏博	産学連携
法学研究科教授	三成 賢次	企画・評価
工学研究科教授	南埜 宜俊	人事労務
高等司法研究科教授	棟居 快行	人事労務

【総長補佐】

職 名	氏 名	主な特命事項
文学研究科教授 全学教育推進機構長	江川 温	教育推進
保健センター長	瀧原 圭子	健康問題
国際公共政策研究科長	星野 俊也	国際問題
医学系研究科教授 学生生活委員会委員長	宮崎 純一	学生問題
生命機能研究科教授	村上富士夫	事務改革
医学系研究科教授 ハラスメント相談室長	大和谷 厚	ハラスメント
医学部附属病院長	吉川 秀樹	病院運営

経営協議会を開催

今年度第4回経営協議会を3月16日（金）に、中之島センターで開催しました。学外委員13名、学内委員13名が出席し、約2時間にわたり審議、意見交換が行われました。今回は、秋入学を中心に意見交換を行っていただき、各委員から、秋入学を導入する際のメリット、デメリットやそれらを総合的に判断し、慎重に十分な議論をしていく必要があるなど様々な意見が出されました。

また、平成24年度経営協議会の開催日程は下記のとおりです。

◎開催日程

- 第1回 平成24年6月12日（火）
- 第2回 平成24年9月19日（水）
- 第3回 平成24年11月29日（木）
- 第4回 平成25年3月22日（金）

平成24年度計画

平成24年度の本学年度計画については、各部局の年度計画を踏まえて、総合計画室の下に設置した平成24年度計画作成検討ワーキングが中心となってとりまとめ、3月末に文部科学省へ提出しました（大阪大学ホームページに掲載 <http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/information/joho/nendo.html>）。

学内措置による教育研究組織の整備

新たな予算措置を伴わない学内措置による教育研究組織の整備として、2月及び3月の役員会で次の事項が承認されました。

- 医学系研究科附属ツインリサーチセンターの改組（平成24年4月1日）
- 医学系研究科医学専攻の医薬品医療機器評価学連携分野の設置（平成24年4月1日）
 - ・連携機関名 独立行政法人医薬品医療機器総合機構
- 医学部附属病院中央診療施設「呼吸器センター」の設置（平成24年4月1日）
- 薬学研究科の改組（平成24年4月1日）

全学教育推進機構の設置について

本学においては、物事の本質を見極める能力とともに、「教養」「デザイン力」「国際性」の3つの汎用的能力を身につけ、グローバル社会において活躍できる人材の育成を教育目標としています。これまで学部低学年の基礎および教養（全学共通）教育については、大学教育実践センターが、専門教育については、主に各学部・研究科等がそれぞれ担当し、個別に推進してきました。

その中で、本学の教育の課題として挙げられているのが、学部から大学院までの教養教育のさらなる充実、各局を中心とした教育プログラムによる教育改革の全学的な展開、大学内の教育資源を活かした語学教育の充実、教育の質保証に向けた学習機能の強化等です。

これらの課題等に対応するとともに、学部教育と大学院教育の全体をシステム化し、大学として組織的に教育を推進するため、平成24年4月1日からこれまで全学の教養

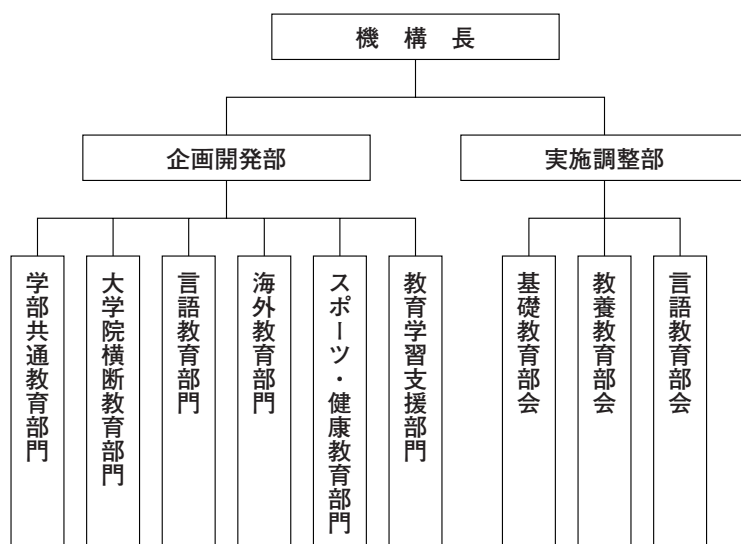
教育を担ってきた大学教育実践センターを発展的に解消し、大学院を含む教養教育や全学横断的な教育を企画する機能等を持った組織として、新たに「全学教育推進機構」を設置しました。

この機構には、2つの部を置き、企画開発部の下には6つの部門（学部共通教育部門、大学院横断教育部門、言語教育部門、海外教育部門、スポーツ・健康教育部門、教育学習支援部門）、実施調整部の下には3つの部会（基礎教育部会、教養教育部会、言語教育部会）を設置し、それぞれ緊密な連携を図りながら、全学的な教育を推進します。

この機構は、本学の教育の中心的な組織となるもので、その組織には専任の教員の他、関係部局からの兼任教員を配置し、全学の協力体制のもと運営を行っていきます。

なお、同機構の初代機構長には、文学研究科の教員で総長補佐の江川 温（えがわ あつし）教授が就任しました。

全学教育推進機構組織図



平成25年度科研費獲得支援について

本学では基礎研究の推進を最重点課題の一つと位置づけ、その支援のための仕組み作りに取り組んできました。一方、文部科学省から交付される運営費交付金は、大学運営上の基盤的な経費をなんとか賄う程度にまで縮小し、外部資金の獲得なくしては、研究はおろか、快適な研究・教育環境の維持も困難な時代になっております。

文部科学省ならびに日本学術振興会からの科学研究費助成事業（科研費）は、研究者の自由な発想に基づいた研究を支援する、学術研究の推進に最も適した研究資金であります。このような観点から、一人でも多くの方が科研費を獲得できるよう、本年度より支援体制をさらに強化いたします。

本部事務機構の研究推進部が取りまとめ窓口になって、相談員による、採択されなかった平成24年度科研費申請

書の分析（予定6月から随時）、平成25年度科研費の申請に向けた査読（予定9月）を実施いたします。特に、自分のアイデア、研究計画、実績に自信がありながら採択されなかった方はぜひともご活用いただき、来年度の科研費獲得に向けて万全を期していただきたいと思います。

また、本学も年々外国人研究者が増加してきており、その支援もますます重要となっておりますので、外国人研究者であっても科研費を獲得できるよう、英語による科研費説明会を6月に開催する予定です。ふるってご参加いただきたいと思います。

今後の研究推進部からの案内を見落とされないようご注意ください。

研究経費の有効かつ適切な使用について

昨年度より、年度をまたいで使用可能な基金と従来の補助金の両建てとなっている科研費種目があります。また、今年度より学内の研究者が科研費を出し合って、1つの備品を購入できるようになりました。有効に使用していただ

ければと思います。研究経費の使用規則も年々変わっております。不正使用・不適切経理防止の観点から、年に数回研修会を開催しております。研究推進部からその都度お知らせいたしますので、積極的な参加をお願いいたします。

平成24年度教育研究等重点推進経費の執行計画について

平成 24 年度教育研究等重点推進経費の執行計画案が役員会において承認されました。

執行計画案は、各部局等から申請のあった事業に対して、書類審査、ヒアリング審査等を踏まえて決定しています。

平成 24 年度教育研究等重点推進経費

(1) 「平成 24 年度重点推進事項に資する事業」

部 局 等 名	事 業 名
附属図書館	電子的情報基盤整備事業
医学系研究科	PET 分子イメージングセンター動物飼育室整備
工学研究科	最先端統合分析センター設置とこれを核とした国際教育に資する「光・電・磁」機能分子科学
金融・保険教育研究センター	金融・保険に関する文理融合型学際教育プログラムの推進・改善
ナノサイエンスデザイン教育研究センター	仙台地区における震災復興産学連携人材育成事業
知的財産センター	国際知的財産教育を実践する若手研究者の育成事業
多様な人材活用推進本部	テニユアトラック制度普及推進事業
研究・産学連携室	阪大拠点形成事業（社会実証実験に基づく認知脳システム学の教育研究基盤構築）
国際交流室	学生交流助成（派遣・受入）経費
	中国国家建設高水平大学公派研究生（博士）受入事業
	フロンティアラボプログラムの文系への拡充

(2) 大阪大学の将来の方向性を見据えた上で、本学の教育研究等の発展に寄与する全学的・部局横断的な事業、あるいは単独部局であっても将来の新展開を目指した事業

部 局 等 名	事 業 名
蛋白質研究所	実験動物 SPF 飼養施設整備
環境イノベーションデザインセンター	大阪大学環境イノベーション教育研究推進事業
総合学術博物館	総合学術博物館 特別展（開館 10 周年記念事業）等
保健センター	平成 24 年度学生相談室非常勤カウンセラー人件費
科学教育機器リノベーションセンター	リユース研究教育基盤機器整備事業
全学教育推進機構	全学教育推進機構大学院横断教育等の実施
	実験棟Ⅱ 5 階物理実験室改修・整備工事
教育・情報室	全学規模 e-Learning 環境基盤整備事業Ⅲ
学生部	本部事務機構人件費（学生部）
研究推進部	本部事務機構人件費（研究推進部）
財務基盤整備本部	大阪大学未来基金の拡充のための運営費
財務部	本部事務機構人件費（財務部）
広報・社学連携室	「ウェブデザインユニット」の拡充による広報体制のさらなる強化と高機動化
	アートエリア B1/ ラボカフェ
国際交流室	大阪大学と上海交通大学との学術交流セミナー開催経費
国際交流オフィス	本部事務機構人件費（国際交流オフィス）
	多国間ネットワーク推進事業
総務企画部	本部事務機構人件費（総務企画部）
施設部	本部事務機構人件費（施設部）
不正使用防止計画推進室	本部事務機構人件費（不正使用防止計画推進室）

(3) 大阪大学の教育研究等の機能強化や発展、社会貢献に寄与するために必須な全学共通的な事業であり、大学運営組織の各室又は全学委員会等が企画・総括する事業

部 局 等 名	事 業 名
附属図書館	開館サービス延長による主体的な「学び」環境の整備事業
	学生用図書の体系的・継続的な整備事業
	大阪大学学術情報庫 OUKA 運営事業
	「国際コモンズ」及び 24 時間開館の実施による主体的な「学び」環境整備事業（維持経費）
サイバーメディアセンター	総合情報通信システム（ODINS）推進費
環境安全研究管理センター	大阪大学化学物質管理支援システム（OCCS II、OGCS）に係る管理運営経費
保健センター	血圧計の更新
	心電計の更新
	視力計の更新
総合計画室・文書館設置準備室	大阪大学文書館（仮称）書庫等整備事業
教育・情報室	学務情報システム（KOAN）の整備
	入試広報の充実による志願者確保策と教育環境の向上
	大阪大学ファカルティ・ディベロップメント推進事業
	大学院教育の充実と活力ある学部教育に向けたティーチング・アシスタント制度改革への取組
	学部から大学院までを視野に入れたキャリア形成教育構築のための取り組み
安全保障輸出管理委員会	安全保障輸出管理体制整備・運営
研究倫理審査委員会	研究倫理審査委員会実施経費
多様な人材活用推進本部	男女共同参画推進のためのサポート連鎖支援事業
広報・社学連携室	中之島センター大学使用料
	大阪大学 21 世紀懐徳堂を通じた社学連携活動の推進
広報・社学連携オフィス	「広報・社学連携事務室」の体制整備
国際交流室	3 キャンパスにおける外国人留学生・外国人研究者対象支援サービスシステムの改善
国際企画推進本部	国際企画推進本部の活動経費
海外拠点本部	海外拠点本部運営経費
情報基盤本部 事務改革推進本部	全学 I T 認証基盤システム維持経費
	事務基幹系システム維持経費
	キャンパスクラウド維持経費
安全衛生管理部	リスク管理推進本部運営費
	防犯カメラ整備経費
	衛生管理者免許等取得支援経費
	国際化にも対応した学生に対する安全教育教材整備経費
ハラスメント対策会議	ハラスメント防止関係
施設マネジメント委員会	耐震診断
施設部	老朽化に伴う営繕工事費

(4) その他、部局等にとって緊急性・重要性の高い事業

部 局 等 名	事 業 名
文学研究科	文学研究科における安全・安心環境整備－バリア・フリーへの対応－
医学系研究科	医学部銀杏会館維持管理経費
高等司法研究科	高等司法研究科実務家教員に係る人件費等
ラジオアイソトープ総合センター	環境試料のガンマ線スペクトロメトリー
コミュニケーションデザイン・センター	コミュニケーションデザイン教育事業の推進支援
適塾記念センター	国史跡・重要文化財適塾の展示・史料保全環境の総合的整備事業
事務改革推進本部	阪大 ADT 方式導入に伴う財務会計システム改修経費
総務企画部	総長渉外費
	職員会館（待兼山会館）情報ネットワーク整備
学生部	豊中福利会館耐震改修工事に伴う移設撤去費用
	阪急石橋駅周辺における通学の安全確保
	清明寮耐震工事に伴う寮生の移転等経費

広報・社会学連携オフィスの新体制

大阪大学のブランド力強化を目指して、4月から広報・社会学連携オフィスの体制を一新しました。これまでの広報・社会学連携事務室を拡充して、広報課と社会学連携課の2課体制にしました。広報課では、広報年間計画表の策定や広報ネットワークの充実を図り、学内外に向けて有効的な情報発信を推進していきます。また、ウェブデザインユニット

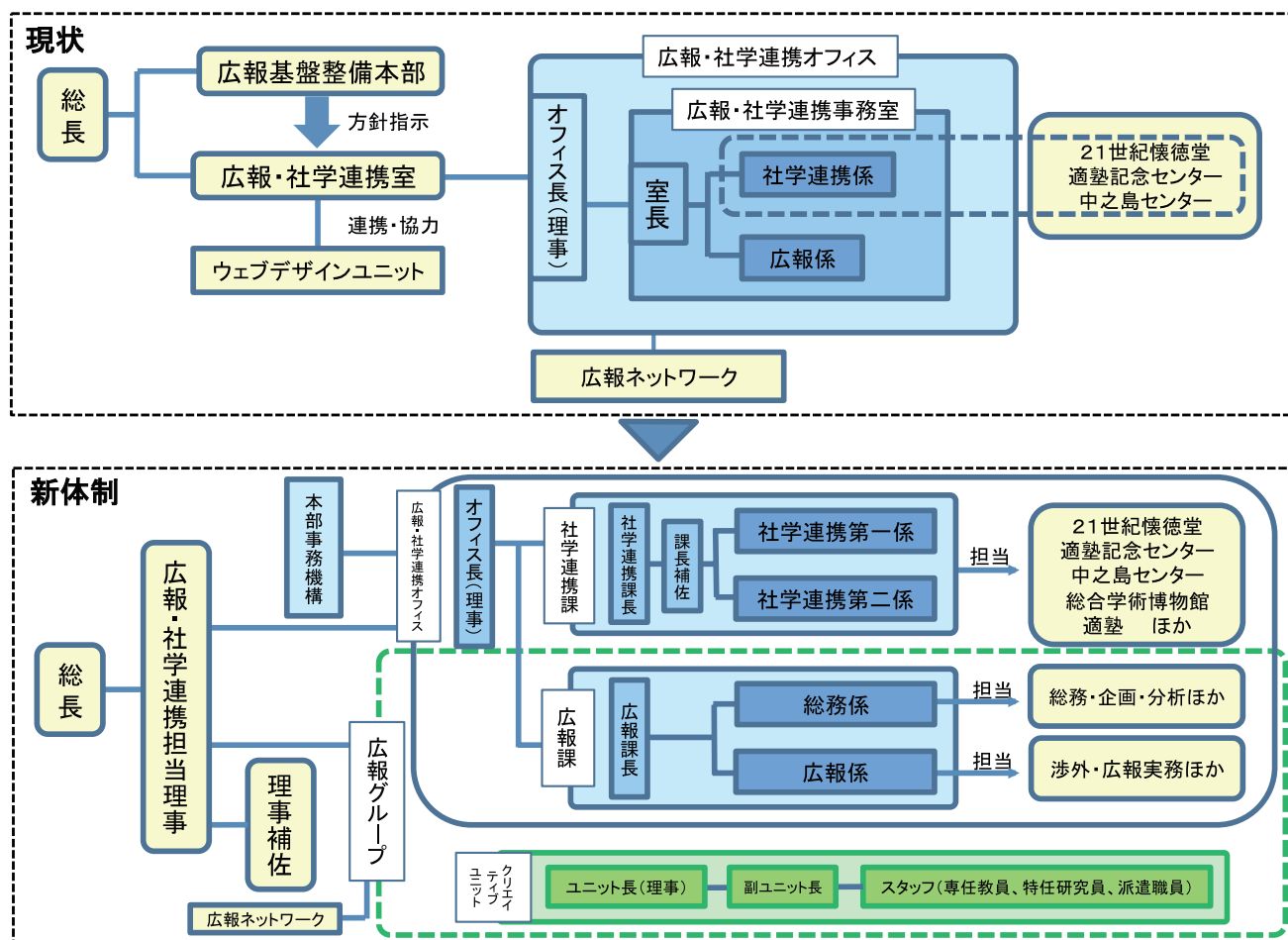
をクリエイティブユニットと改め、WEB広報と紙媒体との有機的連携を促進していきます。社会学連携課は豊中（大阪大学会館）と中之島センターに拠点を構え、21世紀懐徳堂、適塾記念センターおよび総合学術博物館の業務を担当し、地域社会との接点を一層充実させていきます。

広報ネットワーク連絡会

第2回の広報ネットワーク連絡会を3月15日に基礎工学研究科シグマホールで開催しました。各部署のご協力により、広報責任者および実務担当者など60名を超える参加者がありました。この連絡会は、4月から「広報・社会学連携室会議」が廃止されましたので、各部署と本部広報との貴重な双方向・情報交換会の機能を担うことになります。当日は、まず青江室員から広報と宣伝の相違などについて、小川室員から大阪大学の広報体制の現状と今後のあり方に

ついて説明があり、さらに、広報係から「プレスリリースの書き方」に関して実務的なレクチャーも行われました。参加者全員の広報マインドの醸成に役立ったものと確信しております。今後も広報ポリシーの策定や広報年間計画に基づく効果的な広報を目指して、広報ネットワーク連絡会を開催して参りますので、ご協力のほどよろしくお願い致します。

広報担当部署 新旧図





創立80周年記念事業



原点へ 未来へ

大阪大学は2011年に創立80周年を迎えます



大阪大学シンポジウム「日本 いまから ここから」



平野俊夫総長による挨拶

3月4日(日)に大阪大学シンポジウム「日本 いまから ここから」(毎日新聞社後援)を、毎日新聞社オーバルホール(大阪市北区)で開催しました。

「私たちの未来選択」をテーマに、この重要な問題を、未来を生きる若い方々と考えたい、との思いを「若者必聴」のフレーズに込めた今回のシンポジウムは、本学が誇る気鋭の3名の研究者(大竹文雄社会経済研究所教授、小林傳司コミュニケーションデザイン・センター教授、石黒浩基礎工学研究科教授)が、閉塞感の漂う日本の未来をどう切り開いていくのかを大阪から発信したもので、学生、市民の皆さま約450名にご来場いただき、会場は開演前から満席となり熱い雰囲気に包まれました。

はじめに、本学文学研究科演劇学研究室の学生により東日本大震災の犠牲者の鎮魂と復興を願ったパフォーマンスが行われました。続く講演では、大竹教授は、財政状況など日本が直面する問題を解説し、「多くの人が利他的に考

えるようになれば、いろんな問題が解決する可能性がある」と語りました。小林教授は、「エネルギー政策など、科学だけでは答えられない問題について、国民的討議のあり方を模索すべきである。」と提言しました。石黒教授は、「技術開発を通して「人間らしさ」とは何か。を探っていきたい。」と語りました。

毎日放送アナウンサー西靖さん(本学法学部卒)の司会による座談会では、各教授が専門の見地からこれからの日本について語り、多様な視点を持つ総合大学ならではのシンポジウムとなりました。



座談会の様子

左から西アナウンサー(毎日放送)、石黒教授、小林教授、大竹教授



石黒 浩教授



小林傳司教授



大竹文雄教授

The 3rd Global COE International Symposium “Electronic Devices Innovation” (EDIS 2011)

千里ライフサイエンスセンターにおいて、12月16日～17日、グローバルCOEプログラム「次世代電子デバイス教育研究開発拠点」主催の第3回国際シンポジウム「電子デバイスイノベーション2011」を開催しました。本シンポジウムは、創立80周年記念国際シンポジウムシリーズと位置づけられ、CMOS集積回路技術、ワイドバンドギャップ半導体素子のインパクト、神経工学の発展、走査型ブロー

ブ顕微鏡技術、光ファイバ通信技術の研究開発、省・創エネルギーに貢献する最先端の光科学研究に関する議論を深めるための6セッションで構成され、参加者数は総勢348名に上りました。各セッションでは、幅広い議論が交わされ、将来への大きな成果を残しました。

(国際交流オフィス国際交流課)

International Symposium on the Dynamics of Biosystems and Large Scale Information Systems

大阪大学銀杏会館において、2月1日(水)、大阪大学80周年記念国際シンポジウム「生命ダイナミクスと大規模ネットワーク」を開催しました。本シンポジウムは、情報科学研究科主体のグローバルCOEプログラム「アンビエント情報社会基盤創成拠点ー生物に学ぶ情報環境技術の確立ー」と、生命機能研究科のグローバルCOEプログラム「高次生命機能のダイナミクス」を推進する中で立ち上がった、「生命ダイナミクスと大規模ネットワーク」とい

う融合領域を発展させていくジョイントシンポジウムとして開催されました。

本シンポジウムには、総計209名が参加し、情報科学、生命科学の大規模ネットワークとそのダイナミクスに関する国内外の専門家を招いて、先端研究の内容と融合研究の可能性について熱心な議論が交わされました。

(国際交流オフィス国際交流課)

創立80周年記念事業へのご支援・ご協力ありがとうございました

大阪大学では、平成23年を「創立80周年記念YEAR」と位置づけ、「原点へ・未来へ」を事業タイトルに掲げ、年間を通じて様々な記念事業を実施してきました。

記念事業につきましては、東日本大震災の発生に伴う甚大な被害状況に鑑み、事業の中止、延期又は内容変更が行われましたが、50余りの記念事業が実施され、このたび、すべての記念事業を無事終了することができました。

創立80周年記念事業として新たに企画した事業、他機関との共催事業、さらには各部局において企画された関連事業など、様々な事業が実施されました。

また、創立80周年記念事業の実施のために、多くの寄付をいただき、記念事業を滞り無く終了することができました。

皆様のご協力のもと、創立80周年を盛り上げていただいたことに、お礼を申し上げます。



(創立80周年記念事業委員会)

総合学術博物館10年の歩みと第5回特別展

平成14年に設立された総合学術博物館は本年で創立10周年を迎えます。展覧会を中心にさまざまな活動を通じて大学の教育研究の成果を学内外に発信してきました。博物館の10年間の歩みと今春開催の特別展「巨大ワニと恐竜の世界ー巨大爬虫類2億3千万年の攻防ー」についてご案内します。

■ 総合学術博物館 10年の歩み

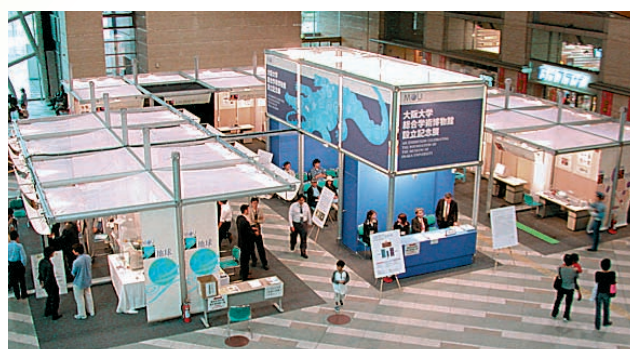
大阪大学は、その精神的源流である大坂町人の学問所の懐徳堂と適塾から多くの文化財を継承するとともに、昭和6年の創立以来の教育研究の成果として多数の学術標本を収集・保存してきました。しかし、これらの貴重な標本を研究室や部局の枠を超えて統一的に保存・活用する組織がなく、学内の各所に分散して所蔵されている標本の持つ情報を一元的に管理し、学内の教職員や学生はもとより、学外の方々にも容易にその情報を利用できるシステムを整備することが急務となっていました。

一方、平成7年度に学術審議会学術情報資料分科会によって「ユニバーシティ・ミュージアムの設置について（報告）」が取りまとめられ、全国の大学で博物館の開設が進められることになりました。大阪大学でも博物館設立準備委員会が設置され、平成14年4月に総合学術博物館が全国で第8番目の国立大学総合博物館（省令施設）として発足しました。

平成14年10月には、「いま阪大で何が？ー人間・地球・物質」のテーマで設立記念展を大阪歴史博物館・NHK大阪放送会館アトリウムにて行いました。企画展・特別展等は、その後も毎年複数回行っており、学内組織だけでなく、大阪歴史博物館、NHK大阪放送局、豊中市教育委員会、千里ライフサイエンスセンター等、さまざまな組織と連携を行い、多彩なイベントを開催しています。平成16年4月には、イ号館（平成23年に全面改装し、大阪大学会館



総合学術博物館 待兼山修学館展示場



設立記念展「いま阪大で何が？ー人間・地球・物質」(平成14年)



第10回企画展

「漆」(JAPAN)の再発見ー日本の近代化学の芽生えー(平成22年)

と改称) 1階に「マチカネワニとキャンパスの博物誌」をテーマにした展示場を開設しました。平成17年8月には、旧制高校の教材標本等を待兼山修学館（旧 医療技術短期大学部本館）に移設し、史料準備館として開設、一般公開を行いました。待兼山修学館は、建物ごと全面改装し、平成19年8月より3階建て+屋上ルーフトラスの待兼山修学館展示場として一般公開しています。

待兼山修学館展示場は、1階にミュージアムカフェも併設し、教職員や学生だけでなく広く地域の憩いの場としても活用されています。本年は、待兼山修学館展示場の隣に高機能収蔵庫が竣工予定で、適塾資料など貴重な学術標本を万全の体制にて保存できる設備が整う見込みとなっています。今後も学術標本の収集保存、展覧会の開催などを中心に、サイエンスカフェなどの地域貢献活動なども含めて、

さらに活動を充実させていきたいと考えています。これからも総合学術博物館をよろしくお願いいたします。

**■ 総合学術博物館創立10周年記念 第5回特別展
巨大ワニと恐竜の世界
—巨大爬虫類 2億3千万年の攻防—**



総合学術博物館は本年創立10周年を迎えます。これを記念して第5回特別展「巨大ワニと恐竜の世界—巨大爬虫類 2億3千万年の攻防—」を開催しています。当館が所蔵するマチカネワニは世界から注目を浴びている日本を代表する爬虫類化石標本です。マチカネワニの祖先にはどのようなものがいたのか、祖先たちは恐竜と

戦っていたのか、本展覧会では、約2億3千万年前までさかのぼり、ワニの進化と恐竜との争いを紹介します。

約1億5千万年前（ジュラ紀後期）の北米大陸、約1億年前（白亜紀中ごろ）のゴンドワナ大陸、そして恐竜が絶滅する直前の約7千万年前（白亜紀末）の北米とアジアといった世界が、時空を超えて総合学術博物館によみがえります。大阪初公開の標本を含め、巨大ワニや恐竜の化石など約50点を展示します。ぜひこの機会に総合学術博物館にご来館ください。

特別展詳細

会期：平成24年4月7日（土）～6月30日（土）10:30～17:00

入場無料 日祝休館。但し4月30日・5月3日～5日は開館

会場：総合学術博物館 待兼山修学館

主催：総合学術博物館

共催：北海道大学総合博物館 豊中市・豊中市教育委員会
大阪大学理学研究科

協力：国立科学博物館 群馬県立自然史博物館
神流町恐竜センター 茨城県自然博物館
神奈川県立生命の星・地球博物館
有限会社ゴビサポートジャパン
大阪大学 21世紀懐徳堂



マチカネワニ（第5回特別展・常設展「待兼山に学ぶ」）



タルボサウルス（第5回特別展）

ミュージアム・レクチャー

いずれも総合学術博物館待兼山修学館 3F セミナー室にて開催。聴講自由、30分前より受付開始。各回定員60名。

【第42回】4月28日（土）14:00～15:30

「ワニと恐竜の共進化」小林快次（北海道大学総合博物館）

【第43回】5月19日（土）14:00～15:30

「恐竜時代の日本：ワニと恐竜」

久保田克博（神流町恐竜センター）

【第44回】6月16日（土）14:00～15:30

「現生ワニからわかる恐竜の顎の動き」

大橋智之（北九州市立いのちのたび博物館）

ワークショップ（豊中市との共催イベント）

いずれも総合学術博物館待兼山修学館 3F セミナー室にて開催。事前申込要、各回定員20名。

日時：5月26日（土）11:00～12:30 / 14:00～15:30

テーマ：「マチカネワニ復元の話&ティラノサウルス復元に挑戦」

講師：徳川広和（恐竜・古生物復元模型作家）、荻野慎太郎（古生物学者）

対象：小学生以上。保護者同伴可。小学3年生までは必ず保護者の方がご同伴ください。

材料費：実費1,000円

申込期間：平成24年4月23日（月）～5月8日（火）（必着）

申込方法：1名につき1枚の往復はがきでタイトル名（ワークショップごとに1枚）・希望時間・住所・氏名・電話番号・年齢を記入し、返信はがきに返信元を明記のうえ下記（会場）宛にご応募ください（但し、ご家族で応募の場合は複数名可、全員の名前・年齢を記載）。

※応募者多数の場合は抽選。当否の結果ははがきでお知らせします。

【問い合わせ先】

総合学術博物館 待兼山修学館

TEL:06-6850-6284 URL:<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

留学生見学旅行開催

11月12日(土)に、留学生1年生を対象にした見学旅行が実施されました。我が国の景観を楽しみ、伝統文化を知ってもらうために、天橋立・傘松公園(京都府宮津市大垣)およびアミティ丹後(京都府京丹後市網野町網野)へと向かいました。天橋立では景観を楽しむほか、その地の伝承に触れる良い機会となりました。また、アミティ丹後では、職人さんの指導のもと、「丹後ちりめん」の染色体験を行いました。参加者は、留学生20名、チューター7名、教職員4名でした。帰りは渋滞のため、豊中キャンパスに到着したのが夜遅くなり、長い一日となりましたが、参加者は充実した時間を過ごせたようでした。

(全学教育推進機構)



天橋立・傘松公園にて

後期1年生クラス代表懇談会開催

12月8日(木)の昼休みを利用して、1年生後期クラス代表懇談会を開催しました。この懇談会は、センター教職員と学生のクラス代表とが、授業・カリキュラムや学習環境など、大学教育実践センター(現・全学教育推進機構)が関係する問題全般について話し合うために開催されています。今回はクラス代表64名、教職員19名が参加しました。まず教職員からKOANや学生支援ステーション等に関する説明があり、その後、学生が日頃感じている学習環境などの諸問題について自由な質疑応答がなされました。

(全学教育推進機構)



微生物病研究所敷地内(免疫学フロンティア研究センター含む)は全面禁煙になりました。

微生物病研究所では、4月1日から健康増進法の趣旨に則り、受動喫煙の防止を目的として、医学部附属病院敷地内、歯学部附属病院敷地内に続き、研究所敷地内全面禁煙といたしました。

また、今回の敷地内全面禁煙に先立ち、研究所内外に予告の掲示を行うとともに、去る1月25日(水)に本研究所及び免疫学フロンティア研究センターの教職員、学生を対象に禁煙講演会を開催いたしました。

講演会は、大阪大学保健センターの瀧原圭子教授(センター長)に「強化される職場と公共機関の受動喫煙防止対策」について講演頂き、当日は、約40名の教職員や学生が参加し、喫煙に対する意識改革のための良い機会となりました。(微生物病研究所)



講演を行う保健センター瀧原圭子教授(センター長)



敷地内全面禁煙を周知する立看板

「大阪大学VS大阪教育大学 事務職員親睦軟式野球試合」の開催

1月28日(土)、高槻市宮古曽部公園野球場において、大阪大学事務職員軟式野球部「阪大吹田」と大阪教育大学事務職員軟式野球部「大教大ビアーズ」の交流試合を開催しました。

当日は、大阪大学歯学研究科寺嶋良男総務課長(監督)以下13名、大阪教育大学学術部附属学校課南山和弘課長補佐(監督)以下11名の、野球好きで元気な事務職員が集い、寒空をものともしない白熱した好ゲームを展開し、2-1で阪大が勝利しました。

今後も野球を通じて交流と親睦を深めるため、定期的に開催する予定です。
(歯学研究科・歯学部)



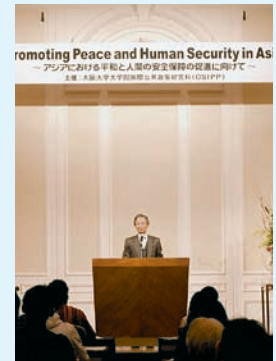
大阪大学と大阪教育大学の野球好きな事務職員一同

シンポジウム「アジアにおける平和と人間の安全保障の促進に向けて」開催

国際公共政策研究科は、1月28日(土)に、シンポジウム「アジアにおける平和と人間の安全保障の促進に向けて」を開催しました。

このシンポジウムは、平成23年度文部科学省大学の世界展開力強化事業の一環として実施したもので、国内外連携大学（国内：広島大学、長崎大学、名桜大学、海外：デ・ラ・サール大学（フィリピン）、パヤップ大学（タイ）、ナンヤン工科大学（シンガポール）、シアール・クアラ大学（インドネシア）、国立東ティモール大学（東ティモール））の関係者が集まり、アジアにおける平和と人間の安全保障を促進するために何がなされなければならないかを議論しました。

初めに江田五月氏（元法務・環境大臣、元参議院議長、民主党最高顧問、東ティモール議員連盟顧問）による基調講演「平和・環境・人権・人間の安全保障」を、次に連携大学によるパネル討議を行い活発な意見が交わされ、盛会のうちに閉会しました。（国際公共政策研究科）



J-ShIP (Japanese Short-stay In-session Program) を実施

大阪大学は超短期留学生受入プログラム（日本語集中プログラム）J-ShIP (Japanese Short-stay In-session Program) の受入れを実施しました。J-ShIP は、文部科学省が本年度より新たに留学生スキームとして3ヵ月未満のビザなし渡航期間を利用したSS (short-stay)、SV (short-visit)、SS&SV という3つの奨学金制度を利用するもので、本年度は10週間のJ-ShIP(10月3日(月)から12月13日(火))と、5週間のJ-ShIP(12月15日(木)から2月1日(水))が実施され、前者にはスウェーデン王立工科大学から6名、後者にはオーストラリア国立大学から10名とモナシ大学から12名が参加しました。

(国際教育交流センター)



スウェーデン王立工科大学からの6人の留学生

第20回 大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会

大阪大学国際教育交流センター主催の第20回大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会が2月1日(水)に大学豊中キャンパスの大会館にて開催され、学内関係者を含め約144名の参加がありました。高橋理事・副学長より開会の挨拶の後、医学系研究科博士後期課程3年生の于濤さんより「創立80周年記念イベントー世界に広がる大阪大学同窓会ネットワーク」についての報告が行われました。その後、地域ボランティア団体から代表3名と留学生4名の合計7名による「日本での生活ー地域との交流について語るー」と題したパネルディスカッションが行われました。菊野国際教育交流センター長の閉会の挨拶の後の懇談会にも124名以上の参加があり、活発な情報交換や交流が行われました。（国際教育交流センター）



平成23年度 第2回国立大学法人留学生指導研究協議会(兼:第37回大阪大学留学生教育・支援協議会)

「平成23年度第2回国立大学法人留学生指導研究協議会」が去る2月8日(水)吹田キャンパスコンベンションセンター会議室で開催されました。今回は「国立大学法人における留学生アドバイジングのあり方ーこれまでを振り返り、今後の課題と展望を考える」を主題とし、学外65名、学内35名の計100名の参加がありました。高橋明理事・副学長からのご挨拶、文部科学省高等教育局学生・留学生課水畑順作課長補佐からのご講演の後、故栖原暁教授（東京大学留学生センター長）の活動を振り返る形で3名からの話題提供、留学生アドバイジングについて2大学の事例紹介、グループと全体での討議を行いました。菊野亨国際教育交流センター長による閉会の挨拶の後、懇親会が行われ、参加者間で活発な意見交換が行われました。

(国際教育交流センター・国際交流オフィス学生交流推進課)



メンタルヘルス研修開催

2月9日(木)に、教職員向けのメンタルヘルス研修を法経研究棟 4F 大会議室にて開催しました。

メンタルな悩みを抱える学生が増え、教職員の早期対応が求められる事例が増える中、教職員のメンタルヘルスへの知見を深めるために「なかがわ中之島クリニック」院長の中川晶先生をお招きして講演いただきました。現場に携わる先生の講演は、大変貴重な機会で、参加教職員は熱心に耳を傾け、最後には活発な質疑応答が行われました。

(法学研究科・法学部・高等司法研究科)



産業科学研究所 「国際交流パーティー」開催

産業科学研究所は、2月16日(木)に産研国際交流パーティーを開催しました。この催しは、本研究所に在籍する外国人研究者、留学生の方々、教職員やチューターとの親睦を深めることを目的として毎年開催されており、教職員やご家族など約70名が出席しました。

安蘇芳雄教授の開会の挨拶の後、山口明人所長の挨拶と乾杯の発声でパーティーが始まり、出席者は教育・研究や日常生活等の話題について歓談し、国際交流と研究室を超えた懇親を図る機会となりました。

(産業科学研究所)



パーティーの様子

大阪大学附属図書館 シンポジウム「学術情報流通のこれからを考える」を開催

2月21日(火)、銀杏会館阪急電鉄・三和銀行ホールにおいて、シンポジウム「学術情報流通のこれからを考えるー電子ジャーナル・Open Access・機関リポジトリ」を開催しました。

前半では、学術情報流通の現状が抱える課題と電子環境における新しい図書館の役割について、国立情報学研究所学術基盤推進部長安達淳氏と千葉大学附属図書館長竹内比呂也氏の二人の識者による講演があり、後半のオープンディスカッションでは講師2名に東島清附属図書館長、石井附属図書館事務部長を交え、参加者とともに望ましい学術情報流通のあり方について熱心な議論が行われました。

(附属図書館)



オープンディスカッションの様子

第5回 大阪大学専門日本語教育研究協議会を開催

国際教育交流センターでは、2月15日(水)、コンベンションセンターにおいて、第5回大阪大学専門日本語教育研究協議会を開催しました。今回は学内外から85名の参加があり、「日本語教育のスタンダードの課題と展望」と題して、近年世界的に注目される「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠(CEFR)」と日本語教育の関連についての講演と、「教育の接続」をいかに効果的に行うかについて活発なディスカッションが行われました。

(国際教育交流センター)



平成23年度 留学生支援のための研修会

国際教育交流センター主催、留学生支援フロントスタッフネットワーク共催、保健センター協力のもと、「平成23年度留学生支援のための研修会」が去る2月16日(木)大阪大学会館2階セミナー室で開催されました。留学生関係業務に携わる教員9名、職員11名の計20名の参加がありました。まず国際教育交流センター長菊野亨教授よりご挨拶があり、続いて保健センター杉田義郎教授より「不登校や引きこもりの留学生への対応や支援について」と題した講演が行われました。その後、具体的な事例を参考としたケーススタディを行いました。研修会では活発な意見交換並びに質疑応答が行われました。

(国際教育交流センター)



平成23年度 動物慰霊祭

歯学研究科では、2月22日(水)に歯学部動物実験慰霊碑前において、平成23年度動物慰霊祭を開催しました。

当日は小雨の降る中、豊澤歯学研究科動物実験委員会委員長による慰霊の詞に続いて、多数の参列者が感謝と哀悼の意を表し、慰霊の碑に献花をいたしました。

(歯学研究科・歯学部)



慰霊の詞を述べる豊澤委員長

平成23年度 第20回理学研究科技術職員研修を開催

高度な専門技術の修得および自己啓発を目的として、第20回理学研究科技術職員研修を開催しました。

9月2日(金)の学外研修は、島津製作所創業記念資料館を見学、午後から京都工芸繊維大学を訪問、施設見学と技術職員の交流をしました。

11月11日(金)の学内研修は、篠原厚理学研究科長の講話と技術賞表彰式、松多健策准教授及び菊池和徳講師の講義を受講しました。午後から大湊光央特例嘱託技術職員及び飯島憲一技術職員の2件の技術賞受賞講演、3件の技術発表、1件のグループ研修報告を行いました。

2月24日(金)の学内演習は、青島貞人技術部運営委員長の挨拶、福本敬夫助教の講義を受講、その後、分析測定室が主体となり「分子の構造解析入門」と題して、分析装置を使用した演習を行いました。

今年度も各職員が意欲的に研修に取り組み、充実した3日間の研修となりました。

(理学研究科・理学部)



教員養成のための豊能地区3市2町教育委員会との連携協力に関する協定を締結しました

本学と豊能地区3市2町(豊中市、池田市、箕面市、豊能町、能勢町)の教育委員会は、2月28日(火)に、教職員の資質向上及び教員養成の充実を図るとともに、本学及び3市2町における教育・研究の充実、発展に資することを目的として、教員養成のための連携協力に関する協定を締結しました。

協定には、3市2町教育委員会からの教職員の採用選考に関する情報提供や大学において教職員をめざす学生等の学校教育活動の体験事業等に関すること等が盛り込まれており、教員志望者の質の向上や就職支援につながるものとして期待されます。

(学生部学務課)



豊能地区3市2町の教育長と東島清理事・副学長

平成25年度採用分日本学術振興会特別研究員募集に関する説明会を開催

2月28日(火)に大阪大学会館において、平成25年度採用分日本学術振興会特別研究員説明会を開催しました。

日本学術振興会特別研究員制度について周知し、本学における応募件数の拡大と採用率の向上を図ることを目的に、応募予定者と研究職を目指す大学院生等を主な対象者として開催し、約170名の参加がありました。制度の概要と審査方法、具体的な内容を交えた申請に係るアドバイス、応募手続きの流れや電子申請方法についての説明は、「参考になった」と参加者に好評でした。

(研究推進部研究推進課)



講演する医学系研究科藤田特任助教
(特別研究員経験者)

個人情報取扱い者説明会実施

個人情報取扱い者説明会が2月22日(水)、28日(火)及び29日(水)に、それぞれ吹田、箕面及び豊中の3地区で実施されました。

本説明会は、個人情報保護に関するリスクマネジメントの取組みへの対応の一環として、本学の保有個人情報を取り扱う教職員に、個人情報の適切な管理の必要性の理解や保護意識の高揚を図ることを目的に開催され、3地区から165名の参加がありました。

説明会では、個人情報の統括保護管理者の尾山理事から挨拶の後、担当の総務企画部評価課職員から、個人情報の取扱いの重要性や取組みのポイントについて説明が行われました。

(総務企画部評価課)



熱心に説明を聴く参加者

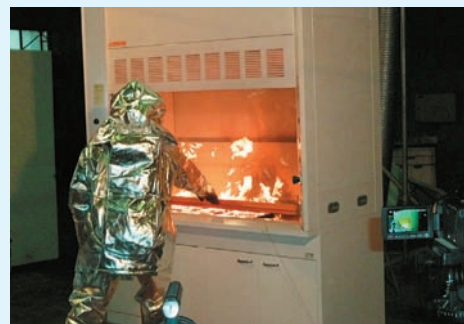
安全衛生管理部で実験室の火災実験を実施

2月29日(水)に安全衛生管理部では、安全講習に用いる有機溶剤への引火による火災のビデオ映像の撮影や各種実験設備の火災に対するダメージの実証試験と有効な防御策の樹立を目的に、大阪府立消防学校(大東市)において実験室の火災実験を行いました。

本実験では、吹田市消防本部や大阪府立消防学校のほか、火災実験で使用する各種実験設備を多数提供いただくなど、三進金属工業株式会社を中心に株式会社アズワン、ヤマト科学株式会社などの企業から多岐にわたるご協力をいただきました。

安全衛生管理部では、本実験で得られた映像や燃焼データ等の貴重な情報を生かして、安全教育のさらなる充実に努めてまいります。

(安全衛生管理部)



火災実験の様子

学生支援ステーション 「フロントスタッフミーティング(第4回)」を開催

学生支援ステーションでは、3月7日(水)に、各学部・研究科等から40名を超えるフロントスタッフの皆さんの参加のもと、フロントスタッフミーティングを大阪大学会館アセンブリーホールにおいて開催しました。

今回は初の試みとして、理学部なんでも相談室及び人間科学部学生支援室の取り組み状況の報告、続いて参加者を6グループに分けグループ討議を行い、各部局における課題と対応等について情報共有するなど大変有意義なものとなりました。今後も定期的にフロントスタッフミーティングを開催し、全学的・横断的な連携と情報等の共有を進めていく予定です。

(学生支援ステーション／学生部学生・キャリア支援課)



熱心に聞き入るフロントスタッフ

平成23年度第2回男女共同参画セミナー

「府大と阪大徹底比較！―男女共同参画推進の取り組みについて―」

多様な人材活用推進本部男女共同参画推進オフィスは、3月6日(火)、銀杏会館大会議室において、平成23年度第2回男女共同参画セミナー「府大と阪大徹底比較！―男女共同参画推進の取り組みについて―」を開催しました。

今回は、大阪府立大学女性研究者支援センター田間泰子センター長をお招きし、大阪府立大学での男女共同参画推進の取り組みについて講演していただきました。続いて、本学の取り組みの報告を行いました。また、質疑応答の時間には、参加者と講演者との意見交換がなされ、大変意義深いセミナーとなりました。

(総務企画部多様な人材活用推進支援室)



田間センター長による講演

STA（シニア・ティーチング・アシスタント）講習の実施について

本学では、平成22年6月以降、TA制度の見直しについて検討し、平成24年度からTAをジュニア・ティーチング・アシスタント(JTA)とシニア・ティーチング・アシスタント(STA)とに区分することとし、教育に関連する単純作業のみを担当するスチューデント・アシスタント(SA)を新たに設けました。

STAについては、教員の指導の下、授業の企画にも参画するなど、より高度な業務を担当するもので、事前に実施するSTA講習会の受講が義務付けられています。

今年度については、3月16日(金)に豊中キャンパスで、23日(金)に吹田キャンパスで同講習がそれぞれ実施されました。

当日は、学外から講師を招いての講演やグループワーク等が行われ、豊中キャンパスで64名、吹田キャンパスで116名のSTA予定学生が受講し、活発な議論等が行われました。

(学生部学務課)



総長等への表敬訪問

2月14日(火)オランダ王国・グローニンゲン大学教授の表敬訪問について

2月14日(火)、グローニンゲン大学 Dr. Janny de Jong と Drs. Jodien Houwers が、平野俊夫総長を表敬訪問されました。本学からは、高橋明理事・副学長、向井弘志国際交流課長が同席し、適塾記念センターのオランダ学研究部門について、意見交換が行われました。また、本学訪問期間中、グローニンゲン教育研究センターや大学間学術交流協定をとおして繋がり深い部局や教員を訪問し、両大学間のさらなる交流促進に向けた懇談が行われました。



【左から】Dr. Janny de Jong、Drs. Jodien Houwers、平野総長

2月29日(水)ベトナム社会主義共和国・ハノイ国家大学自然科学学校学長の表敬訪問について

2月29日(水)、ハノイ国家大学自然科学学校 Prof. Bui Duy Cam 学長と Prof. Bach Thanh Cong 物理学部長が、高橋明理事・副学長を表敬訪問されました。本学からは、工学研究科笠井秀明教授、住吉賢司国際交流課長補佐が同席し、ベトナム社会主義共和国の教育制度を背景としたハノイ国家大学の教育の歴史、取組みについて説明いただいた後、学術交流協定を基礎とした両大学のさらなる発展に向けて意見交換が行われました。



【中央から右】高橋明理事・副学長、
Prof. Buy Duy Cam、Prof. Bach Thanh Cong

平成24年度
個別学力検査等実施

平成24年度個別学力検査等は、吹田および豊中キャンパスで実施され、各学部等関係者の方々のご協力により、無事終了しました。

一般選抜の志願者数及び志願倍率は、前期日程7,148名（2.6倍）、後期日程5,117名（10.2倍）で、両日程を合わせると12,265名でした。

平成24年度大阪大学入学者選抜試験（前期日程）合格者数等調

学部	学科・専攻	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数
文 学 部	人文学科	125	399	3.2倍	391	133
人間科学部	人間科学科	100	304	3.0倍	300	108
外国語学部	(中国語専攻)	30	46	1.5倍	46	30
	(朝鮮語専攻)	13	36	2.8倍	36	14
	(モンゴル語専攻)	13	31	2.4倍	31	14
	(インドネシア語専攻)	7	15	2.1倍	14	8
	(フィリピン語専攻)	9	25	2.8倍	25	10
	(タイ語専攻)	11	24	2.2倍	24	12
	(ベトナム語専攻)	11	53	4.8倍	53	12
	(ビルマ語専攻)	13	32	2.5倍	32	14
	(ヒンディー語専攻)	13	26	2.0倍	26	14
	(ウルドゥー語専攻)	13	47	3.6倍	46	14
	(アラビア語専攻)	19	41	2.2倍	41	21
	(ペルシア語専攻)	13	32	2.5倍	30	14
	(トルコ語専攻)	13	33	2.5倍	33	14
	(スワヒリ語専攻)	13	27	2.1倍	27	14
	(ロシア語専攻)	19	76	4.0倍	76	21
	(ハンガリー語専攻)	11	44	4.0倍	44	11
	(デンマーク語専攻)	13	38	2.9倍	38	14
	(スウェーデン語専攻)	13	43	3.3倍	43	14
	(ドイツ語専攻)	26	66	2.5倍	66	28
	(英語専攻)	45	99	2.2倍	98	47
	(フランス語専攻)	19	50	2.6倍	50	21
	(イタリア語専攻)	13	35	2.7倍	34	13
	(スペイン語専攻)	26	60	2.3倍	59	28
	(ポルトガル語専攻)	23	68	3.0倍	68	25
	(日本語専攻)	22	67	3.0倍	67	22
	外国語学部 計	421	1,114	2.6倍	1,107	449
法 学 部	法学科	145	358	2.5倍	349	153
	国際公共政策学科	68	165	2.4倍	161	73
	法学部 計	213	523	2.5倍	510	226
経 済 学 部	経済・経営学科	185	507	2.7倍	498	201
理 学 部	数学科	38	103	2.7倍	102	42
	物理学科	58	181	3.1倍	177	64
	化学科	60	183	3.1倍	177	65
	生物科学科	25	89	3.6倍	86	28
		10	17	1.7倍	17	11
	理学部 計	191	573	3.0倍	559	210
医 学 部	医学科	85	248	2.9倍	232	88
	看護学専攻	68	144	2.1倍	140	75
	放射線技術科学専攻	35	73	2.1倍	69	40
	検査技術科学専攻	30	87	2.9倍	86	36
	医学部 計	218	552	2.5倍	527	239
歯 学 部	歯学科	48	116	2.4倍	101	48
薬 学 部	薬学科	20	105	5.3倍	100	21
	薬科学科	50	139	2.8倍	139	50
	薬学部 計	70	244	3.5倍	239	71
工 学 部	応用自然科学科	217	536	2.5倍	533	228
	応用理工学科	248	546	2.2倍	542	258
	電子情報工学科	162	414	2.6倍	407	168
	環境・エネルギー工学科	75	155	2.1倍	153	80
	地球総合工学科	118	256	2.2倍	254	123
	工学部 計	820	1,907	2.3倍	1,889	857
基礎工学部	電子物理科学科	74	144	1.9倍	143	76
	化学応用科学科	63	221	3.5倍	216	65
	システム科学科	127	399	3.1倍	389	132
	情報科学科	62	145	2.3倍	142	65
	基礎工学部 計	326	909	2.8倍	890	338
合 計		2,717	7,148	2.6倍	7,011	2,880

注：① 志願者数及び受験者数は、理学部、工学部、基礎工学部では第1志望学科で集計している。
② 複数の募集単位（学科・専攻）のある学部には、計を設けている。

前期日程試験は、2月25日(土)及び26日(日)に行われ、7,011名が受験し、合格者発表は、3月8日(木)に行われ、合格者数は2,880名でした。

続いて、後期日程試験が3月12日(月)、13日(火)及び

14日(水)に行われ、2,050名が受験し、合格者発表は、3月22日(木)に行われ、合格者数は569名でした。

なお、両日程合わせた合格者数は3,449名でした。

(学生部入試課)

平成24年度大阪大学入学者選抜試験（後期日程）合格者数等調

学部	学科・専攻	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	
文 学 部	人文学科	40	333	8.3倍	173	48	
人間科学部	人間科学科	30	229	7.6倍	129	31	
外国語学部	(中国語専攻)	10	49	4.9倍	24	11	
	(朝鮮語専攻)	5	42	8.4倍	19	5	
	(モンゴル語専攻)	5	39	7.8倍	21	6	
	(インドネシア語専攻)	3	19	6.3倍	9	4	
	(フィリピン語専攻)	3	27	9.0倍	16	4	
	(タイ語専攻)	4	27	6.8倍	15	5	
	(ベトナム語専攻)	4	47	11.8倍	31	6	
	(ビルマ語専攻)	5	38	7.6倍	19	6	
	(ヒンディー語専攻)	5	30	6.0倍	12	6	
	(ウルドゥー語専攻)	5	39	7.8倍	26	5	
	(アラビア語専攻)	6	64	10.7倍	26	8	
	(ペルシア語専攻)	5	54	10.8倍	31	6	
	(トルコ語専攻)	5	47	9.4倍	21	6	
	(スワヒリ語専攻)	5	34	6.8倍	18	7	
	(ロシア語専攻)	6	82	13.7倍	48	8	
	(ハンガリー語専攻)	4	28	7.0倍	16	5	
	(デンマーク語専攻)	5	46	9.2倍	29	6	
	(スウェーデン語専攻)	5	58	11.6倍	30	7	
	(ドイツ語専攻)	9	57	6.3倍	25	10	
	(英語専攻)	15	103	6.9倍	46	17	
	(フランス語専攻)	6	43	7.2倍	21	8	
	(イタリア語専攻)	5	37	7.4倍	18	6	
	(スペイン語専攻)	9	62	6.9倍	28	10	
	(ポルトガル語専攻)	7	53	7.6倍	29	10	
	(日本語専攻)	8	54	6.8倍	29	8	
		外国語学部 計	149	1,179	7.9倍	607	180
	法 学 部	法学科	25	390	15.6倍	167	25
国際公共政策学科		12	164	13.7倍	73	13	
法学部 計		37	554	15.0倍	240	38	
経 済 学 部	経済・経営学科	35	385	11.0倍	148	35	
理 学 部	数学科	9	165	18.3倍	62	10	
	物理学科	18	330	18.3倍	121	20	
	化学科	17	272	16.0倍	96	20	
	生物科学科	(生物科学コース)	—	—	—	—	
		(生命理学コース)	20	136	6.8倍	54	20
	理学部 計	64	903	14.1倍	333	70	
医 学 部	医学科	15	169	11.3倍	27	15	
	保健 学 科	看護学専攻	10	76	7.6倍	24	14
		専門高校卒業生選抜 (看護学専攻)	2	0	0.0倍	—	—
		放射線技術科学専攻	5	33	6.6倍	14	5
		検査技術科学専攻	10	60	6.0倍	26	10
	医学部 計	42	338	8.0倍	91	44	
歯 学 部	歯学科	5	62	12.4倍	28	5	
薬 学 部	薬学科	5	69	13.8倍	29	6	
	薬科学科	5	87	17.4倍	35	7	
	薬学部 計	10	156	15.6倍	64	13	
工 学 部	応用自然科学科	募集停止					
	応用理工学科						
	電子情報工学科						
	環境・エネルギー工学科						
	地球総合工学科						
	工学部 計						
基礎工学部	電子物理科学科	20	254	12.7倍	57	23	
	化学応用科学科	17	227	13.4倍	57	18	
	システム科学科	34	336	9.9倍	88	42	
	情報科学科	17	161	9.5倍	35	22	
	基礎工学部 計	88	978	11.1倍	237	105	
合 計		500	5,117	10.2倍	2,050	569	

注：① 志願者数及び受験者数は、理学部、工学部、基礎工学部では第1志望学科で集計している。

② 複数の募集単位(学科・専攻)のある学部には、計を設けている。

③ 医学部医学科の3/12本試験筆記試験(小論文)受験者は51名、同合格者は27名である。表中の3/12本試験受験者数は面接試験受験者数である。

施設整備とキャンパス環境の改善

以下の施設整備とキャンパス環境の改善工事が完了しました。

立体駐車場（医学部）



構造：鉄骨造
規模：地上2階
延べ面積：6,913㎡
着工年月：平成23年9月
完成年月：平成24年2月

医学部及び附属病院エリアの慢性的な駐車場不足を解消するため、業務達成基準にて、2階建て（3層）の480台（平面駐車場を含む）の駐車能力のある駐車場を整備しました。これにより違法駐車も減少し、構内交通環境の改善に繋がることが期待されます。

工学E3棟、A1棟（耐震改修）



構造：鉄筋コンクリート造
規模：工学E3棟 地上9階
工学A1棟 地上4階
改修面積：工学E3棟 3,576㎡
工学A1棟 2,823㎡
着工年月：平成23年3月
完成年月：平成24年3月

【工学A1棟】

工学E3棟は建物外周部に新たに壁を設けたダブルスキン工法による耐震補強を行い、仕上げにはタイルを張るなどの改修を行いました。工学A1棟は鉄骨ブレース補強により安全性を確保し、外装も一新しました。

また、内部仕上げ、建具改修、空調設備、エレベーター、照明設備などの更新を行うなど、建物の機能改善も実施しました。

人間科学研究科本館（耐震改修）



構造：鉄筋コンクリート造
規模：地上5階
改修面積：2,920㎡
着工年月：平成23年7月
完成年月：平成24年2月

人間科学部本館改修のⅠ期工事として、建物外周部に新たに壁を設けたダブルスキン工法による耐震補強を行い、仕上げにはグレー色のタイルを張るなど、外装を一新しました。

内部仕上げや建具改修、空調設備、照明設備の更新を行うなど、建物の機能改善も実施しました。また1階にはインターナショナルカフェを設けるなど学生教職員の交流スペースを配置しました。

大学教育実験棟Ⅱ（内部改修）



構造：鉄筋コンクリート造
改修面積：689㎡
着工年月：平成23年11月
完成年月：平成24年2月

大学教育実験棟Ⅱの4階エリアにおいて、廊下と実験室の間のコンクリート壁を撤去し、可動式のガラス製パーティションに模様替えするなど、学生等の利用者に対して明るく、開放的で多目的に利用できるスペースへの改修を実施しました。

サイン整備



【吹田キャンパス】



【豊中キャンパス】

これまで、「わかりにくい」、「不親切」などの意見がありました構内サインを、『大阪大学バリアフリーとサインのフレームワークプラン』に基づき、吹田・豊中・箕面の各キャンパスにおいて、全体地図標識・部分地図標識・街路名称標識等のデザインを統一し、改善を図りました。

バス停屋根整備



【吹田キャンパス】



【豊中キャンパス】

多くの学生が利用する吹田キャンパスの人間科学部前及び工学部前、並びに豊中キャンパスの図書館前のスクールバスのバス停に屋根を設置し、利用者が快適にバスを待つことができる環境を整えました。

平成23年度 卒業式・大学院学位記授与式挙行

平成 23 年度卒業式・大学院学位記授与式が、3 月 22 日（木）に大阪城ホールで挙行され、3,518 名に学士の学位、2,102 名に修士の学位、90 名に法務博士（専門職）の学位、502 名に博士の学位が授与されました。

開式後は、受領代表者への学士学位記授与に始まり、次いで、楠本奨学会から各学部・学科の優秀な卒業生に贈られる「楠本賞」が 24 名に授与され、引き続き、修士、法務博士（専門職）及び博士の学位記が授与されました。

続いて総長からの式辞の後、大阪大学 OB の方による「記念講話」として、今年度は、伊藤忠商事株式会社取締役会長である小林栄三様（昭和 47 年基礎工学部卒業）を講師にお招きしてご講話をお願いし、「自分の得意分野を作り、逃げずに問題を直視できる人になって欲しい。また、世の中の出来事に対して感性豊かに接し、多様な価値観を理解し、リスクとすることによりグローバルな問題に対応できる人になることを期待する。」と激励のお言葉をいただきました。

卒業式・大学院学位記授与式での総長式辞は以下のとおりです。

（総務企画部総務課）

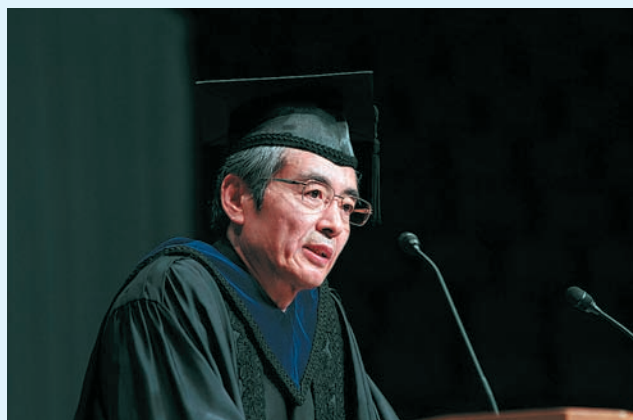


小林栄三氏による記念講話

平成23年度卒業式・大学院 学位記授与式総長式辞

「物事の本質を見極め世界に羽ばたく」

ここに集われた 3518 名の学部卒業生のみなさん、2604 名の大学院修士生のみなさん、そして専門職博士の学位を授与された 90 名のみなさん、本日はおめでとうございます。この卒業と修了の式にあたり、これまでみなさんが積み重ねてきた努力と研鑽とを、大阪大学を代表いたしまして心から讃えたいと思います。また、この日まで長きにわたってみなさんの勉学と研究を支えてこられたご家族の方々に心よりお祝い申し上げるとともに、深く敬意を表したく存じます。



皆さん、ご存知のように 2007 年に大阪外国語大学と大阪大学は統合を果たしました。大阪大学外国語学部生として初めてお迎えした皆様を本日、卒業生としてお送りできること、大阪大学総長といたしましては大変感慨深いものがあります。

その外国語学部卒業生はじめ皆さんは、本日晴れて学士や修士そして博士の学位を取得され、今後社会の様々な

分野で、培った知識と経験に基づき活躍することが期待されています。一人一人が、それぞれの胸に思いを抱き、これから進むべき道に夢を膨らませておられることと思います。

私が皆さんに期待することがあります。それは、いかなる分野に進もうとも、「物事の本質を見極め世界に羽ばたいて欲しい」ということです。

昨年起きた日本にとって国難ともいえる東日本大震災やそれに続く原子力発電所の事故を契機にリーダー不在が浮き彫りにされました。ある新聞の世論調査で（注釈 1）、理想的なリーダーとして、1 位に坂本龍馬、2 位に織田信長、3 位に徳川家康と、いずれも歴史上の人物がトップ 3 を占めたことが報道されていました。坂本龍馬をあげた理由として「私欲が無い」や「将来あるべき姿を見据えていた」という回答が寄せられたそうです。また、リーダーの必要条件は、「決断力」、「責任感」、「先見性」、「交渉力」、「正義感」、「計画性」、「協調性」などが上位を占めていたそうです。

私は常日ごろ、リーダーの条件として、「志」、「理念」、そして「恕」の 3 つをあげています。リーダーたるものは、まずは志がなくてはなりません。高い志がなければ人は誰

注釈 1：産経新聞平成 24 年 1 月 1 日朝刊





もついてきません。例えば、「会社を自動車産業の世界トップ企業に育てる」、「情報通信の革命を引き起こす」、あるいは、「高い効率を有する太陽光発電を開発する」や「癌の画期的な治療薬を開発する」など、様々な志を有する必要があると思います。そして、これらの志は高ければ高いほど人は魅力を感じ、その人について行こうとします。では、志が高ければそれでリーダーになれるかと言えば、答えはノーです。理念が何であるかが重要です。何のために、どのような考えで、そのような志を抱くのか？それが重要です。ある人は、大金持ちになるために癌の治療薬を開発したいのかもしれません。またある人は、病気で苦しむ人を助けたいと考えるのかもしれません。志は同じでも、理念が人々の共感を得なければ決してリーダーにはなれません。では、志が高く、理念が素晴らしければリーダーになれるのでしょうか？私は、さらに「恕」の気持ちが大切であると考えます。「恕」は「如し」という字に「心」と書きます。すなわち、「そのまま」のものを自身が「心」で受け止めること。相手の立場を考えて、相手の気持ちに立ち、その人を許すというような、「大きな心を持ち、人を思いやる心」。この「恕」ということがリーダーとしては、大変重要だと考えています。

そして社会で責任ある立場に立つ人は「志」、「理念」、「恕」の3つに加えて、「物事の本質を見極める能力」を身につけることが重要だと思います。目の前の物事に的確に対応するためには、その出来事の裏に潜む、真の原因、なぜそのような問題が生じているのか、を見極める能力がなければなりません。例えば、ある電気製品の売れ行きが芳しくないとしましょう。大幅に値引きをすれば一時的に売れ行きは向上するかもしれません。しかし物事の本質、すなわち真の原因が何かを見極め、それを根本的に解決しなければ、それは一時しのぎに終わります。その製品の性能が悪いのか？性能は素晴らしいけれどデザインが良くないのか？あるいはそもそもそのような製品を世の中の人には必要としていないのではないのか？その製品が売れない真の理由を見極めて、それを根本的に解決しなければ本当の解決とはいえません。また目の前の問題を解決したいと考えるあまりに全体像を見失うと、物事の本質を見失い、誤った方向に物事を導いてしまいます。よく、「木を見て森を見ず」と言われます。目の前の木だけを見て、その木にとっ



て最も相応しい手入れをすれば、確かにその木は一時的には良く育ち、見栄えも良くなるかもしれません。しかし、その木のために最適な手入れをすることが、森全体にとってマイナス効果をもたらし、結局は森の一つであるその木にとっても不利益な結果をもたらすかもしれません。社会で責任ある立場に立つ皆さんは、常に目の前の問題を解決するだけでなく、俯瞰的な立場に立って物事の本質を見極める必要があるのです。

皆さんは、大阪大学で、授業や研究活動、あるいはクラブ活動や社会活動など様々な経験を積み、物事の本質が何かを見極める能力が備わっているはずです。いかなる出来事や問題の解決に立ち向かう時でも、常にその物事の本質は何か？という質問を自らに問いかけ、本質を明らかにすることにより問題の根本的な解決を目指して欲しいと思います。そして、いずれの分野に進もうとも、その分野のリーダーになって我が国の将来は勿論のこと、人類の発展と福祉の向上に貢献して欲しいと思います。大阪大学で学んだ皆さんには、リーダーとして、世界で活躍できる能力が備わっていると信じ、品格を持って進んでいただきたいと思います。なぜ私がそう信じているかを少しお話させていただきます。どのような組織や個人でも、その組織や個人の現在は、過去の歴史やその人の生き立ちに由来し、経験はDNAとして受け継がれており、未来を語るときには決してそれらを無視できません。皆さんは全員、「大阪大学で学んだ」という共通の歴史を有することになりました。大阪大学卒業生であるという意味で、社会から選ばれた人として見られ、選ばれた人間として社会に対する責任も有します。では、皆さんが学んだ大阪大学とは一体どのような大学でしょうか。本日、大阪大学を卒業されるにあたり、皆さんが学ばれ、皆さんの未来を形成する重要な一部になるであろう大阪大学を今一度考えてみたいと思います。

大阪大学は、「大学は『学問と教育の府である』、アカデミズムを追求することこそが、我々大学人に課せられた使命である」という理念のもと、「大阪大学を世界屈指の大学とするとともに、高い倫理観を有した優れたグローバル人材を育成する」という高い志をもって、22世紀にも輝き続ける大学であるため構成員全員の英知と力を合わせてさまざまな努力を積み重ねています。

昨年、大阪大学は創立 80 周年の節目の年を迎えました。「大阪にも帝国大学を」という地元大阪府民の熱意と、現在楠本賞という名前で皆さんもご存知の、当時の大阪府立医科大学長の楠本長三郎先生や大阪府知事の柴田善三郎氏ら関係者の努力により、1931 年、医学部と理学部の 2 学部からなる「大阪帝国大学」が、長岡半太郎初代総長の下、我が国第 6 番目の帝国大学として誕生しました。特筆すべきは、100% 府民のお金だけで創設された帝国大学であるという点です。

江戸時代末期の 1838 年、緒方洪庵が「新知識をもって世の中の人を救う」ことを目的に私塾として設立した「適塾」の自由な学問的気風と先見性は、大阪府立医科大学を経て、医学部と理学部へと繋がります。1933 年には大阪工業大学が工学部として加わりました。戦後、新たに法文学部が加わった際に、江戸時代後期、大坂町人が町人のために漢学や国学などを伝習した「懷徳堂」の蔵書類が、懷徳堂文庫として本学に寄贈され、大坂の町に息づいた独創的な学問と思想・文化を受け継ぐに至りました。新制大学としてスタートした際には、法文学部を文学部と法経学部に変更し、現在の総合大学としての骨格が整いました。

このように、「適塾」を原点として、「懷徳堂」の精神を受け継ぎ、大阪府民の熱意に支えられた本学は、「地域に生き世界に伸びる」をモットーに、2004 年の国立大学法人化、2007 年の大阪外国語大学との統合を経ながら、我が国を代表する総合大学として、世界に向かってたゆみなく発展を遂げ、幾多の優れた研究者、教育者、文化人、そして政財界など各界の指導者や卓越した人材を世に輩出してきました。

大阪大学の原点でもある適塾について、もう少しお話しします。

外国語学部のルーツである大阪外国語学校出身の司馬遼太郎が小説『花神』の冒頭で以下のように述べています。

「適塾」という、昔大阪の北船場にあった蘭医学の私塾が、因縁からいえば国立大阪大学の前身ということになっている。宗教にとって教祖が必要であるように、私学にとってもすぐれた校祖があるほうが望ましいという説があるが、その点で言えば、大阪大学は政府がつくった大学ながら、私学だけがもちうる校祖を持っているという、いわば奇妙な因縁を背負っている。江戸期もおわりにちかいく、大阪で、「過書町の先生」といわれた町の蘭方医緒方洪庵が、ここである校祖である。

適塾には青森県を除く全国から 1000 名以上の塾生が集まり、日夜勉強に励みました。その中には塾頭を務め、後に慶応義塾大学を創設した福沢諭吉、諭吉の後に塾頭を務め、我が国の医療制度、公衆衛生制度の基礎を築いた長与専斎、開国の必要性という先見性を持ちながら、安政の大獄で 25 歳の若い命を落とした橋本左内、日本赤十字社の前身の博愛社を創設した佐野常民、明治政府で近代的な軍

隊制度を創った大村益次郎、外交で列強各国と対峙し活躍した大鳥圭介、さらには 1810 年に設立された東京大学医学部の初代総理を務めた池田謙斎など、様々な分野でリーダーとして活躍した人々が適塾で育ちました。適塾が明治初期における我が国の近代化に大きな役割を果たしたといえます。



さらに、福沢諭吉の「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」という言葉はあまりにも有名ですが、彼の言葉で私の好きな言葉があります。

適塾豈唯風月のみならんや 渺茫たる塵界自ら天真 世情説くを休めよ意の如くならずと無意の人は乃ち如意の人

つまり、適々とは、「花鳥風月を愛でる『自適』の境地を言うだけでなく、俗世でさえ己の心に適う生き方をする。この世は思い通りにならないなどと言うな。何事にも無心で真摯に取り組めば、道は必ず自ずと開ける」というような意味です。私は特に「無意の人は乃ち如意の人」の下りが好きです。そのような学問的気風が大阪大学の根底にあるのです。

適塾の創始者である緒方洪庵は、12 条からなる「扶氏医戒之略（ふしいかいのりやく）」をまとめています。扶氏とは、ドイツの医師：フーフランド（C.W.Hufeland、1764-1836）のことです。その著「Enchiridion Medicum: 医学必携」のオランダ訳書をまとめ、「医者とはなにか」について、自分自身と門人への戒めとしました。その第一条には、このように書かれています。

人の為に生活して、己のために生活せざるを医業の本體とす。安逸を思はず、名利を顧みず、唯おのれをすてて人を救はんことを希ふべし。人の生命を保全し、人の疾病を復治し、人の患苦を寛解するの外他事あるものにあらず。

つまり、「医者がこの世で生活しているのは、人のためであって自分のためではない。決して楽をしようとするな。名声を求めるな。ただただ自分を捨てよ。人の命を守り、人の苦しみを理解できる人間になれ」ということです。ま



た第二条には、

病者に対しては唯病者を視るべし。貴賤貧富を顧みる事なかれ。一握の黄金を以て貧士双眼の感涙に比するに何ものぞ深く之を思うべし

とも書かれています。言うまでもありませんが、「物事の本質を見極める」そのものを伝えているのではないのでしょうか。

これらは医者たる者に向けられた言葉ですが、どの分野に歩む人にも当てはまる教訓です。

皆様が学び、本日卒業する大阪大学は、原点である適塾の自由闊達な気風と「人のため、世のため、国のため、道のため」という精神、大坂町人の学問への情熱、そして大阪府民の大阪にも帝国大学を創ろうという熱意が脈々と受け継がれているのです。そのことを誇りに思っただき、「大阪大学で学んだ」ということを、皆様のこれからの礎としていただきたいのです。

今、日本は危機を迎えています。現実とは思えない悪夢から1年が経っても、なお多くの地域で復興の目処が立たずにいます。この危機を乗り越え、日本が再び明るい未来を切り拓くことができるか否かは、若い皆さん一人一人の双肩にかかっています。社会が皆さんに求めているところ

は、様々な分野で責任あるリーダーとして社会に対する責務を果たすことです。あるいは、大阪大学で養われた知的創造活動としての基礎研究や応用研究から学んだ探求心の更なる推進です。このようなことは本学で研鑽を積み重ねた皆さんだからこそ成しうることです。

皆さんは、企業や行政機関など第一線で活躍する社会人として、あるいは各種教育研究機関で次世代の人材を育成する教育者として、あるいは未来を切り開く研究者として、そして一人の人間として、長い人生を送られるわけですが、今日の感激を忘れることなく、一瞬一瞬を大事にして、大阪大学の卒業生であるという誇りと自信を持って、未来に向かって飛躍していただきたいと思います。そして大阪大学はいつでも皆さんを応援しています。ホームカミングデイには是非とも笑顔を見せにキャンパスを訪れてください。

皆さんにあり、私に無いもの、それは未来という無限の可能性です。物事の本質を見極め世界に羽ばたいてください。

最後になりましたが、皆さんお一人お一人がこれからの長い生涯、健康で幸運に恵まれ、悔いのない人生を送られることを祈りつつ、わたしの式辞といたします。

本日はご卒業おめでとうございます。

平成 24 年 3 月 22 日

大阪大学総長 **平 野 俊 夫**



3 / 22 挙行卒業式・大学院学位記授与式学士学位記受領代表者

学部名	学科名	氏 名
文 学 部	人 文 学 科	田 辺 麻 純
人間科学部	人間科学科	RUSEV KIRIL RUMENOV
外国語学部	外国語学科	福 野 ま ゆ
法 学 部	国際公共政策学科	村 上 満里子
経 済 学 部	経済・経営学科	KRAM SOPHANICH
理 学 部	生物科学科	宮 川 武 朗
医 学 部	保 健 学 科	水 間 智 世
歯 学 部	歯 学 科	櫻 井 知 己
薬 学 部	薬 学 科	幡 生 あすか
工 学 部	環境・エネルギー工学科	酒 井 孝 輔
基礎工学部	化学応用科学科	金 井 佑 太

3 / 22 挙行卒業式・大学院学位記授与式 修士学位記受領代表者

研究科名	学科名	氏 名
文学研究科	文化形態論専攻	黛 友 明
人間科学研究科	人間科学専攻	川 口 こ と み
法学研究科	法学・政治学専攻	有 馬 徹
経済学研究科	経済学専攻	小 島 健
理学研究科	宇宙地球科学専攻	松 野 淳 也
医学系研究科	保健学専攻	荒 岡 広 子
薬学研究科	創成薬学専攻	森 尾 佳代子
工学研究科	ビジネスエンジニアリング専攻	多 門 徳 人
基礎工学研究科	機能創成専攻	飯 村 太 紀
言語文化研究科	言語社会専攻	加 納 聡 子
国際公共政策研究科	国際公共政策専攻	岩 本 学
情報科学研究科	コンピュータサイエンス専攻	堀 田 圭 佑
生命機能研究科	生命機能専攻	鈴 木 宏 和

法務博士（専門職）学位記受領代表者

研究科名	氏 名
高等司法研究科	藤 田 俊 輔

3 / 22 挙行卒業式・大学院学位記授与式 博士学位記受領代表者

研究科名	専攻名	氏 名
文学研究科	文化表現論専攻	森 勇 太
人間科学研究科	グローバル人間学専攻	野 村 恭 代
法学研究科	法学・政治学専攻	MARCELO DE ALCANTARA
経済学研究科	政 策 専 攻	本 田 圭市郎
理学研究科	物理学専攻	田 尻 邦 彦
医学系研究科	病態制御医学専攻	SUHANA BINTI MAMAT
歯学研究科	統合機能口腔科学専攻	湯 学 華
薬学研究科	応用医療薬科学専攻	山 下 琢 矢
工学研究科	生命先端工学専攻	岡 田 智
基礎工学研究科	機能創成専攻	加 藤 史 仁
言語文化研究科	言語文化専攻	小 林 雄一郎
言語社会研究科	言語社会専攻	栗 原 由 加
国際公共政策研究科	比較公共政策専攻	古 賀 麻衣子
情報科学研究科	情報基礎数学専攻	篠 原 英 裕
生命機能研究科	生命機能専攻	森 山 彩 野
連合小児発達学研究科	小児発達学専攻	志 澤 美 保

楠 本 賞 受 賞 者

部局名	学科名	氏 名
文 学 部	人 文 学 科	林 日佳理
人間科学部	人間科学科	森 篤 子
外国語学部	外国語学科	柿 島 恵 美
法 学 部	法 学 科	河 浪 潤
	国際公共政策学科	永 野 満 大
経 済 学 部	経済・経営学科	山 本 達 也
理 学 部	数 学 科	住 川 豪
	物 理 学 科	浅 羽 信 介
	化 学 科	井 川 高 輔
	生物科学科	宮 川 武 朗
医 学 部	医 学 科	松 田 祥 宏
	保 健 学 科	松 本 彩 花
歯 学 部	歯 学 科	小 野 恵
薬 学 部	薬 学 科	廣 部 祥 子
	薬 科 学 科	高 木 秀 行
工 学 部	応用自然科学科	伊 藤 将 城
	応用理工学科	松 澤 周 平
	電子情報工学科	竹 本 和 史
	環境・エネルギー工学科	酒 井 孝 輔
	地球総合工学科	中 野 尊 治
基礎工学部	電子物理科学科	西 本 修
	化学応用科学科	福 田 幸太郎
	システム科学科	寺 田 睦 世
	情報科学科	大 道 修

Well-beingの心理学 — コミュニケーション研究を踏まえて —

大学院人間科学研究科教授 大 坊 郁 夫

学生時代から一貫して、会話場面などのコミュニケーションと非言語行動について検討を行ってきた。初期の研究では主に不安などに焦点を当てた適応的なコミュニケーションについて検討している。その後、研究は対人コミュニケーション過程に影響を与える要因の検討へと推移した。特に非言語行動が印象形成に与える影響について分析し、また環境や状況や文化の違いによってコミュニケーション時の非言語行動が異なることを明らかにした。これらの研究を通して、コミュニケーションにおける非言語行動の解釈や記号化の過程を解明した。そして上記研究知見を基にして、適切な対人コミュニケーションがwell-beingの追求につながることを指摘している。この観点から、近年では実践的な応用として社会的スキル(コミュニケーション力)に着目し、これを高めるトレーニングプログラムの開発を行ってきた。以上の研究により、対人コミュニケーション過程が明らかにされ、さらには個人・社会のwell-beingの創出に貢献する知見が得られた。



だいぼう・いくお

プロフィール

略歴：昭和45年北海道大学文学部哲学科実験心理学専修課程卒業、昭和48年同大学院博士課程（心理学専攻）退学、同年北海道立札幌医科大学助手、昭和52年10月山形大学教養部専任講師、昭和55年1月同助教授、昭和63年北星学園大学文学部教授、平成8年社会福祉学部へ配置換え、平成12年大阪大学大学院人間科学研究科（人間行動学講座／対人社会心理学）教授。平成18年8月同大学研究推進室室員（平成24年3月まで）。学外では、日本社会心理学会会長、社会言語科学会会長、日本心理学諸学会連合副理事長等を歴任。

アウトな事業譲渡と会社分割 — 商法・会社法による解決の限界 —

大学院法学研究科教授 山 下 眞 弘

「許害的・濫用的」な会社分割は、きわめてホットなテーマである。事業譲渡・会社分割は私のライフワークでもあり、とくに前者は実に40年も追究してきた課題であるが、最終講義では近年注目の会社分割を中心にお話した。具体的には、A社から新設のB社に会社分割をした事案で、「X1・X2は元A社の債権者であったが、B社への優良部門の分割に伴い、X2のみB社の債権者として移動させ、X1はA社に残存する債権者となった」というものである。この場合、①Aに残された債権者X1は、債務者Aには請求できるが、Bには請求できない。②AからBに移された元Aの債権者X2は、支払能力ある債務者Bに請求できる。③本事例のA→Bの会社分割は、債権者X1を害する許害行為ではないかが問題となった。



現行の解決としては、①事業譲渡に関する会社法22条1項、②法人格否認の法理、③会社分割無効の訴え、そして、④民法の許害行為取消権による解決がありうるが、決定打はなさそうである。許害的会社分割は、「合法的」な形で会社法制度を悪用して一部の債権者を害する行為であり、このような「脱法行為」は会社法では解決が困難という見方もあるが、あくまでも会社法の中で解決を目指すべきか。いま学界でも議論の最中であるが、タイミングよく会社法制の見直しに関する中間試案が出された。

Aの労働者Xの「継続的地位」はどうなるかも関連して問題となる。事業譲渡はA社とB社の個別的取引で、A社とXの労働契約は、A・BおよびXの三者の同意がなければBに移転しない。これに対し、会社分割では、その事業部門に専属する労働者は、その部門の分割に伴って承継会社に移転する。移転するのが労働者にとって常に有利とは限らないところに問題が潜んでいる。

やました・まさひろ

プロフィール

略歴：昭和22年大阪生まれ。関西大学法学部卒業、同大学院法学研究科修士課程修了、同大学院法学研究科博士課程修得退学。島根大学講師、同大学助教授、同大学教授、立命館大学教授を経て、大阪大学大学院法学研究科教授。法学博士。主な研究テーマは事業譲渡・会社分割に関するものであるが、同時にわが国では少ない国際手形法の研究者でもある。さらには、会社法と隣接する経済法・労働法・税法等と関連する研究も精力的にこなしつつある。平成23年から弁護士としても活動を開始し、民事事件のみならず刑事事件も担当する。学会活動としては、日本私法学会理事および信託法学会理事を務めるとともに、社会活動としても大阪府労働委員会公益委員として労働事件を数多く取り扱ってきた。

計算機物理

大学院理学研究科教授 赤井 久 純

計算機物理は、計算機による数値計算を主たる手法として、物理の現象の背後にある法則やその帰結を探っていこうとする物理学の分野である。とくに私が専門とする物性理論では、精密な計算を通じて物質の個別性の起源を明らかにしていくことが中心的な課題である。ここ40年、計算機の急速な発達とともに発展してきた方法論であるが、今後ますます重要となってくることは疑うべくもない。これまでは、物理現象や物性を、与えられた境界条件や外部パラメータのもとでの「シミュレーション」によって再現しようとする方向性が主であったが、今後は、さらに高度な方法論である、与えられた物理現象や望みの物性を生じるために必要な境界条件や外部パラメータを見いだす「デザイン」の方向性が重要になってくると考えている。過去40年間にわたって起こってきた計算物性理論における様々な概念上のブレークスルーを、それにとともに私自身が経験した、背後にある物理への理解の深まりと興味をおりまぜながら、ふりかえてみるとともに、将来を展望したい。



あかい・ひさすみ

プロフィール

略歴：昭和46年3月大阪大学理学部物理学科卒業。昭和49年3月同大学大学院理学研究科修士課程修了。昭和52年3月同大学大学院理学研究科博士課程修了、同大学理学博士。日本学術振興会奨励研究員を経て昭和53年4月奈良県立医科大学助手。同大学講師、助教授を経て平成6年3月大阪大学教養部教授。平成6年4月理学部教授。平成8年4月大学院理学研究科教授。平成24年3月大阪大学を退職、同年4月より名誉教授、大阪大学海外拠点本部特任教授（グローバル教育研究センター長）。この間、昭和58年より昭和60年までドイツ・ユーリッヒ研究所研究員、平成元年東京大学物性研究所客員部門講師。専門は物性理論。

単結晶育成と重い電子系の物理

大学院理学研究科教授 大 貫 淳 睦

私が学生だった頃は、物性物理学の中で磁性と超伝導は相容れず犬猿の仲でした。ところが、ある種の希土類・アクチノイド化合物の中のf電子は、磁気を担うと同時に、低温で有効質量がとてつもなく大きい、いわゆる重い伝導電子となって超伝導を示します。この重い電子系の物理がこの数十年で著しく発展しました。新物質の発見と純良な単結晶の育成、そして低温・強磁場・高圧下での測定技術に支えられたことが大きいと思います。学生さんやスタッフと一緒に苦楽をともにし、今日まで重い電子系の物理の研究に取り組んでこられたことにとても感謝しています。私は単結晶育成が大好きです。どうしてこんなに単結晶育成が好きなのか、自分でも不思議に思うのですが、小学校4年生から2年半かけて投網を作ったことに遡るのかもしれませんが。投網を作った後に、溶融した鉛を鋳型に流し込み、おもりを作りましたが、こういう物作りは子供の頃から好きでした。これからも純良単結晶育成を続けたいと思います。



おおぬき・よしちか

プロフィール

略歴：昭和46年京都大学工学部金属加工学科卒業。昭和48年同大学大学院工学研究科修士課程金属加工工学専攻修了。昭和51年東京大学大学院理学研究科博士課程物理学専攻修了（理学博士学位取得）。昭和51年武蔵工業大学工学部非常勤講師、昭和52年日本学術振興会奨励研究員（東京大学物性研究所）、昭和53年埼玉工業大学工学部講師。昭和57年筑波大学物質工学系講師、助教授、教授を経て、平成6年大阪大学理学部教授（平成8年より大学院理学研究科教授）。その間、平成6年より日本原子力研究所先端基礎研究センターグループリーダー、平成13年より8年間大阪大学低温センター長（副センター長含む）、平成15年21世紀COEプログラム拠点リーダー、平成20年より日本物理学会副会長、同会長等を歴任。現在は日本学術会議連携会員。その他に、平成元年日本IBM科学賞、平成4年仁科記念賞等を受賞、平成20年には春の紫綬褒章「物性物理学」において受章。

物理学に志して

大学院理学研究科教授（現理事・副学長） 東 島 清

池や川で遊ぶ子供時代に自然への興味が芽生え、若い理科の先生の影響で実験が好きになりました。中学に入ると先生と一緒に鉱物採集や天体観測の楽しみを教わり、宇宙への興味が湧きました。私の世代の物理学者は、子供時代ラジオ少年か天文少年だった人が多いのですが、私の場合は星や宇宙に対する興味が始まりでした。

高校では大野義嗣君をはじめ素晴らしい友人達に出会い、大きな刺激を受けました。朝永博士のノーベル賞受賞（昭和40年）に勇気を得て、多くの若者が物理学を志しました。湯川博士がいる京都大学に入学したものの、授業に幻滅し友人達と英文のファインマン物理学を読み耽っていた頃、小林稔先生に自主ゼミをして頂いたのが、後に理数オナープログラムをはじめめるきっかけとなりました。

大学院では、小林・益川両博士と机を並べ多くの影響を受けました。その後も東大の西島和彦先生、KEKの菅原寛孝所長はじめ最高級の師に巡り会い、ゲージ理論・対称性の自発的破れ・超弦理論など素粒子論研究の道を歩むことができました。大阪大学では素晴らしい学生さんに囲まれ楽しく過ごすことができました。多謝。



ひがしじま・きよし

プロフィール

略歴：昭和23年1月佐賀市に生まれる。昭和41年3月福岡県立修猷館高等学校卒業。昭和45年3月京都大学理学部物理学科卒業。昭和49年9月京都大学大学院理学研究科物理学専攻博士課程中退。昭和49年10月－昭和62年3月東京大学理学部物理学科助手。昭和51年3月京都大学理学博士（論文）。昭和52年3月－昭和54年8月バーデュー大学物理学科助手。昭和62年4月高エネルギー物理学研究所物理研究部助教授。平成5年3月大阪大学教養部教授。平成6年4月理学部教授（配置換）。平成8年4月大学院理学研究科教授（配置換）。平成20年4月－平成23年8月理学研究科長・理学部長。平成20年8月－平成23年8月総長補佐。平成23年8月理事・副学長。専門分野は理論物理学（素粒子理論）。

免疫細胞の動態研究と“In vivo veritas”

大学院医学系研究科教授 宮 坂 昌 之

リンパ球は免疫系のもっとも重要な構成成分であり、免疫記憶の担い手である。リンパ球は、胸腺、骨髄などの一次リンパ組織で産生された後、血管系に入り、リンパ節やパイエル板に到達すると、高内皮細静脈（high endothelial venule; HEV）とよばれる静脈側の血管からその壁を通過してリンパ組織内に移行する。その後、リンパ球は輸出リンパ管を経てリンパ組織を離れ、胸管を介して血管系に戻り、さらにこれを繰り返す。このようなリンパ球の移住現象は一般にリンパ球ホーミングとよばれ、体内に侵入する抗原を見つけ出し排除するために必須の機構である。私は、自身の研究モットー“In vivo veritas”（生体の中に真理あり）をもとに、生体の中での免疫細胞の動態を制御する分子機序について研究を行ってきた。なかでも、HEVに特異的に発現するリゾリン脂質産生酵素 autotaxin は局所的な生理活性物質リゾホスファチジン酸の産生を誘導し、これにより、リンパ球の血管外移動を誘導する役割をもつことを初めて明らかにした。この講義では自らの研究者としての道を振り返り、生体の中の真理を知る重要性について述べた。



みやさか・まさゆき

プロフィール

略歴：昭和48年京都大学医学部卒業、同年田附興風会北野病院内科勤務、昭和49年金沢医科大学血液免疫内科助手、昭和52年オーストラリア国立大学ジョン・カーティン医学研究所へ留学、昭和56年同大学免疫学博士課程修了、PhD取得、昭和56年スイス・バーゼル免疫学研究所 Member、昭和62年（財）東京都臨床医学総合研究所・免疫研究部門・室長、平成4年同部長、平成6年大阪大学医学部附属バイオメディカル教育研究センター・臓器制御学研究部・教授、平成13年大阪大学医学系研究科細胞分子認識・教授（組織改変により名称変更）、平成17年大阪大学医学系研究科感染免疫医学講座・免疫動態学・教授（組織改変により名称変更）、平成19年大阪大学免疫学フロンティア研究センター・免疫動態学・教授、平成24年3月大阪大学を退職。現在、日本科学技術振興機構・戦略的創造研究推進事業CREST「慢性炎症」・研究総括。

小児外科とともに30年 — 出会い、そして発展 —

大学院医学系研究科教授 福澤 正 洋

昭和44年、学園紛争が最も激しい時に大阪大学に入学し、しばらく大学が封鎖されていたため授業がなく、1年次の阪大病院見学で初めて“小児外科”と出会った。更に、4年次の基礎講座配属で、当時まだ新しい分野である免疫学を学び、それが将来、免疫学を基盤にした小児外科の研究に従事するきっかけとなった。

昭和50年、卒業後直ちに小児外科のある医学部第一外科に入局し、小児外科を専攻することになり、以来30年余りが経過した。研究として腫瘍免疫学、移植免疫学を学び、更に米国NIHに移植免疫学の研究で留学した。そして帰国後は小児がん及び移植を中心とした小児外科の臨床・研究を推進した。

小児がんでは、その治療成績の向上とがん遺伝子の解析および分子標的治療の基礎的研究を行った。臓器移植に関しては、本学における小児肝移植を推進し、わが国における小児肝移植の拠点になった。また小腸移植に関しては、わが国の小腸移植推進のリーダーとして、脳死小腸移植を先進医療に承認へと尽力した。医学部附属病院に於いては小児医療の推進のため、平成20年に小児医療センターを開設した。



ふくざわ・まさひろ

プロフィール

略歴：昭和50年3月大阪大学医学部卒業後、大阪大学医学部附属病院第一外科で研修の後、昭和51年8月より市立芦屋病院外科、昭和52年8月より神戸・川崎病院外科に勤務した。昭和54年7月大阪大学医学部第一外科学教室に帰学、小児外科を専攻し、小児がんの臨床および研究を開始した。昭和57年4月より2年間、医学部癌研腫瘍発生学教室にて癌免疫の研究に従事し、昭和60年には医学博士（大阪大学）の学位を取得した。昭和58年5月医学部小児外科学助手、昭和61年1月より米国N.I.H.に留学、昭和63年1月大阪府立母子保健総合医療センター小児外科に勤務。平成元年10月大阪大学医学部小児外科学助手、平成10年1月に医学部助教授に昇任。平成10年2月日本大学医学部第一外科学講座主任教授に就任、平成15年6月より大阪大学医学部小児外科教授に就任した。平成22年4月より医学部附属病院院長、総長補佐として医学部附属病院の発展に尽力した。

小児う蝕の撲滅を目指して

大学院歯学研究科教授 大 嶋 隆

私が卒業した1972年当時、日本では小児に重度う蝕が蔓延しており、その予防と治療が急務とされていました。今考えると1960年代にはう蝕の病因はほぼ解明されていたのですが、日本ではまだ旧来の説にとらわれて、その病因論に基づく予防体制が取られるまでには至っていませんでした。小児歯科で「実験動物にう蝕を誘発させる研究」が行われると聞き、それに参加したことが小児う蝕との関いの始まりでした。この動物実験系を確立することにより、う蝕の病原細菌ミュータンスレンサ球菌の性状を明らかにしただけでなく、う蝕の予防剤としての代用糖やウーロン茶ポリフェノールの開発に参加し、その市販に協力することができました。しかし、小児う蝕の減少に最も貢献したのは、保護者である母親への正しいう蝕予防法の教育であったように思います。40年経った今では、重度う蝕をもった子どもをほとんど見なくなるほど、う蝕は減少しました。小児う蝕の撲滅までを見据えた対応が必要であると思います。



おおしま・たかし

プロフィール

略歴：昭和47年大阪大学歯学部卒業後、同歯科保存学教室に入局、昭和51年同小児歯科学講座開講時の初代スタッフ。昭和53年大阪大学歯学部助手、同年歯学博士の学位を取得、歯学部附属病院講師に昇任。昭和54年米国ノースウエスタン大学に留学（2年間）。昭和59年大阪大学歯学部助教授、平成12年大学院歯学研究科助教授を経て、平成14年大学院歯学研究科教授に就任。その後、歯学部附属病院小児歯科科長、同歯疾制御系科長、評議員、歯学研究科副研究科長、歯学部附属病院院長等を歴任。専門は小児歯科学、特にう蝕抑制を目指した細菌学的研究に従事。日本小児歯科学会理事、同常務理事、Pediatric Dental Journal編集長、日本小児歯科学会近畿地方会会長等を歴任し、平成19年に第47回日本小児歯科学会大会長を務める。平成23年に国内外の小児歯科学領域における永年の功績を讃えられ日本小児歯科学会賞を受賞。

白い雲は流れて

大学院工学研究科教授 松 尾 伸 也

現場に憧れて工学部に入学した小生が40年も大学にお世話になってしまった。それはそれで楽しい充実したキャンパス生活となったのは諸先輩をはじめとする皆様のおかげである。新たな現象を見つけて体系化する厳しい実験屋の世界も多分に自分の頑固なまでの感性に合致していたのであろう。このような頭の回路の形成過程を振り返ると、池の端で小さな虫を見つけて“おけら”と認識した時が原点であるらしい。“認識できる”ことよりも“できる理由”の記憶の飛びが子供心に重要であった。“一日”、“一週間”、“母親”、など、認識する過程の記憶は繰り返し考える格好の対象であった。ほとんど同じで僅かに異なる構造を有する、真に酷似する蛍石類似な酸化物相が複数混在する、現実か想像上か分からない複雑なナノ空間の世界がライフワークとなったのも子供の頃の屈折？した思考の延長線上にあるらしい。大抵の大人は青空が好きであるが、漂う白い雲を何時間も見つめていた子供の頃を思い出す。今後も思考をぐるりと回して蛍石類似相の世界を突き進み、環境保全・エネルギー関連技術への応用に向けて貢献していきたい。



まつお・しんや

プロフィール

略歴：熊本生まれの長崎育ち。昭和47年3月大阪大学大学院工学研究科冶金学専攻修士課程修了、同年4月大阪大学助工学部、昭和53年11月工学博士（大阪大学）、平成元年5月同大学助教授工学部、平成7年11月同大学教授工学部、平成10年4月同大学教授大学院工学研究科、平成24年3月退職。専門分野は非鉄製錬、固体化学、材料精製など。研究キーワードはイオン導電体、融体中の酸素、希土類酸化物、蛍石類似構造など。

磁場反転配位プラズマと30年

大学院工学研究科教授 岡 田 成 文

磁場閉じ込め核融合方式において、プラズマ圧力に対する閉じ込め磁場圧力の比ベータ値はシステムの経済性を表す指標の一つであり、磁場反転配位（Field Reversed Configuration：FRC）方式は1に近い究極的な高い値を持ち、優れた経済性を有している。このようなFRCプラズマは衝撃大電流セータピンチ放電により熔融石英製チェンバー内に生成され、本来はパルス的なシステムである。これに対し、原理的には温度を低下させることなく膨張させ、金属製チェンバー内に移し替える移送技術を開発し、プラズマを維持するのに必要な中性粒子ビーム入射（NBI）を適用できるパラメーターを実現、定常化への道を拓いた。このようなFRCプラズマについて実際にNBIや、波動のプラズマへの導入等、定常維持のための要素研究を行った。特に後者に関しては、外部から印可した圧縮波が振れ波に変換されプラズマ内部にまで浸透しプラズマ加熱を引き起こす過程について詳細な物理研究を進める等、FRCプラズマについて体系的、総合的な研究を行った。



おかだ・しげふみ

プロフィール

略歴：昭和46年6月東京大学理学部物理学科卒業、昭和48年3月同大学大学院理学系研究科物理学専門課程修士課程修了、昭和53年3月同専門課程博士課程を単位修得退学、同年4月名古屋大学大学院理学研究科研究生、昭和54年12月理学博士（東京大学）。昭和55年3月大阪大学助工学部附属超高温理工学研究施設、平成3年4月同大学助教授、平成7年9月同大学教授。平成10年4月同大学教授大学院工学研究科附属超高温理工学研究施設に配置換、平成15年4月同大学教授大学院工学研究科附属原子分子イオン制御理工学センターに配置換、平成20年4月から平成23年3月まで同センター長。学内においては、原子力研究・安全委員会委員等を、学外においては、日本原子力研究所核融合研究委員会専門委員、核融合科学研究所運営協議会共同研究委員会委員、核融合科学ネットワーク委員会委員等を歴任。

原子を観て、識別して、動かして組み立てる — ライフワークを探し求めて30年 —

大学院工学研究科教授 森 田 清 三

最終講義では、東北大学、岩手大学、広島大学、大阪大学と移動しながらの37年間の研究生活、その最後の大阪大学での16年間の研究で私のライフワーク「原子を観て、識別して、動かして組み立てる」研究が完成するまでを紹介した。この研究のきっかけとなったのは、30年前の東北大学での「超伝導点接触素子を用いた交流ジョセフソン電流のテラヘルツ帯周波数依存性の研究」であった。点接触抵抗の精密制御を目的として、走査型トンネル顕微鏡（STM）の研究を始めたが、原子間力顕微鏡（AFM）の発明やSTMによる極低温原子操作による世界初の原子文字組立に刺激され、「原子の世界」に研究分野をシフトした。そして、AFMによる力学的原子観察、共有結合力による室温非破壊元素識別、室温での交換型水平原子操作による原子埋め込み文字の組立、室温交換型の夢の単原子ペン（交換型垂直原子操作）による原子埋め込み文字の直接書き込みなどのマイルストーンを達成した。最後に、「新しい道具は、新しい世界を切り拓く」「原子と対話する」などのナノ研究指針と「究めて極める」「競争無き所に進歩無し」などの人生観を紹介して、最終講義を終えた。



もりた・せいぞう

プロフィール

略歴：昭和45年3月大阪大学理学部物理学科卒業、昭和50年3月大阪大学大学院理学研究科物理学専攻博士課程修了、同年4月東北大学助手電気通信研究所、昭和62年11月同大学助教授、昭和63年4月岩手大学教授工学部電子工学科、平成元年12月広島大学教授理学部物理学科、平成7年同大学教授理学部附属微晶研究・施設長を経て、平成8年4月大阪大学教授工学部、平成10年4月同大学教授大学院工学研究科、大阪大学内では、工学部留学生相談室長、低温センター長を歴任。学外では、(社)日本工業技術振興協会「走査型プローブ顕微鏡利用研究委員会」委員長、(独)日本学術振興会「ナノプローブテクノロジー第167委員会」委員長、公益社団法人日本表面科学会会長を歴任。the AVS Albert Nerken Award for 2008、平成21年度科学技術分野の文部科学大臣表彰、The 2010 IUVESTA Prize for Technology、平成23年紫綬褒章などを受賞。

ミキシングの不思議と流体のたくらみ

大学院基礎工学研究科教授 井 上 義 朗

大学院に進学した頃から、流れ場中に現れるかたちに興味を持つようになった。最初は、ベナール対流のような自発的秩序現象としてのかたちを研究し、それが博士論文となった。不安定な状態を外的に強いられた流体は、より安定な状態へとシフトするために自ら形を変える。その方法の巧みに驚かされた。

博士論文提出以降は、少し応用的色彩の濃い問題へと研究課題をシフトした。流体混合はその一つであったが、やがてカオスを初めとする非線形ダイナミクス理論に立脚した新しい流体混合理論の構築に取り組んだ。攪拌・混合操作は、化学プロセスにおける基本操作であるにも拘わらず、ほとんど理論的な解析が行われてこなかった分野である。流体物質の動きと流体中のパターンの動きは異なること、流体混合現象が容易に観測できることが逆に、多くの錯覚や誤解を生み出すこと等を指摘するとともに、流体混合の現象をより正確に説明できる新しい混合理論を構築した。これら一連の研究は、多くの学生や教員の地道な実験と理論解析の賜である。ここに深く感謝の意を表したい。



いのうえ・よしろう

プロフィール

略歴：昭和45年3月大阪大学基礎工学部化学工学科卒、昭和50年3月博士課程単位修得退学、工学博士（大阪大学）、同年4月大阪大学基礎工学部助手、その後同学部の講師、助教授を経て、平成15年4月大学院基礎工学研究科教授。平成24年3月退職。専門は輸送現象論、情報流体工学。

細胞に学ぶ ― 色素性乾皮症研究に魅せられて36年 ―

大学院生命機能研究科教授 田 中 亀代次

色素性乾皮症 (xeroderma pigmentosum: XP) は、皮膚がんを多発し神経症状を合併する遺伝疾患であり、日光紫外線等による DNA 損傷を修復する機構に異常を持ちます。私は XP や類縁疾患の細胞レベルでの病態解析を行い、遺伝情報を担う DNA が細胞の中で如何に安定に維持されているかを解明しようと研究を進めました。日本の XP 患者の中で最も多数をしめる A 群 XP の原因遺伝子 XPA や、紫外線高感受性症候群の原因遺伝子 UVSSA をクローニングし、ヒトの DNA 修復機構や患者の病態の一端を明らかにすることができました。さらに、XP タンパク質は染色体分配や核内受容体の転写活性化にも関与することを明らかにし、細胞の複雑さを改めて示すことができました。私がこのように長期間研究を継続できたのは、恩師の岡田善雄先生や、一緒に研究して下さった院生やスタッフによるところが大きく、ここに深く感謝申し上げたいと思います。



たなか・きよじ

プロフィール

略歴：昭和48年3月鳥取大学医学部医学科卒。昭和52年3月大阪大学大学院医学研究科修了。医学博士（大阪大学）。昭和56年1月医学部老年病医学講座助手、昭和60年4月細胞工学センター助教授、平成4年3月同センター教授、平成4年4月細胞生体工学センター教授、平成14年4月大学院生命機能研究科教授、平成24年3月定年退職。専門は分子生物学、人類遺伝学。

物性研究から材料開発に転じて

産業科学研究所教授 中 嶋 英 雄

私の研究歴の前半の20年間は金属材料の物性に関する研究を行い、後半の20年間は材料開発を主とした研究に従事した。材料科学・工学の分野では物性研究から材料開発に方向転換する研究者はそう多くはない。材料の開発やものづくり研究は物性分野に比べると未開拓の分野が多く、前半で培ってきた基礎科学に立脚して材料開発を行ってきた。材料開発研究の道はイバラの道であったが、研究者として遣り甲斐のある充実したものであった。物性研究ではチタン、金属間化合物、準結晶、金属ガラス、人工格子における原子の拡散、人工格子の超伝導や磁性、原子炉や核融合材料等の研究を行った。一方、材料開発研究では、溶解凝固を利用したポーラス金属の製法開発、物性探索およびその応用開発を手掛けてきた。ガス化合物の熱分解を利用した簡便な製法の開発や優れた強度特性、衝撃吸収性、放熱性、生体適合性等の特性を見出した。実用化のための応用研究では関西地区の企業の方々と連携できた。企業という試験場を身近に備えた大阪大学は応用研究では「地の利」を得ていると感じた。お世話になりました学内外の多くの皆様に心から感謝いたします。



なかじま・ひでお

プロフィール

略歴：昭和46年東北大学工学部金属材料工学科卒業、昭和52年東北大学大学院工学研究科金属材料工学専攻博士課程修了、同年米国レンスレー工科大学博士研究員、昭和55年東北大学金属材料研究所助手、平成元年同研究所助教授を経て、平成4年岩手大学工学部教授、平成8年大阪大学産業科学研究所教授、平成21年同大学科学教育機器リノベーションセンター長を兼任。学外では韓国・慶尚大学校工科大学碩座教授、第22期日本学術会議会員、日本金属学会副会長・理事、日本鉄鋼協会理事、NEDO委託事業ポーラス金属の特性評価試験方法の標準化委員会・委員長、第4回ポーラス金属及び発泡金属国際会議組織委員会・組織委員長、NEDO「ナノメタル技術」プロジェクト事後評価分科会会長、文部科学省・科学研究費補助金審査・理工系委員会委員等を歴任。平成19年文部科学大臣表彰・科学技術賞、平成20年日本金属学会・増重量賞を受賞し、平成21年には紫綬褒章を受章した。

箕面学舎の春秋 — 卒後40年を振り返って —

保健センター教授 太 田 妙 子

粉雪舞う2月8日、豊中の大阪大学会館アセンブリーホールで最終講義を行った。内容は医学部卒業後の軌跡である。卒後臨床研修後、東京大学大学院医学系研究科に入学、医科研での学位論文テーマ「ヒト神経芽細胞種培養細胞の研究——形態学的研究と生化学的分析」に触れた。その後、大阪大学医学部第四内科の糖尿病研究を経て昭和54年大阪外国語大学保健管理センターに赴任した。新しく設置されるセンターの設計見取り図作成を始め組織の立ち上げ、大学での学生健康診断の定期化などの思い出を語った。

平成16年の国立大学法人化、平成19年の大学統合による配置換え後も一貫して大学構成員への保健サービスに関わった。講演は大阪外国語大学時代の思い出、とりわけ突発的な感染症発生への対応、法定伝染病第一類の数々、春合宿中のノロウイルス集団食中毒事件などを例にとりながら、薄れつつある急性感染症への注意を喚起した。また昨今の研究対象、近世～近代女医史にも言及しその成果の一部『着衣する身体——女性の周縁化』、およびガイドブック『ワクチンと大学の保健管理』の近日発刊を報じた。

最後に大阪外国語大学、大阪大学で共に勤めた同僚達に永い歳月の謝意を表して講演を閉じた。



おおた・たえこ

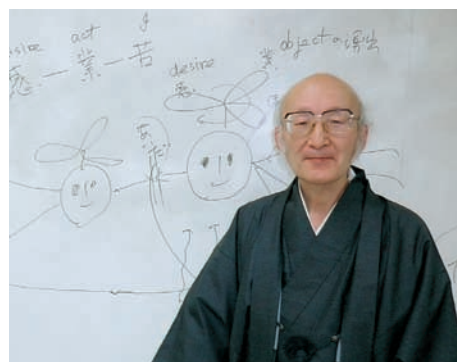
プロフィール

略歴：昭和46年3月大阪大学医学部を卒業、同年同大学医学部附属病院において臨床研修を開始。昭和47年4月東京大学大学院医学系研究科第一基礎医学専門課程入学、昭和51年3月修了（医学博士）。病院勤務後、昭和52年7月に大阪大学医学部老年病医学講座第四内科入局。昭和54年10月から大阪外国語大学保健管理センター勤務、昭和55年3月同大学保健管理センター講師、昭和59年2月同センター助教授、平成9年4月同センター教授。平成19年10月大学統合によって大阪大学保健センター教授、平成24年3月退職。平成9年5月～15年4月、平成17年5月～平成19年9月統合まで大阪外国語大学保健管理センター所長。大阪外国語大学保健管理センター所長時代は国立大学保健管理施設協議会、統合後は同会エイズ感染症特別委員会委員。全国大学保健管理協会評議員。

大学の教育研究を通じて成してきた一つの事と 現場力研究会について

コミュニケーションデザイン・センター教授 小 林 恭

自分が大学に奉職するようになって以来、一貫して成してきたことを総括すれば、哲学的人間学の立場から大乘の「菩薩の人間像」という概念に注目し、それを仏教内部の概念としてではなく、諸宗教の境界をこえて人間の自覚の普遍的構造を表すものとして理論化し実践化できるようにすることだったといえる。それは、〈菩提 bodhi〉と〈薩埵 sattva〉の相互に矛盾する二つの契機の「媒介」連関の構造を究明することだった。「個と個の間の個的媒介と、個と普遍の間の普遍的媒介と、さらにそれらを相互に媒介する（絶対的隔たり即同一性という）根本媒介の全体連関」というべきものであり、最終的には言詮不及のハタラクとして行為で表現するしかないが、人間のさまざまな文化的営みを、場合と必要に応じてその観点から理論づける方法の研究だった。CSCD「現場力研究会」に四年前に参加するようになってからは、それまで主として自覚の構造の面から問題にしてきた〈bodhi〉と〈sattva〉の二つの契機を、「現」なる「場」を構成している層の契機として考える途をとるように促された。現場力を考える上での一つの私からの提言とさせていただきます。



こばやし・きょう

プロフィール

略歴：昭和22年兵庫県生まれ。昭和50年京都大学大学院教育学研究科博士課程（教育人間学専攻）単位取得退学。京都産業大学専任講師（フランス語）を経て、昭和54年以降、大阪外国語大学勤務、国際文化学科比較文化講座（比較思想担当）。平成19年10月大阪大学との統合によりコミュニケーションデザイン・センターに所属。デカルト、アランの哲学的情念論と仏教の煩惱論の研究から出発。近年は、S・ヴェイユ、F・ナイチンゲールの宗教思想に関心をよせてきた。

小池真利子さん「7th Handai Nanoscience and Nanotechnology International Symposium Student Poster Award」受賞

基礎工学部電子物理科学科4年の小池真利子さんが、平成23年11月に吹田キャンパスで開催された7th Handai Nanoscience and Nanotechnology International Symposiumにおいて、Student Poster Awardを受賞しました。この賞は、本国際会議で最も優れたポスター発表を行った学生に対して授与されるものです。授賞式は11月11日、本国際会議のClosing Ceremonyにて行われました。受賞対象となった研究タイトルは「Spin-pumping-induced spin transport in n-type Si at room temperature」です。本研究はシリコンを用いた新しいスピントロニクスに関する基礎研究であり、この分野の今後の発展に重要な基礎物理学的知見の蓄積として重要な成果です。

(基礎工学研究科・基礎工学部)



浜地志憲君「Plasma Conference 2011若手優秀発表賞」受賞

工学研究科電気電子情報工学専攻博士前期課程の浜地志憲君が、平成23年11月22日(火)～25日(金)に金沢で開催されたPlasma Conference 2011にて、「タングステンナノ構造表面上に形成された炭素堆積層の研究」というタイトルで若手優秀発表賞を受賞しました。

タングステンにヘリウムプラズマを照射した時に生じるナノスケールの綿毛状構造上に堆積した炭素膜が、通常と異なる形成過程や構造を持つことが示され、炭素膜形成の新たな知見と核融合炉工学への貢献が高く評価されました。

(工学研究科・工学部)



大阪大学共通教育賞表彰式举行

大学教育実践センターでは、平成23年11月22日(火)に平成23年度第1学期大阪大学共通教育賞の表彰式を行いました。共通教育賞は、全学の教員及び学生を対象に行ったアンケート結果に基づき、優れた授業を実践した教員が選出されます。今回は、5度目の受賞者に与えられる特別賞に、長岡昇勇氏が非常勤講師として初めて選ばれ、計14名が選出されました。表彰式では、平野俊夫総長から表彰状と記念品が授与され、受賞者を祝福しました。

(全学教育推進機構)



平成 23 年度第 1 学期 大阪大学共通教育賞受賞者及び受賞理由一覧

【受賞対象カテゴリー】

カテゴリー 1：優れた授業を実践した教員
カテゴリー 2：優れた教科書等を著した教員
カテゴリー 3：共通教育実践のための優れた著述を行った教員
カテゴリー 4：共通教育の運営に顕著な功労のあった教員

【特別賞】

氏 名	所 属 名	受賞 カテゴリー	受 賞 理 由
長岡 昇勇	非常勤講師	1	専門基礎教育科目「解析学 A」で学生の理解度を考慮し復習を交えながら微積分学の基礎を分かりやすく講義した。「とてもわかりやすく講義をしていた」微積分についてよく理解することができた」「ややこしい授業の翌週にその内容を復習してくれたので理解しやすかった」「理系で必要となる数学的知識を詳しく教えてくれ、質問にも丁寧に答えてくれた」等の多数の学生推薦を受けた。

【初受賞】

氏 名	所 属 名	受賞 カテゴリー	受 賞 理 由
久保田裕之	人間科学研究科 助 教	1	現代教養科目「現代社会を読み解く（キーワードから読み解く 現代家族とその外部）」で「ジェンダー」と「ケア」に関する基本的な議論を押さえ、社会学的な思考方法を身につけさせる授業を行った。「論理力を鍛える内容を盛り込んでいたり、社会通念に囚われない独自の思考を学生が養成できるような努めしていた」「現代の家族が抱える問題を具体的な例でわかりやすく学生に教えていた」「講師が一方的に話すだけではなく、学生にも考えさせたり、コメントシートからの質問に答えたりと配慮がされていた」等の多数の学生推薦を受けた。
小木曾啓示	理学研究科 教 授	1	専門基礎教育科目「線形代数学 1」他で学生が基礎を修得し、基本的な計算ができるよう配慮した授業を行った。「先生自身による教科書代わりのものが配布され、事細かに内容が記されていたため、聞くことに集中できわかりやすかった」「授業後に行っていた演習で理解が深まった」「手書きの教科書に要点がまとめられていてよかった」「先生の説明がいていなくてわかりやすかった」「最後の演習が復習になってよかった」「プリントが一枚一枚手書きで書かれていて手が込んでいた」等の多数の学生推薦を受けた。
中嶋 悟	理学研究科 教 授	1	基礎教養科目「宇宙地球科学の考え方」で地球環境の進化の歴史と現状を学ぶことにより、地球と調和しながら生きる自覚と幅広い視野を身に付けさせる授業を行った。「ただ単に講義内容を話すだけでなく、具体例や四方山話などを交えてわかりやすいように教えてくださった」「化学式などをできるだけ使用しないで最新のものを紹介していた」「難しい分野の話もわかりやすい例えで説明してくださり、理解しやすかった」「文系にも理系の分野をわかりやすく解説してくださり、興味が掻き立てられる授業だった」等の多数の学生推薦を受けた。
山口 浩靖	理学研究科 講 師	1	専門基礎教育科目「化学概論」で分子や物質の結合の基礎と物理的・化学的性質、構造、機能、状態変化、さらに環境・エネルギー問題解決のための「化学」の活用について学ばせる授業を行った。「独自の授業スタイルで、今後生徒が役立つような授業を行ってくれた」「将来化学分野の研究に携わる際に最も大切な基礎であるレポートの書き方、外国の文献の調べ方などを教わるのができた」「扱っているテーマなども興味深いものが多く、単純に面白かった」等の多数の学生推薦を受けた。
小川 裕之	理学研究科 助 教	1	専門基礎教育科目「数学 A」で高校において数学 III を履修していない学生に 1 変数の微積分学および偏微分法についての基礎をわかりやすく習得させる授業を行った。「文系の自分でも数学を学ぶことに対してのモチベーションを高くもてるような指導だった」「数学に対する熱意が素晴らしく、生徒が理解しやすいうようにと具体例を示すなど、工夫を感じた」「質問にも大変丁寧に対応していただけ、定義や証明をとても大切にしていたのに好感が持てた」等の多数の学生推薦を受けた。
久保田ゆかり	非常勤講師	1	専門基礎教育科目「国際関係論入門」で現代社会の複雑な仕組みや国際社会が直面する諸問題を体系的に考察する目を養う授業を行った。「毎回わかりやすいレジュメと説明だったので、世界で起こっている出来事の背景がよくわかった」「国際ニュースへの関心が高まった」「授業内容が興味深く面白かった」「教科書とレジュメのバランスが良かった」「一生懸命教えていることが伝わってきた」「非常に興味深い内容をわかりやすく教えてくれた」等の多数の学生推薦を受けた。

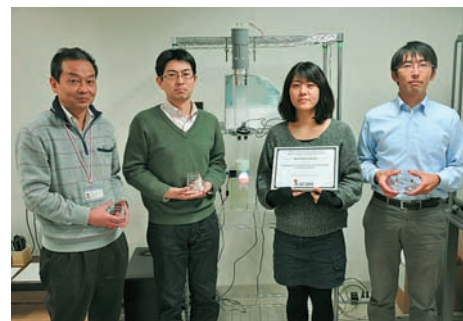
【再受賞】

氏 名	所 属 名	受賞 カテゴリー	受 賞 理 由
杉山 清寛	理学研究科 准教授	1	専門基礎教育科目「物理学 1A」他で授業中に簡単な実験を盛り込みながら分かりやすく丁寧な講義を行った。「授業はわかりやすく、さらに簡単な実験等によって現象のイメージをつかみやすくなる工夫があった」「授業用のプリント、補助プリントの両方が配られたがいずれも非常にわかりやすかった」「実際に実験し、データを解析し、レポートにまとめる作業はどれも難しかったし大変だったけど、班の人と協力したり一生懸命考えた文章にたりすることで、物理の力のみならず研究をする上で必要な力がついた実感があった。」等の多数の学生推薦を受けた。
菊池 和徳	理学研究科 講 師	1	専門基礎教育科目「基礎解析学 1」で WebCT を利用した質問環境を整えながら厳密性を保ちつつ丁寧な講義を行った。「WebCT を利用して質問をすることができ授業で理解できなかったことを復習することができた」「ハンドアウトが理解しやすく数学に対して興味を湧いた」「授業内容は他のクラスに比べ難しいが一生懸命授業をしてくださっているというのが伝わってきた」等の多数の学生推薦を受けた。
日野 信行	言語文化研究科 教 授	1	外国語教育科目「英語 (Reading)」他で世界中の英語メディアに瞬時にアクセスできる CALL 教室の利点を生かして、授業当日の世界のさまざまな電子版英字新聞を読み英語で話しあう授業を行った。「CALL 教室を存分に利用し、斬新な授業」「今実際に英語圏で使われている英語をニュースを通して学ぶという形式がとても面白かった」「ネイティブでない生徒にもわかりやすいような英語で授業を進めてくれたので授業に取り組みやすかった。また、教科書ではなく世界の時事問題を扱うことで興味を湧いた」等の多数の学生推薦を受けた。
日比 孝之	情報科学研究科 教 授	1	基礎教養科目「数学の考え方（証明の探求）」で高校数学の初歩を予備知識とし、「証明」という数学の創造活動の本質に迫る授業を行った。「数学嫌いな人も楽しむことができる授業だと思った」「自分から読みたいと思える教科書だった」「授業内容が大学らしく新鮮な気持ちで臨むことができた」「非常にわかりやすかった」「身近な内容を取り扱っていてわかりやすかった」「成績のつけ方が非常に合理的だった」「面白い話、興味の持てる話をまじえてくれるので、授業に退屈することがなかったから」等の多数の学生推薦を受けた。
藤田 一郎	生命機能研究科 教 授	1	専門基礎教育科目「生物科学概論 A」で細胞及び細胞内・細胞間における分子相互作用について映像資料を利用しながら学生の興味を引く講義を行った。「教材や動画などが非常に向学心を刺激するものであった」「生物学の基本だけでなく大学生活を豊かにするためのアドバイスがあって心に残った」「教材やレジュメが工夫されていた。レポートの量やテストのレベルもちょうどよかった」等の多数の学生推薦を受けた。
竹蓋 順子	サイバーメディア センター 准教授	1	外国語教育科目「実践英語」で効果の検証された指導理論、メソッドに基づいたコースウェア化された 2 種類の教材を並行使用してリスニング及び語彙の基礎力を養成する授業を行った。「英語の力がどのようにしたら伸びるかをわかりやすくデータに基づいて理論的に教えてもらった」「授業で使用した教材が何度も繰り返し学習を行うことにより効率的に学習できるようになっていた」「IC という教材で楽しく英語を学習することができた。教科書は簡単に単語が覚えられる工夫があって使いやすかった。パワーポイントを使いとてもわかりやすい」等の多数の学生推薦を受けた。
大前 智美	サイバーメディア センター 特任准教授 (常勤)	1	外国語教育科目「ドイツ語初級 I」で授業支援システム Web4u を利用し Web 教材やマルチメディア素材をいかした e-learning 形式の授業を行った。「毎回の授業に休憩時間という名目でドイツに関するビデオを見ることができたので、楽しく学習できた」「授業構成がよくて授業に集中しやすかった。練習問題も多く Web 上に上がっていて勉強しやすかった」「パソコンの授業はデメリットも少しあったがわかりやすく学ぶことができた」等の多数の学生推薦を受けた。

井村誠孝准教授、八木明日華さん、黒田嘉宏助教、大城理教授 「ICAT2011 Best Demo Award」受賞

基礎工学研究科機能創成専攻生体工学領域井村誠孝准教授、八木明日華さん（博士前期課程1年）、黒田嘉宏助教、大城理教授が、11月28日（月）～30日（水）に大阪大学で開催された21st International Conference on Artificial Reality and Telexistence（ICAT2011）においてBest Demo Awardを受賞しました。受賞した研究"Multi-Viewpoint InteractiveFog Display"は、霧（フォグ）に映像を提示し周囲から観察できる新しいディスプレイです。

（基礎工学研究科・基礎工学部）



渡邊之人君、APBC2012「Best Paper Award」受賞

情報科学研究科バイオ情報工学専攻博士前期課程1年の渡邊之人君が、1月にオーストラリアのメルボルンで開催された国際会議「Asia Pacific Bioinformatics Conference 2012（APBC 2012）」において研究成果を発表し、「Best Paper Award」を受賞しました。この賞は本国際会議で最も優れた発表に授与されるもので、授賞対象となった発表は「An estimation method for inference of gene regulatory network using Bayesian network with uniting of partial problems」です。

（情報科学研究科）



平成24年度大阪大学安全衛生年間標語最優秀作品賞、優秀作品賞表彰式举行

安全衛生管理部では、安全で快適なキャンパスづくりを呼びかける、分かりやすく、親しみやすい平成24年度大阪大学安全衛生年間標語を募集しました。

募集期間は、平成23年12月9日（金）～平成24年1月13日（金）で、応募数は27点（17名）でした。審査の結果、次の作品が選ばれました。

【最優秀作品】

「安全・快適キャンパスは 一人ひとりの心がけ」

核物理研究センター 事務長 阪口 章

【優秀作品】

「信じてる。だから行う再確認。」 医学部附属病院 医員 谷口 英俊

「「安全」はこころづかいと絆から」 総合学術博物館 主任 三橋 正義



前列左から、阪口章さん、
尾山安全衛生管理部長、谷口英俊さん

本部事務機構3階尾山理事室にて、2月16日（木）に表彰式を執り行い、尾山眞之助安全衛生管理部長（理事・副学長）から表彰状及び副賞が贈呈されました。

なお、最優秀作品については、今後、安全衛生に関する啓発活動等において幅広く活用していきます。

（安全衛生管理部）

市大樹准教授、桑木野幸司准教授、中野貴由教授「第8回(平成23年度)日本学術振興会賞」受賞
市大樹准教授「第8回(平成23年度)日本学士院学術奨励賞」受賞

文学研究科の市大樹准教授、桑木野幸司准教授と工学研究科の中野貴由教授が、第8回(平成23年度)日本学術振興会賞を受賞しました。この賞は人文・社会科学及び自然科学の全分野において、45歳未満で博士又は博士と同等以上の学術研究能力を有する者のうち、論文等の研究業績により学術上特に優れた成果をあげている研究者に対して、今年度は24名に授与されました。なお、今回の受賞は大阪大学において、人社系からは初めて、理工系では3年連続の受賞者輩出となりました。

また、市准教授は日本学術振興会賞受賞者の中から6名選ばれる、第8回(平成23年度)日本学士院学術奨励賞も受賞しました。

授賞式は秋篠宮同妃両殿下ご臨席のもと、2月27日(月)東京・上野の日本学士院において執り行われました。

市准教授の受賞対象となった研究課題は「日本古代の木簡と交通制度」です。発見された木簡がいかなる遺構から出土したか、いかなる共伴遺物があるか等の諸点に留意し、また木簡の形状によってその用途を確認するなど、総合的

な見地から木簡を整理・読解し、伝世の文献資料を参照しつつ、日本古代国家の成立過程を明らかにしたことが評価されました。

桑木野准教授の受賞対象となった研究課題は「初期近代イタリアの記憶術と建築空間における視覚的表象の問題」です。16世紀後半イタリアの庭園、建築、都市に対し、西洋初期近代における記憶術を背景として、知識を視覚的に表象し情報を操作する仮想空間という観点から分析を行ない、特に、従来の記憶術研究で一般に受け入れられていた二次元的配置を越え、空間的把握の可能性に着眼したことが評価されました。

中野教授の受賞対象となった研究課題は「材料工学的視点からの骨微細構造ならびに骨代替材料への複合領域型研究」です。異方性構造を持つアパタイト結晶の配向性が、骨の強度をはじめとする様々な特性を支配する重要な因子であることを解明し、配向化機構の支配因子の発見、さらには骨配向化が促進されるような新規概念からなる骨代替材料の設計・開発にまで応用展開したことが評価されました。



文学研究科 市大樹准教授



文学研究科 桑木野幸司准教授



工学研究科 中野貴由教授

(研究推進部研究推進課)

医学系研究科高原充佳さん、基礎工学研究科山本浩二さん
「第2回(平成23年度)日本学術振興会育志賞」受賞

医学系研究科医学専攻博士課程3年(受賞時)の高原充佳さんと、基礎工学研究科物質創成専攻博士後期課程1年(受賞時)の山本浩二さんが第2回(平成23年度)日本学術振興会育志賞を受賞しました。

この賞は、天皇陛下の御即位20年に当たり、社会的に厳しい経済環境の中で、勉学や研究に励んでいる若手研究者を支援・奨励するための事業の資として、陛下から御下賜金を賜り、平成22年度に創設された賞です。大学院博士後期課程の学生を対象に、今年度は人社系、理工系、生物系の各領域から合計17名に授与されました。

高原さんは「動脈硬化性疾患リスク管理のための統計モデルの最適化に関する研究」、山本さんは「脱水素を伴う革新的炭素-炭素結合形成反応の開発」の研究課題が評価され、今回の受賞となりました。

なお、授賞式は秋篠宮同妃両殿下ご臨席のもと、3月1日(木)東京・上野の日本学士院において執り行われました。

また、今回の受賞を受けて3月5日(月)総長室にて平野俊夫総長と相本三郎理事との懇談会が行われました。

(研究推進部研究推進課)



左から平野総長、高原充佳さん、
山本浩二さん、相本理事

新総長補佐紹介

吉 川 秀 樹 (よしかわ ひでき)

大学院医学系研究科



【略歴】

- 昭54. 3 大阪大学医学部医学科卒業
- 58. 3 大阪大学大学院医学研究科博士課程修了 (医学博士)
- 59. 5 大阪大学医学部附属病院医員 (整形外科)
- 59. 9 米国Kansas大学病理学教室研究員 (昭60.8まで)
- 61. 1 大阪大学助手医学部 (整形外科)
- 平 3. 9 米国Memorial Sloan-Kettering Cancer Center (平4.2まで)
- 整形外科研究員 (文部省在外研究員)
- 5. 9 大阪大学講師医学部 (整形外科)
- 7. 4 大阪府立成人病センター整形外科部長
- 10. 9 大阪大学講師医学部 (整形外科)
- 11.11 大阪大学教授大学院医学系研究科器官制御外科学 (整形外科)
- 21. 2 大阪大学医学部附属病院副病院長 (平24.3まで)
- 24. 4 大阪大学総長補佐 (病院運営担当) (平25.3まで)
- 大阪大学医学部附属病院長 (平26.3まで)

新部局長紹介

永 田 靖 (ながた やすし)

大学院文学研究科長・文学部長



【略歴】

- 昭56. 3 上智大学外国語学部ロシア語学科卒業
- 59. 3 明治大学大学院文学研究科演劇学専攻博士前期課程修了
- 63. 3 明治大学大学院文学研究科演劇学専攻博士後期課程退学
- 62. 4 日本学術振興会特別研究員
- 平元. 4 明治大学人文科学研究所客員研究員
- 6. 4 鳥取女子短期大学助教授
- 8. 4 大阪大学助教授文学部
- 11. 4 大阪大学助教授大学院文学研究科
- 16. 4 大阪大学教授大学院文学研究科
- 20. 4 大阪大学広報・社会学連携室員 (平24.3まで)
- 22. 4 大阪大学大学院文学研究科副研究科長 (平24.3まで)
- 22. 4 大阪大学評議員 (平24.3まで)
- 24. 4 大阪大学大学院文学研究科長・文学部長 (平26.3まで)

竹 中 浩 (たけなか ゆたか)

大学院法学研究科長・法学部長



【略歴】

- 昭52. 3 東京大学法学部第3類 (政治コース) 卒業
- 54. 3 東京大学大学院法学政治学研究科政治専門課程修士課程修了
- 58. 9 東京大学大学院法学政治学研究科政治専門課程博士課程修了
- 59. 4 大阪大学助教授法学部
- 平 7. 9 大阪大学教授法学部
- 9. 8 大阪大学評議員 (平11.7まで)
- 11. 4 大阪大学教授大学院法学研究科
- 16. 4 大阪大学評議員 (平20.3まで)
- 22. 4 大阪大学評議員 (平24.3まで)
- 24. 4 大阪大学大学院法学研究科長・法学部長 (平26.3まで)

新部局長紹介

堤 康 央 (つつみ やすお)

大学院薬学研究科長・薬学部長



【略歴】

- 平 3. 3 大阪大学薬学部薬学科卒業
- 5. 3 大阪大学大学院薬学研究科応用薬学専攻博士前期課程修了
- 6. 8 大阪大学大学院薬学研究科応用薬学専攻博士後期課程第2学年退学
- 6. 8 大阪大学助手薬学部
- 9. 8 博士（薬学）（大阪大学）
- 10. 4 大阪大学助手大学院薬学研究科
- 16. 4 国立医薬品食品衛生研究所大阪支所基盤研究第二プロジェクトチーム副プロジェクト長
- 17. 4 独立行政法人医薬基盤研究所基盤的研究部創薬プロテオミクスプロジェクトリーダー
- 20. 4 大阪大学教授大学院薬学研究科
- 24. 4 大阪大学大学院薬学研究科長・薬学部長（平26.3まで）

濱 田 博 司 (はまだ ひろし)

大学院生命機能研究科長



【略歴】

- 昭50. 3 岡山大学医学部医学科卒業
- 54. 3 岡山大学大学院医学研究科博士課程修了
- 54. 5 財団法人癌研究会癌研究所生化学部嘱託研究員
- 54.10 米国国立がん研究所客員研究員
- 60. 1 カナダ国ニューファンドランドメモリアル大学助教授（昭62.12まで）
- 63. 2 東京大学助教授医学部
- 平 5. 4 東京都臨床医学総合研究所部長
- 7. 4 大阪大学教授細胞生体工学センター
- 14. 4 大阪大学教授大学院生命機能研究科
- 22. 4 大阪大学評議員（平24.3まで）
- 24. 4 大阪大学大学院生命機能研究科長（平26.3まで）

片 山 泰 一 (かたやま たいいち)

大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科長



【略歴】

- 昭63. 3 京都薬科大学薬学部製薬化学科卒業
- 平 2. 3 京都薬科大学大学院薬学研究科修士課程修了
- 2. 4 田辺製薬株式会社安全性研究所（現薬理研究所）研究員（平10.3まで）
- 8. 4 大阪大学医学部研究生（解剖学第二教室）（平12.10まで）
- 10. 4 田辺製薬株式会社創薬研究所研究員（平13.1まで）
- 12. 6 博士（医学）（大阪大学）
- 13. 2 大阪大学助手大学院医学系研究科
- 15.11 トロント大学医学部神経変性疾患センター博士研究員
- 17. 4 浜松医科大学助教授医学部解剖学講座
- 19. 4 浜松医科大学准教授医学部解剖学講座
- 21. 4 大阪大学教授大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究科
- 24. 4 大阪大学教授大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科
大阪大学大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科長（平26.3まで）

新部長紹介

江 川 温 (えがわ あつし)

全学教育推進機構長



【略歴】

- 昭49. 3 京都大学文学部卒業
- 52. 3 京都大学大学院文学研究科修士課程修了
- 54. 3 京都大学大学院文学研究科博士課程退学
- 54. 4 大阪大学助手文学部
- 57. 4 大阪大学講師教養部
- 61.12 大阪大学助教授教養部
- 平 2.10 大阪大学助教授文学部
- 8. 1 大阪大学教授文学部
- 11. 4 大阪大学教授大学院文学研究科
- 16. 4 大阪大学大学院文学研究科副研究科長 (平20.3まで)
- 18. 4 大阪大学評議員 (平20.3まで)
- 20. 4 大阪大学大学院文学研究科長・文学部長 (平22.3まで)
- 23. 8 大阪大学総長補佐 (教育推進担当)
- 24. 4 大阪大学全学教育推進機構長 (平26.3まで)

八 木 康 史 (やぎ やすし)

産業科学研究所長



【略歴】

- 昭58. 3 大阪大学基礎工学部制御工学科卒業
- 60. 3 大阪大学大学院基礎工学研究科物理系専攻博士前期課程修了
- 60. 4 三菱電機 (株) 応用機器研究所研究員
- 平 2.10 大阪大学助手基礎工学部
- 3. 3 工学博士 (大阪大学)
- 5. 4 大阪大学講師基礎工学部
- 8. 4 大阪大学助教授基礎工学部
- 9. 4 大阪大学助教授大学院基礎工学研究科
- 15. 4 大阪大学教授産業科学研究所
- 24. 4 大阪大学産業科学研究所長 (平26.3まで)

沖 田 知 子 (おきた ともこ)

国際教育交流センター長



【略歴】

- 昭49. 3 大阪大学文学部文学科卒業
- 51. 3 大阪大学大学院文学研究科英文学専攻博士前期課程修了
- 53. 4 大阪大学助手文学部
- 57. 4 大阪大学講師医療技術短期大学部
- 60. 5 大阪大学助教授医療技術短期大学部
- 平 5.10 大阪大学助教授言語文化部
- 12. 4 大阪大学教授言語文化部
- 14. 4 大阪大学評議員 (平16.3まで)
- 17. 4 大阪大学教授大学院言語文化研究科
- 24. 4 大阪大学国際教育交流センター長 (平26.3まで)

新部局長紹介

戸 部 義 人 (とべ よしと)

極限量子科学研究センター長



【略歴】

- 昭49. 3 大阪大学工学部石油化学科卒業
- 51. 3 大阪大学大学院工学研究科石油化学専攻博士前期課程修了
- 54. 3 同上博士後期課程修了工学博士（大阪大学）
- 54. 4 大阪大学助手工学部
- 58. 7 大阪大学講師工学部
- 平 4. 4 大阪大学助教授基礎工学部
- 9. 4 大阪大学助教授大学院基礎工学研究科
- 10.10 大阪大学教授大学院基礎工学研究科
- 15.10 大阪大学評議員（平19.8まで）
- 19. 8 大阪大学基礎工学研究科長・基礎工学部長（平23.8まで）
- 24. 4 大阪大学極限量子科学研究センター長（平26.3まで）

瀧 原 圭 子 (たきはら けいこ)

保健センター長



【略歴】

- 昭55. 3 長崎大学医学部医学科卒業
- 55. 7 大阪大学医学部附属病院医員（研修医）
- 56. 7 財団法人日本生命済生会附属日生病院医員
- 61. 3 大阪大学大学院医学研究科博士課程修了
- 61. 3 医学博士（大阪大学）
- 61. 4 大阪通信病院第二内科医師
- 62. 5 トロント大学心臓血管研究センター博士後研究員
- 平 4. 8 大阪大学助手医学部
- 14. 8 大阪大学講師大学院医学系研究科
- 16. 4 大阪大学助教授保健センター
- 17. 4 大阪大学医学部附属病院・歯学部附属病院産業医
- 19. 4 大阪大学准教授保健センター
- 20. 4 大阪大学教授保健センター
- 20. 4 大阪大学保健センター副センター長（平24.3まで）
- 23. 8 大阪大学総長補佐（健康問題担当）
- 24. 4 大阪大学保健センター長（平26.3まで）

井 元 信 之 (いもと のぶゆき)

科学教育機器リノベーションセンター長



【略歴】

- 昭50. 3 東京大学工学部物理工学科卒業
- 52. 3 東京大学大学院工学系研究科物理工学専門課程修士課程修了
- 52. 4 日本電信電話公社
- 平 2. 5 博士（工学）（東京大学）
- 11. 4 総合研究大学院大学教授
- 16.10 大阪大学教授大学院基礎工学研究科 物質創成専攻
- 23. 4 大阪大学科学教育機器リノベーションセンター副センター長（平24.3まで）
- 24. 4 大阪大学科学教育機器リノベーションセンター長（平26.3まで）

新部局長紹介

岩 井 康 雄 (いわい やすお)

日本語日本文化教育センター長



【略歴】

- 平元. 3 京都大学文学部文学科卒業
- 4. 3 京都大学大学院文学研究科言語学専攻（言語学）修士課程修了
- 6. 9 京都大学大学院文学研究科言語学専攻（言語学）博士後期課程中退
- 6.10 大阪外国語大学助手留学生日本語教育センター
- 9. 1 大阪外国語大学講師留学生日本語教育センター
- 14. 1 大阪外国語大学助教授留学生日本語教育センター
- 19. 4 大阪外国語大学准教授日本語日本文化教育センター
- 19.10 大阪大学准教授日本語日本文化教育センター
- 22. 4 大阪大学教授日本語日本文化教育センター
- 24. 4 大阪大学日本語日本文化教育センター長（平26.3まで）

原 田 明 (はらだ あきら)

ナノサイエンスデザイン教育研究センター長



【略歴】

- 昭47. 3 大阪大学理学部高分子学科卒業
- 49. 3 大阪大学大学院理学研究科高分子学専攻修士課程修了
- 52. 3 大阪大学大学院理学研究科高分子学専攻博士後期課程修了理学博士（大阪大学）
- 52. 4 大阪大学理学部研究生
- 52.10 大阪大学理学部教務職員
- 57. 8 大阪大学助手産業科学研究所
- 63. 9 大阪大学助手理学部
- 平 6.11 大阪大学助教授理学部
- 8. 4 大阪大学助教授大学院理学研究科
- 10. 4 大阪大学教授大学院理学研究科
- 18. 4 紫綬褒章
- 23. 8 大阪大学評議員（平26.3まで）
- 23.10 大阪大学大学院理学研究科附属基礎理学プロジェクト研究センター長（平25.8まで）
- 24. 4 大阪大学ナノサイエンスデザイン教育研究センター長（平25.3まで）

吉 川 秀 樹 (よしかわ ひでき)

医学部附属病院長

【略歴】

- 新総長補佐紹介（49ページ）を参照
- 平24. 4 大阪大学医学部附属病院長（平26.3まで）

新施設長紹介

竹 田 潤 二 (たけだ じゅんじ)

医学部附属動物実験施設長



【略歴】

- 昭54. 3 大阪大学医学部医学科卒業
- 54. 4 大阪大学医学部附属病院において臨床補助の研修に従事
- 54. 7 医員（研修医）（大阪大学医学部附属病院）
- 54.12 マイアミ大学ポスドクトラルフェロー（昭57.8まで）
- 57.10 大阪大学医学部研究生（皮膚科学教室）（昭58.3まで）
- 58. 4 大阪大学助手医学部
- 61. 5 医学博士（大阪大学）
- 平 3. 4 大阪大学助教授微生物病研究所
- 9. 4 大阪大学教授医学部
- 12. 4 大阪大学教授先端科学技術共同研究センター
- 23. 4 大阪大学教授大学院医学系研究科
- 24. 4 大阪大学医学部附属動物施設長（平26.3まで）

今 里 聡 (いまざと さとし)

歯学部附属歯科技工士学校長



【略歴】

- 昭61. 3 大阪大学歯学部歯学科卒業
- 61. 4 大阪大学歯学部研究生
- 63. 4 大阪大学歯学部附属病院医員
- 平 3.12 大阪大学助手歯学部
- 4.11 博士（歯学）（大阪大学）
- 5. 4 英国ニューカッスル大学歯学部客員研究員（平6.4まで）
- 11.11 大阪大学助教授歯学部
- 12. 4 大阪大学助教授大学院歯学研究科
- 19. 4 大阪大学准教授大学院歯学研究科
- 23. 1 大阪大学教授大学院歯学研究科
- 24. 3 大阪大学歯学部附属歯科技工士学校長（平26.3まで）

東 海 明 宏 (とうかい あきひろ)

大学院工学研究科附属サステナビリティ・デザイン・オンサイト研究センター長



【略歴】

- 昭57. 3 北海道大学教養部理類卒業
- 60. 3 東京水産大学大学院水産学研究科海洋環境工学専攻修士課程修了
- 63. 3 大阪大学大学院工学研究科環境工学専攻博士課程修了
- 63. 3 工学博士（大阪大学）
- 63. 4 大阪大学助手工学部
- 平 2. 9 岐阜大学助教授工学部
- 5. 8 米国カーネギーメロン大学工学及び公共政策学会客員助教授（フルブライト若手研究員）（平6.7まで）
- 8. 4 横浜国立大学助教授環境科学研究センター
- 9. 8 北海道大学助教授大学院工学研究科
- 10. 4 京都大学客員助教授防災研究所附属水資源研究センター（平12.3まで）
- 13. 8 産業技術総合研究所主任研究員
- 20. 4 大阪大学教授大学院工学研究科
- 24. 4 大阪大学大学院工学研究科附属サステナビリティ・デザイン・オンサイト研究センター長（平26.3まで）

新教授紹介

川 合 康 (かわい やすし)

大学院文学研究科



所 属：大学院文学研究科文化形態論専攻日本
史講座

専門分野：日本中世史

【略歴】

- 昭56. 3 神戸大学文学部史学科卒業
 59. 3 神戸大学大学院文学研究科史学専攻修士課程修了
 62. 3 神戸大学大学院文化学研究科社会文化専攻博士課程単位修得退学
 62. 4 樟蔭女子短期大学専任講師日本文化史料
 平 3. 9 樟蔭女子短期大学助教授日本文化史料
 6. 2 博士（文学）の学位授与（神戸大学）
 7. 4 東京都立大学助教授人文学部
 19. 4 東京都立大学准教授人文学部
 20. 4 日本大学教授経済学部
 24. 4 大阪大学教授大学院文学研究科

仁 木 恒 夫 (にき つねお)

大学院法学研究科



所 属：大学院法学研究科法学・政治学専攻
専門分野：民事訴訟法、裁判学

【略歴】

- 平 3. 3 九州大学法学部卒業
 5. 3 九州大学大学院法学研究科民刑事法学専攻修士課程修了
 8. 3 九州大学大学院法学研究科民刑事法学専攻博士後期課程単位修得退学
 8. 4 九州大学助手法学部（平10.3まで）
 11. 4 立教大学助手法学部
 12. 4 久留米大学講師法学部
 16. 4 大阪大学助教授大学院法学研究科
 19. 4 大阪大学准教授大学院法学研究科
 24. 4 大阪大学教授大学院法学研究科

松 田 岳 士 (まつだ たけし)

大学院法学研究科



所 属：大学院法学研究科法学・政治学専攻
専門分野：刑事訴訟法

【略歴】

- 平 4. 3 東京大学文学部第3類（語学文学）卒業
 6. 3 京都大学法学部卒業
 8. 3 京都大学大学院法学研究科民刑事法専攻修士課程修了
 12. 3 京都大学大学院法学研究科民刑事法専攻博士後期課程研究指導認定退学
 8. 4 日本学術振興会特別研究員（平9.8まで）
 12. 4 大阪大学講師大学院法学研究科
 14. 7 大阪大学助教授大学院法学研究科
 17. 4 大阪大学助教授大学院高等司法研究科
 19. 4 大阪大学准教授大学院高等司法研究科
 22. 6 博士（法学）（大阪大学）
 24. 4 大阪大学教授大学院法学研究科

新教授紹介

小 野 哲 生 (おの てつお)

大学院経済学研究科



所 属：大学院経済学研究科経済学専攻理論分析講座

専門分野：政治経済学、公共経済学、マクロ経済学

【略歴】

- 平 7. 3 横浜国立大学経済学部経済学科卒業
- 9. 3 大阪大学大学院経済学研究科経済理論専攻博士前期課程修了
- 9. 4 日本学術振興会特別研究員
- 10. 3 大阪大学大学院経済学研究科経済理論専攻博士後期課程修了
- 10. 3 博士（経済学）（大阪大学）
- 10. 4 大阪府立大学助手経済学部
- 11. 4 大阪府立大学講師経済学部
- 13. 9 筑波大学講師社会工学系
- 15. 8 大阪大学助教授大学院経済学研究科
- 19. 4 大阪大学准教授大学院経済学研究科
- 24. 4 大阪大学教授大学院経済学研究科

佐々木 勝 (ささき まさる)

大学院経済学研究科



所 属：大学院経済学研究科経済学専攻政策分析講座

専門分野：労働経済学

【略歴】

- 平 5. 8 米国テンプル大学フィラデルフィア校教養学部経済学科卒業
- 10. 6 世界銀行人的資本開発局社会保障部コンサルタント
- 10. 8 米国ジョージタウン大学大学院経済学研究科博士課程修了
- 10. 8 博士（経済学）（ジョージタウン大学）
- 12. 8 アジア開発銀行インフラ・エネルギー・金融課（東地域）エコノミスト
- 13. 4 関西大学専任講師経済学部
- 16. 4 大阪大学助教授大学院経済学研究科
- 19. 4 大阪大学准教授大学院経済学研究科
- 20. 4 大阪大学准教授社会経済研究所附属行動経済学研究センター
- 23. 4 大阪大学准教授大学院経済学研究科
- 24. 4 大阪大学教授大学院経済学研究科

関 口 倫 紀 (せきぐち ともき)

大学院経済学研究科



所 属：大学院経済学研究科経営学系専攻経営情報講座

専門分野：人的資源管理論、組織行動論

【略歴】

- 平 4. 3 東京大学文学部第4類心理学専修課程卒業
- 4. 4 株式会社長銀総合研究所副研究員
- 5. 6 株式会社長銀総合研究所研究員
- 10. 3 青山学院大学大学院国際政治経済学研究科修士課程修了
- 10.12 株式会社価値総合研究所研究員
- 15. 8 University of Washington Business School Ph.D. Program 修了
- 15. 8 Ph.D. (University of Washington)
- 15.10 大阪経済大学専任講師経営学部
- 18. 4 大阪大学助教授大学院経済学研究科
- 19. 4 大阪大学准教授大学院経済学研究科
- 24. 4 大阪大学教授大学院経済学研究科

新教授紹介

加藤 和人 (かとう かずと)

大学院医学系研究科



所 属：大学院医学系研究科社会環境医学講座
(医の倫理と公共政策学)

専門分野：生命倫理・科学コミュニケーション論

【略歴】

- 昭59. 3 京都大学理学部卒業
- 61. 3 京都大学大学院理学研究科修士課程生物物理学専攻修了
- 63. 4 日本学術振興会特別研究員 (平2.1まで)
- 平元. 9 京都大学大学院理学研究科博士課程生物物理学専攻修了
- 元.11 理学博士 (京都大学)
- 2. 1 英国Cambridge大学動物学教室研究員
- 3. 2 英国Cambridge大学Wellcome / CRCがん・発生生物学研究所研究員
- 5.11 JT生命誌研究館研究員 (平10.10主任研究員)
- 13. 1 京都大学助教授人文科学研究所
- 19. 4 京都大学准教授人文科学研究所
- 20.11 京都大学物質-細胞統合システム拠点連携准教授
- 24. 4 大阪大学教授大学院医学系研究科

祖父江 友孝 (そぶえ ともたか)

大学院医学系研究科



所 属：大学院医学系研究科社会環境医学講座
(環境医学)

専門分野：がん疫学、がん登録、がん検診の評価、
がん対策

【略歴】

- 昭58. 3 大阪大学医学部医学科卒業
- 58. 6 大阪府立成人病センター調査部疫学課技術吏員
- 62. 5 米国ジョンスホプキンス大学公衆衛生学部公衆衛生修士課程修了
- 平 4. 9 医学博士 (大阪大学)
- 6. 4 国立がんセンター研究所がん予防研究部第二次予防研究室長
- 6.10 国立がんセンター研究所がん情報研究部がん発生情報研究室長
- 14. 7 国立がんセンター研究所がん情報研究部部長
- 15.10 国立がんセンター予防・検診研究センター情報研究部長
- 18.10 国立がんセンターがん対策情報センターがん情報・統計部長
- 22. 4 独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報・統計部長
- 23. 4 独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センターがん統計研究部長
- 24. 3 大阪大学教授大学院医学系研究科

石田 隆行 (いしだ たかゆき)

大学院医学系研究科



所 属：大学院医学系研究科保健学専攻医療技術科学分野医用物理工学講座

専門分野：医用画像工学、医用画像処理、医用画像技術学

【略歴】

- 昭58. 3 大阪大学医療技術短期大学診療放射線技術学科卒業
- 58. 4 六日市病院放射線室
- 60. 9 健康保険組合連合会大阪中央病院放射線科
- 平 5.10 博士 (工学) (立命館大学)
- 6. 5 シカゴ大学カートロスマン放射線像研究所研究員
- 9. 5 シカゴ大学カートロスマン放射線像研究所研究員 (講師)
- 10. 5 広島国際大学助教授保健医療学部診療放射線学科
- 17. 4 広島国際大学助教授大学院総合人間科学研究科
- 19. 4 広島国際大学保健医療学部診療放射線学科
- 24. 4 大阪大学教授大学院医学系研究科

新教授紹介

戸 邊 亨 (とべ とおる)

大学院医学系研究科



【略歴】

- 昭56. 3 京都大学理学部生物物理学卒業
- 58. 3 京都大学大学院理学研究科生物物理学専攻修士課程修了
- 62. 3 京都大学大学院理学研究科生物物理学専攻博士後期課程修了
- 62. 3 博士(理学)(京都大学)
- 62. 5 筑波大学文部技官
- 63. 9 東京大学助手医科学研究所
- 平 9.11 東京大学講師医科学研究所
- 13. 4 大阪大学助教授大学院医学系研究科
- 19. 4 大阪大学准教授大学院医学系研究科
- 24. 4 大阪大学教授大学院医学系研究科

所 属：大学院医学系研究科保健学専攻医療技術科学分野生体情報科学講座

専門分野：細菌学、分子生物学

林 美加子 (はやし みかこ)

大学院歯学研究科



【略歴】

- 昭62. 3 大阪大学歯学部歯学科卒業
- 62. 7 大阪大学歯学部附属病院医員(歯科研修医)
- 平元.10 大阪大学歯学部附属病院医員
- 6.10 大阪大学助手歯学部附属病院
- 10. 2 博士(歯学)(大阪大学)
- 13. 4 英国マンチェスター大学客員研究員
- 14. 8 大阪大学助手大学院歯学研究科
- 17.10 大阪大学講師歯学部附属病院
- 23. 3 大阪大学准教授大学院歯学研究科
- 24. 4 大阪大学教授大学院歯学研究科

所 属：大学院歯学研究科口腔分子感染制御学講座(歯科保存学)

専門分野：保存修復学、歯内療法学、歯科材料学、臨床疫学

青 木 伸 一 (あおき しんいち)

大学院工学研究科



【略歴】

- 昭56. 3 大阪大学工学部土木工学科卒業
- 58. 3 大阪大学大学院工学研究科土木工学専攻博士前期課程修了
- 58. 4 大阪大学助手工学部
- 平 3. 2 工学博士(大阪大学)
- 5.10 豊橋技術科学大学助教授工学部
- 15. 8 豊橋技術科学大学教授工学部
- 16. 4 豊橋技術科学大学学長補佐(高専連携担当)・高専連携室長(平22.3まで)
- 22. 4 豊橋技術科学大学教授大学院工学研究科
豊橋技術科学大学評議員
- 23. 4 豊橋技術科学大学安全安心地域共創リサーチセンター長
- 24. 4 大阪大学教授大学院工学研究科

所 属：大学院工学研究科地球総合工学専攻社会システム学講座

専門分野：海岸工学、沿岸防災、沿岸環境

新教授紹介

高 橋 美恵子 (たかはし みえこ)

大学院言語文化研究科



【略歴】

- 平 3. 5 スウェーデン・ストックホルム大学社会学部社会学科
修了
- 6. 9 スtockホルム大学研究助手社会学部
- 9. 2 スtockホルム大学研究員社会学部
- 12. 1 スtockホルム大学大学院社会学研究科博士課程単位
取得退学
- 12. 4 大阪外国語大学講師外国語学部
- 14. 1 大阪外国語大学助教授外国語学部
- 19. 4 大阪外国語大学准教授外国語学部
- 19.10 大阪大学准教授世界言語研究センター
- 24. 4 大阪大学教授大学院言語文化研究科

所 属：大学院言語文化研究科言語社会専攻
専門分野：家族社会学、スウェーデン社会研究

土 屋 達 弘 (つちや たつひろ)

大学院情報科学研究科



【略歴】

- 平 5. 3 大阪大学基礎工学部情報工学科退学
- 7. 3 大阪大学大学院基礎工学研究科物理系専攻博士前期課
程修了
- 8. 3 大阪大学大学院基礎工学研究科物理系専攻博士後期課
程退学
- 8. 4 大阪大学助手基礎工学部
- 10.10 博士（工学）（大阪大学）
- 12. 5 大阪大学講師大学院基礎工学研究科
- 14. 4 大阪大学助教授大学院情報科学研究科
- 18. 8 スイス連邦工科大学ローザンヌ校客員研究員
(平19.4まで)
- 19. 4 大阪大学准教授大学院情報科学研究科
- 24. 4 大阪大学教授大学院情報科学研究科

所 属：大学院情報科学研究科情報システム工
学専攻ディペンダビリティ工学講座
専門分野：ソフトウェア工学、ディペンダビ
リティ工学

水 島 郁 子 (みずしま いくこ)

大学院高等司法研究科



【略歴】

- 平 4. 3 京都大学法学部卒業
- 6. 3 京都大学大学院人間・環境学研究科人間・環境学専攻
修士課程修了
- 9. 3 京都大学大学院人間・環境学研究科人間・環境学専攻
博士後期課程研究指導認定退学
- 9. 4 姫路獨協大学法学部講師
- 12. 4 姫路獨協大学法学部助教授
- 14. 4 大阪大学助教授大学院法学研究科
- 16. 4 大阪大学助教授大学院法学研究科附属法政実務連携
センター
- 19. 4 大阪大学准教授大学院法学研究科附属法政実務連携
センター
- 24. 4 大阪大学教授大学院高等司法研究科

所 属：大学院高等司法研究科法務専攻
専門分野：労働法、社会保障法

新教授紹介

永 井 健 治 (ながい たけはる)

大阪大学産業科学研究所



所 属：大阪大学産業科学研究所生体分子機能科学研究分野

専門分野：生物物理学、タンパク質工学、顕微光学

【略歴】

- 平 4. 3 筑波大学第二学部生物学類卒業
- 6. 3 筑波大学大学院農学研究科応用生物科学専攻修士課程修了
- 10. 3 東京大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻博士課程修了
- 10. 3 博士（医学）（東京大学）
- 10. 4 理化学研究所基礎科学特別研究員
- 13. 4 理化学研究所脳科学総合研究センター研究員
- 13.12 科学技術振興機構さきがけ研究者
- 17. 1 北海道大学教授電子科学研究所
- 24. 3 大阪大学教授産業科学研究所

吉 村 崇 (よしむら たかし)

ラジオアイソトープ総合センター



所 属：ラジオアイソトープ総合センター

専門分野：金融経済学、マーケット・マイクロストラクチャー

【略歴】

- 平 7. 3 北海道大学理学部化学第二学科卒業
- 9. 3 北海道大学大学院理学研究科化学専攻博士前期課程修了
- 12. 3 北海道大学大学院理学研究科化学専攻博士後期課程修了
- 12. 3 博士（理学）（北海道大学）
- 12. 4 群馬大学助手工学部
- 15. 4 大阪大学助手大学院理学研究科
- 19. 4 大阪大学助教大学院理学研究科
- 23. 6 大阪大学准教授大学院理学研究科
- 24. 4 大阪大学教授ラジオアイソトープ総合センター

訂正とお詫び

阪大 NOW No.130（平成 24 年 2 月号）掲載内容に一部誤りがありましたので、下記の通り訂正するとともにお詫び申し上げます。

P.37 「訃報」の『竹田義朗名誉教授（歯学部）逝去』タイトルおよび本文中

タイトル (誤) 竹田義郎 (正) 竹田義朗

1 行目 (誤) 竹田義郎 (正) 竹田義朗

P43 「職員インタビュー」小村愛美氏の所属名

(誤) 総合図書館利用支援課フロアサービス班

(正) 総合図書館利用支援課フロアサービス班



INTERVIEW

湯浅 一哉

高座名は「英楽亭MT」

工学研究科教務課留学生係主任

英語で落語を演じるという湯浅さんは普段、工学研究科で留学生対応を担当しています。英語落語を始めたきっかけや、その活躍について詳しくお話を伺いました。

■ 研修参加がきっかけ

工学研究科で、留学生の受け入れ、生活面のサポートが主な業務である湯浅さん。年間約 500 名の留学生を受け入れる工学研究科ではとても重要な役割を果たしている。

大阪大学の職員採用後から、英語能力の修得に関心の高かった湯浅さんは平成 21 年 4 月から LEAP（文部科学省国際教育担当職員長期研修プログラム）にて、文部科学省とアメリカでの 2 年間の研修プログラムに参加した。

研修当初から、現地で日本を紹介する機会があることを聞かれ、日本の紹介方法について考えるようになった。通り一遍のスライドを用いた紹介は自分の性に合わないと思い、落語の活用を思いつき、それが英語落語を始めるきっかけとなった。「それまで、落語をかじったこともなかったんですが、本当に単なる思いつきでした。」と振り返る。

■ アメリカで披露



研修 2 年目、モンタナ州立大学での研修中、地元の小学校で開催されたイベントで披露する機会がやってきた。スライドでプレゼンテーションをする他の職員と異なり、湯浅さんは「落語」で日本文化を紹介した。

演目は「まんじゅうこわい」。アメリカ人に分かるようにまんじゅうをケーキに置き換えて披露し、笑いを誘った。また、ノースカロライナ大学シャーロット校で大学生に披露した時はさらに大好評で、自信がついた。

■ 英楽亭との出会い

研修後も英語落語を深められないかと考えていたところ、大阪にある英語落語の活動サークル「英楽亭（えいらくてい）」の存在を知った。

月に 3 回の練習では、日ごろの個人練習の成果を披露する場となっている。年 2 回、寄席が開催され、20 人～30 人の観客を前に披露する。

英語落語の入り口が「英語」だった湯浅さんに対し、ほかの参加者の多くは「落語」が入り口であるため、湯浅さんにとって、落語の身振り、目線など基本的な所作を学ぶことが多い。「私の場合、台詞は暗記に頼るのではなく、言葉として自然な流れや置き換えなどができる点が長所かもしれません。日本語から英語に訳して覚えるのではなく最初から英語で覚えていきます。」お客さんの目も落語の腕を磨くうえで欠かせない。「日本語落語は、お客さんも目が肥えた方が多いので厳しいですが、英語落語はまだまだ人口が少ないので、お客さんのおおらかな雰囲気が自分にはありがたいです。（笑）」

■ 外国人のお客さんの前でも披露

観客が外国人だとまた雰囲気が変わるらしい。湯浅さんは「笑笑亭（らふらふてい）」という京都にある英語落語サークルにも参加している。京都という土地柄もあり、外国人の観客が多い。「笑笑亭に来られる外国人のお客さんの陽気なオーバー気味のリアクションが心地いいですね。」

昨年 11 月には、工学研究科の留学生向けバスツアーで小噺を披露した。

大変好評で、「いずれ留学生向けに落語を披露できたら」と考える湯浅さんにとっては手ごたえを感じた場面であった。



■ これから

自分の英語落語を通して、観に来てくれた人に笑顔になれる空間を提供できる、そして共有できるということで、個人的な趣味が多かった湯浅さんにとっては、落語は今までの趣味の枠を超えた存在になってきたという。

「お客さんと自分の間（ま）や空気を感じながら、作るということを心掛けていきたいですね。落語で扱う文化的背景をどう伝えるか苦労しますが、相手を自分の方に引き込むチカラは、仕事でも発揮できればと思っています。」

上海教育研究センターの一年を振り返って

上海教育研究センター長

古 川 裕

平成 23 年 3 月末をもって、初代の上海教育研究センター長・末永敏和・法学研究科教授が退任され、古川裕がその任を継ぎました。前センター長と同様に、学内本務先での授業と学内職務をこなしつつ出張ベースで現地に赴く形でのセンター長兼任となりますが、国際交流オフィスの強力なサポートを得て、センター運営を行っています。

■ 大学訪問

4 月にはセンター長任務の引き継ぎとして、下記の公的機関を表敬訪問しました。

- ・在上海日本国総領事館／大阪府・大阪市上海事務所／上海市人民政府僑務弁公室

海外拠点にとって、現地の教育機関、特に大学と高校を訪問するのは大切なミッションです。上海センターでは、下記の諸大学を訪問し、大阪大学の紹介を行って、本学のプレゼンス向上に努めてきました。

- ・上海地区：上海交通大学、復旦大学、同济大学、上海外国語大学、東華大学、早稲田大学上海教育研究センター
- ・南京地区：南京農業大学、東南大学、南京大学、南京航空航天大学、南京林業大学
- ・北京地区：北京大学、清華大学、北京師範大学、北京語言大学、北京外国語大学、北京日本学研究中心、中央民族大学、北方工業大学、中央広播電視大学
- ・東北地区：大連理工大学、大連外国語学院、東北財經大学
- ・その他の地区：雲南師範大学



中央民族大学にて（4 月 10 日）

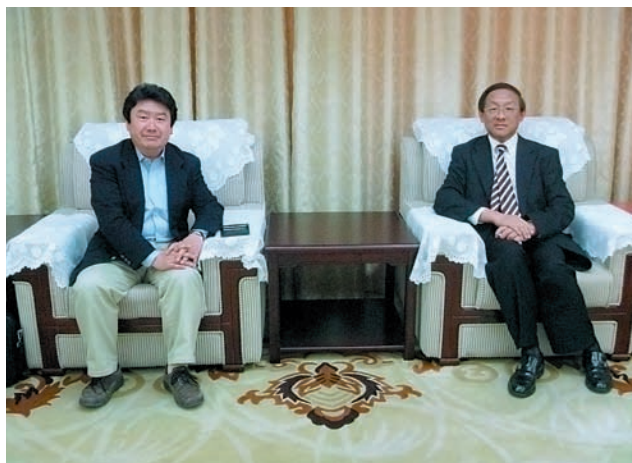


大連外国語学院にて（9 月 17 日）

■ 同窓会活動

同窓会の活動に参加し、現地の第一線で活躍する卒業生とのネットワークを開拓し、維持・拡大を進めることも、海外拠点のミッションです。グローバルビジネスの中心に位置する中国では、上海や北京など沿海先進地区にとどまらず、今や中国の各地で本学卒業生が活躍しています。また、外国語学部や言語文化研究科を中心として本学在学学生も数多く中国の大学や企業に留学やインターンシップで滞在しています。同窓会は卒業生と在学学生をつなぐ貴重な場でもあります。

上海教育研究センターでは、上海と北京で開催された同窓会に参加しました。特に 5 月 28 日と 10 月 15 日には上海教育研究センターを会場として、参加者それぞれが飲み物と食べ物を持参して進める立食パーティを行い、好評を得ました。



上海市人民政府僑務弁公室にて、蔡建国主任と（4 月 28 日）



咲耶会北京支部例会（8月13日）



咲耶会上海支部例会（5月27日）

■ 留学説明会

中国では欧米や日本などへの海外留学熱が高く、そのニーズに応じて数多くの留学説明会やフェアが開かれます。昨年前半は東日本大震災の影響で日本への留学が敬遠されたようですが、その後の留学説明会場はどこも熱気にあふれ、大阪大学ブースもいつも人気スポットになるのは、ありがたいことです。

上海教育研究センターは右記の留学説明会に参加しました。

- ・ 中国国際教育展日本留学フェア（10/15～16北京、10/22～23上海）
- ・ 希平会上海地区留学説明会（10/24華東理工大学、10/25南京大学）
- ・ 大阪大学カフェ（10/28大阪大学フォーラム）
- ・ 希平会東北地区留学説明会（11/1東北大学、11/3吉林大学、11/4東北師範大学）
- ・ 希平会大連地区留学説明会（3/10大連理工大学、3/11大連外国語学院）
- ・ 上海教育研究センター主催公開シンポジウム&留学ガイダンス（3/24上海教育研究センター）



留学説明会での大阪大学ブース（10月15日、北京）



留学説明会での大阪大学ブース（10月24日、上海）

■ 大阪大学フォーラム

10月27～28日の二日間、ホテル日航上海を会場として、大阪大学フォーラム2011「防災・減災・災害復興と国際協力ー日中の経験に学ぶ」が開催され、盛会となりました。フォーラムの閉幕後は、「大阪大学カフェー教授と話そう」と称してミニ留学説明会を開きました。



大阪大学フォーラム会場にて（10月28日）

平成23年度大阪大学「学生海外研修助成事業」報告会開催

この事業は、本学学生の積極性と企画力・実行力の向上を目的として、自らの企画により海外で交流・研修活動を行うグループを支援するために平成14年度から実施されているもので、本年度は4件の研修計画が採択されました。1月18日(水)にICホールにて報告会が開催され、学生及び教職員約20名が出席し、研修成果や海外での交流体験等についての報告と活発な質疑応答が行われました。

また、2月6日(月)には、総長室で各グループが、高橋明理事・副学長、阿部顕三理事・副学長、菊野亨国際教育交流センター長同席のもと、平野総長に報告しました。各グループとともに緊張した面持ちで研修成果の報告や大阪大学への提案を行いました。報告内容に関する質疑応答の後、総長から各グループに対して、今回の研修成果を無駄にせ

ず、後に続く者のために広報に努めてほしいと激励の言葉がかけられました。



ストックホルム・ハマルビー地区における再開発事業とステークホルダーの関わり(スウェーデン スウェーデン王立工科大学)

工学研究科M2 中野 舞、小橋明奈
M1 岡崎沙織

近年、問題視されている大阪での低未利用地の再開発の現状を踏まえ、世界の再開発事例の中で高い評価を受けているストックホルム・ハマルビー地区へその成功要因を探りに行った。期待通りの行政のイニシアチブの現状が見られたのと同時に、日本とスウェーデンにおける人々の意識の違いを発見することが出来た。日本においても積極的な行政のリーダーシップにより、一般の人々の意識を上げることが必要だと感じた。



多民族国家ブラジルにおける法務通訳・翻訳について(ブラジル・サンパウロ大学・リオデジャネイロ州立大学)

法学研究科M2 岩井智美
法学部4年 福田友紀子、中原しおり

我が国の法務通訳・翻訳の問題と比較検討すべく、移民国家であるブラジルの現状を調査してきた。通訳人、翻訳人に止まらず、判事、元検事、弁護士、警察官、入国管理官といった通訳のユーザー側にも聞き取りをし、翻訳については日本にない公証翻訳の制度について調査をした。公証翻訳は厳格であったが、その他の通訳については日本より緩やかな運用がなされているにも関わらず問題がないということで、学ぶべき点があると感じた。



ケニアにおける保健医療を学ぶ(ケニア・ウジマ財団)

医学部4年 村尾 麻衣、磯野 友美、甲良 謙伍、西山 祐輝

HIV/AIDS 対策が効果を上げているケニアにおいて、その現状と対策を学び、発展途上国の保健医療を学ぶことを本研修の主な目的とした。

ケニアの医療体制は住民に近いコミュニティから国レベルまで6つのレベルに分けられており、全てのレベルの施設を見学した。地方部が中心のレベル1～3までは、医師の偏在と不足の現状に適したシステムとなっていた。国内の至る所には VCT (Voluntary Testing & Counseling) という施設が設置しており、誰もが気軽に無料で HIV 検査を受けられるなどの様々な工夫がなされていた。本研修で、ケニアの保健医療を学ぶと同時に、日本での AIDS 対策の不足を再認識し、地方部と都市部の格差を知ることによって地域医療への関心も高められ、今後の医学の勉強に対する意欲がさらに高まったと思う。研修を支えて下さった全ての方々に深く御礼を申し上げたい。



Work to live? Live to work? 日本・オランダの“働く”を巡る問題の解決に向けて(オランダ・グローニンゲン大学)

法学部4年 松本健太郎 (他14名)

第2回日蘭学生会議をオランダのグローニンゲン大学で実施し、“Work-Sharing and the Working Poor/Unemployment”など4つのトピックについて、プレゼンテーション・ディスカッションを行った。また在オランダ日本国大使館の肥塚隆大使らによる講義を受け、両国の歴史的関係の深さ、EUを取り巻く経済的・政治的問題について学び、オランダ最大手銀行のABN-AMRO Bank、オランダで働きやすさNO.1に2度選ばれたIT企業Macaw等、5つの企業・機関を訪問してflexibleな労働環境を学んだ。帰国後、学内と学外において報告会を兼ねたディスカッションフォーラムを開催し、日本の社会人を交えて同テーマについて議論を行なった。

2012年夏に第3回会議を大阪大学にて開催する事が決まっており、現在は、テーマ設定や資金面での準備を行っている (<http://jnsc2010.wordpress.com>)。



ライス大学

Rice University



ライス大学 (Rice University) は、アメリカ合衆国テキサス州ヒューストン市にある私立総合大学です。工学、理学、建築、経済、人文、社会科学、音楽など7つのスクールで構成されており、建築学や物理・工学分野ならびに音楽分野で特に高い評価を得ています。1912年に創立され、今年で100周年を迎える同大学は、学生数約6,500人（学部4,500人、大学院2,000人）で、教授1人あたりの学生数が少なく、少数精鋭制で優れた教育をおこなっています。US ニュース & ワールド・レポート誌のランキングでは総合大学17位（2011年）、キプリンガー・パーソナル・ファイナンス誌では、Princeton 大学、Yale 大学、Caltech と肩を並べて、アメリカで最も価値ある大学教育を行う大学の一つに選ばれるなど、南のハーバードとの異名があります。

研究レベルも非常に高く、ロバート・W・ウィルソン（物理学）、ロバート・カール（化学）、リチャード・スモリー（化学）の3名のノーベル賞受賞者を輩出しています。1993年に世界で初めて、Center for Nanoscale Science and Technology を設立し、ナノ科学分野を創成・牽引してきました。

現在の学長デビッド・W・リーブロンは、ハーバード大卒、コロンビア大学ロースクール学部長を経て、2004年よりライス大学学長（当時48歳）に就任しています。強いリーダーシップにより、学生を30%増加し、現在では90カ国からの学生が在籍するグローバル大学へと発展させました。



我々は、同大学河野淳一郎教授、ダニエル・ミトルマン教授と研究分野が同じで、交流を始めました。河野教授は2006年



以来、米国科学財団（NSF）のグローバル人材育成プログラム“NanoJapan”の代表を務め、毎年全米の大学から優秀な学部生（16名）を選別し、日本の大学で、ナノ科学に関するインターンシップを実施してきました。本校でも、毎年受け入れています。ナノ科学を生み出したライス大学から日本のナノ科学を体験するグローバル人材育成のプログラムが採択されていることに、米国の大きさがうかがえます。5年のプログラムが終了し、極めて高い評価を得て、2011年、大型の研究・教育プログラムへとアップグレードされました。新しいプログラムは、グローバル化に対応して、新しい研究分野“テラヘルツナノ科学”の開拓と教育を一体に推進するもので、我が国も見習うところがあります。これを機に、今回、協力関係を強化することになり、リーブロン学長が2011年10月18日に来日し、大学間協定が無事締結されました。今後は、様々な分野での交流が期待されます。

大学 HP : <http://www.rice.edu/>

紹介者：斗内政吉（大阪大学レーザーエネルギー学研究センター テラヘルツフォトンクス分野）

E-mail: tonouchi@ile.osaka-u.ac.jp

編集後記

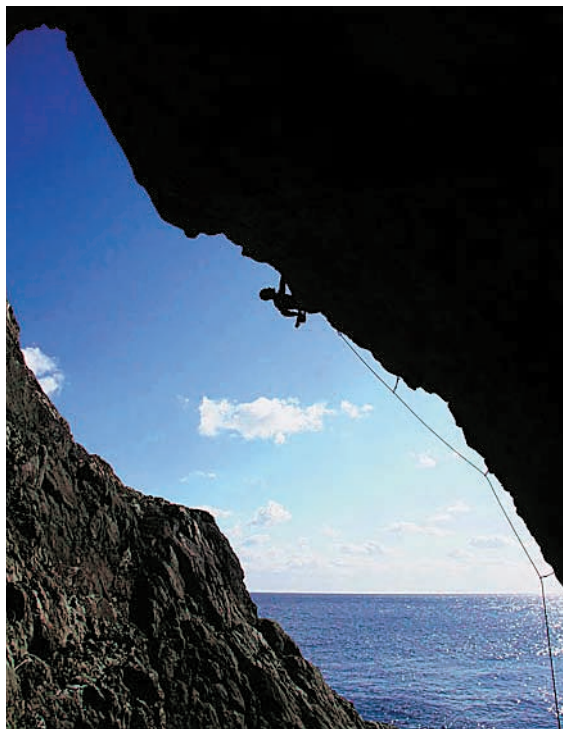
今年は肌寒さの残るなか新年度を迎えましたが、4月も半ばに入るとキャンパス構内には桜吹雪が舞い、春らしい光景が見られるようになりました。このたび吹田キャンパスに異動となり、初めて同キャンパス内を散策しました。すると、なんと桜スポットの多いこと！犬飼池周辺をはじめ、思わずカメラのシャッターを押したくなるポイントがたくさんありました。建物の中にいるだけでは知ることのできない、大阪大学の一面です。

今号より阪大 NOW の編集を担当することになりました。「大阪大学のいま」について、分かりやすく読者の皆様にお届けできるよう努めたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。（加賀）



山岳部

クライマー求む！！



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！大学生生活の柱の1つ“部活”はもう決まりましたか？私たち山岳部は今流行の「フリークライミング」を中心に活動しています。

この春には吹田キャンパスの体育館内にクライミングウォール、通称“阪大 Wall”が誕生しました！！横幅；約11m、高さ；約4.5m、最大傾斜；120°という圧倒的なスケールを誇るこの壁には初心者から楽しく登れる様々な課題がセットされています。活動としては、平日にはこの阪大 Wall やクライミングジムへ行き、週末や長期休暇には



岩場に行ってクライミングを楽しんでいます。

『でも、筋力とか自信ないし自分にはちょっと…』って思ってるあなた。大丈夫です！！クライミングは筋力だけで登るものではありません。現に小さい子供や女性の方、お年を召した方までクライミングを楽しんでらっしゃいます。クライミングは登れば登るほど上手くなります。部員もみんな大学からクライミングを始めました。

苦勞して自分の体一つで目の前にそびえる岩のその頂点に立ったとき、そこから見る景色はまさに「絶景」です！

クライミングの他にも随時ハイキングやBBQを企画していきます。OB・OGのサポートも厚く、希望者は長期休暇に3000m級の本格的な山に登ることも可能です。

何か新しいことをやってみたい人、高いところが好きな人、少しでも面白そうと思った人、ぜひ一度体験しに来てください。絶対に後悔はさせません！！



主将 角谷 勇輔（文2回生）

〈コメント〉

4月よりクライミングウォールが阪大にできました。自らの身体のみを使って岩壁を登るクライミングの楽しさは言い表すことが出来ません。興味を持たれた方は是非練習を見に来て下さい。



練習場所：吹田キャンパス体育館 2F、クライミングジム
練習日時：月・水・金 17：30～20：00
部員数：新4回生 4名／新2回生 1名
連絡先：主務 西村俊輝 医学部4回生
veni_vidi_vici1028@yahoo.co.jp
<http://handai climber.blog.fc2.com/>

トピックス

大阪大学「グローバルな公共倫理とソーシャル・イノベーション（稲盛財団）寄附講座」設置のための寄附金贈呈式開催

国際公共政策研究科は、公益財団法人稲盛財団から寄附を受け、本年4月から国際社会で活躍できる人材育成を目的とした「グローバルな公共倫理とソーシャル・イノベーション（稲盛財団）寄附講座」を設置しました。

それに先立ち、2月28日（火）午後3時から中之島センターにおいて贈呈式を開催しました。

当日は、同財団から稲盛和夫理事長を始め忽那武範理事・事務局長、木越清彦理事等にご出席いただき、本学からは、平野俊夫総長、東島 清、阿部顕三、相本三郎、高橋 明の各理事・副学長、関係の各研究科長、関係教員の他ほか、本寄附講座の教育に参画する蔵中三十二特任教授（前外務省事務次官）らが出席しました。

贈呈式の冒頭、稲盛理事長から「昨年3月に起こった東日本大震災は、危機的状況下における日本国民の倫理観を、我々に対して改めて問うものとなりました。また、その後の福島原子力発電所の事故は、これまでの科学技術偏重の社会のあり方に大きな疑問を投げかけました。このような時にあって、大阪大学で学ばれる若者達が、専門性を追求しながらも、公共倫理にも配慮した横断的視点を持ちながら、社会を変革し、未来を構築するリーダーとして、様々な事態の解決に向けて学ぶ機会を得ることは、まさしく時宜を得たものと考えており、本講座における取り組みが、現代の諸問題に解を見出し、その解決に向けて社会全体を力強く導くものと考えています。」とご挨拶をいただきました。

続いて、平野総長から「本学では、これまでも数多くの

寄附講座を受け入れ運営をしてきましたが、そのほとんどは理系分野でした。今回の稲盛講座は、きわめて公益性の高い目的の教育・研究・人材育成にご支援を賜るというものであり、寄附講座本来の趣旨に沿ったものとなっています。大学は科学技術の最先端を生み出す場ではありますが、同時にこうした科学技術が社会にどのようなインパクトをもたらすのか、文理の壁を超え、さらに文明論的な視点も盛り込んで検討する場でもあります。今回、本寄附講座のお陰でそうした研鑽の機会を作れましたことを、たいへん嬉しく思いますとともに、本講座の成果は、学内のみならず、広く社会にも還元していきたいと思っています。」と謝辞が述べられました。

次に、国際公共政策研究科星野俊也研究科長から今回設置される稲盛講座の概要説明があり、最後に、稲盛理事長から平野総長に目録が、平野総長から稲盛理事長に感謝状がそれぞれ手渡され、贈呈式は、恙無く閉式となりました。

その後、会場を交流サロンに移し、贈呈式出席者を始めマスコミ関係者も含め、引き続きレセプションを開催しました。

レセプション冒頭には、東島理事・副学長の挨拶、発声でこの寄附講座の新たな船出を祝いました。

短い時間にもかかわらず会場内では、稲盛理事長と本学関係教員が気さくに話をされ、また、マスコミ関係者の方々が関係教員に取材するなど非常に和やかな雰囲気となりました。

（国際公共政策研究科）



稲盛理事長による挨拶



平野総長による謝辞



平野総長から稲盛理事長に感謝状を贈呈

阪大NOW No.131 2012 4月号

2012年4月20日発行

編集 大阪大学広報・社会学連携オフィス
発行 大阪大学広報・社会学連携オフィス広報課 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-1
TEL: 06(6879)7017 FAX: 06(6879)7156
ホームページアドレス <http://www.osaka-u.ac.jp/>

「阪大 NOW」へのご意見、お問い合わせにつきましては、下記までお寄せ下さい。

E-mail: ki-kousyagaku-kouhou@office.osaka-u.ac.jp